専門委員会
平成26年度　課題研究報告

学生の自己成長感を保障する保育実習指導のあり方
－平成26年度調査報告から－

発表者　脇　　信明（西南女学院大学短期大学部）
鷲見　裕子（高田短期大学）
朴　　淳香（鶴見大学短期大学部）
亀﨑　美沙子（十文字学園女子大学）
委員長　上垣内　伸子（十文字学園女子大学）

はじめに

- 2011年

保育士養成 **改正カリキュラム**の運用開始

▼

- 教科目の再編・名称や内容の変更
- **保育実習の単位の変更**

保育実習におけるカリキュラムの変化

旧カリキュラム	改正カリキュラム
保育実習 （**実習指導**含む） **5**単位	保育実習Ⅰ　**4**単位 **保育実習指導Ⅰ**　**1**単位
保育実習Ⅱ又はⅢ ２単位	保育実習Ⅱ又はⅢ ２単位 **保育実習指導Ⅱ又はⅢ**　**1単位**

保育実習カリキュラム改正のポイント

- 実習の事前事後指導の充実
- 事前事後指導による学びの強化
- 実習における効果的学習を行う

実習および実習指導の
充実化が求められている！

はじめに

- カリキュラム改正から5年経過した今、
  実習の充実化は実現できているのだろうか？

- **実習指導の実効性の把握が必要である**

報告の概要

- 第1部・・・保育士養成における実習指導
- 第2部・・・調査の概要と実習指導の実態
- 第3部・・・実習を通した学生の成長感
- おわりに

第1部 保育士養成における実習指導

➡保育実習の特質は何か？

２つのアプローチ

保育実習の変遷（歴史的経緯）　・・・第1章

他の対人援助職との実習システムの比較・・・第2章

保育実習の意義と変遷・・・保育実習とは

- 保育実習の規定「保育実習実施基準」

改正の主旨は・・・

- 実習指導の責務がより重いものに
- 保育士の資質も高いものが要求された
- 実習施設種の拡大

保育実習の意義と変遷・・・保育実習とは

- カリキュラムの改正（2011年）と保育実習

▷ポイント

- ①実習および実習指導の単位数の変更
  事前事後指導の充実による学びの強化と効果的学習

- ②保育実習Ⅰにおける実習受け入れ施設の範囲や要件の見直し
  実習先確保への対応

保育実習の意義と変遷・・・保育実習とは

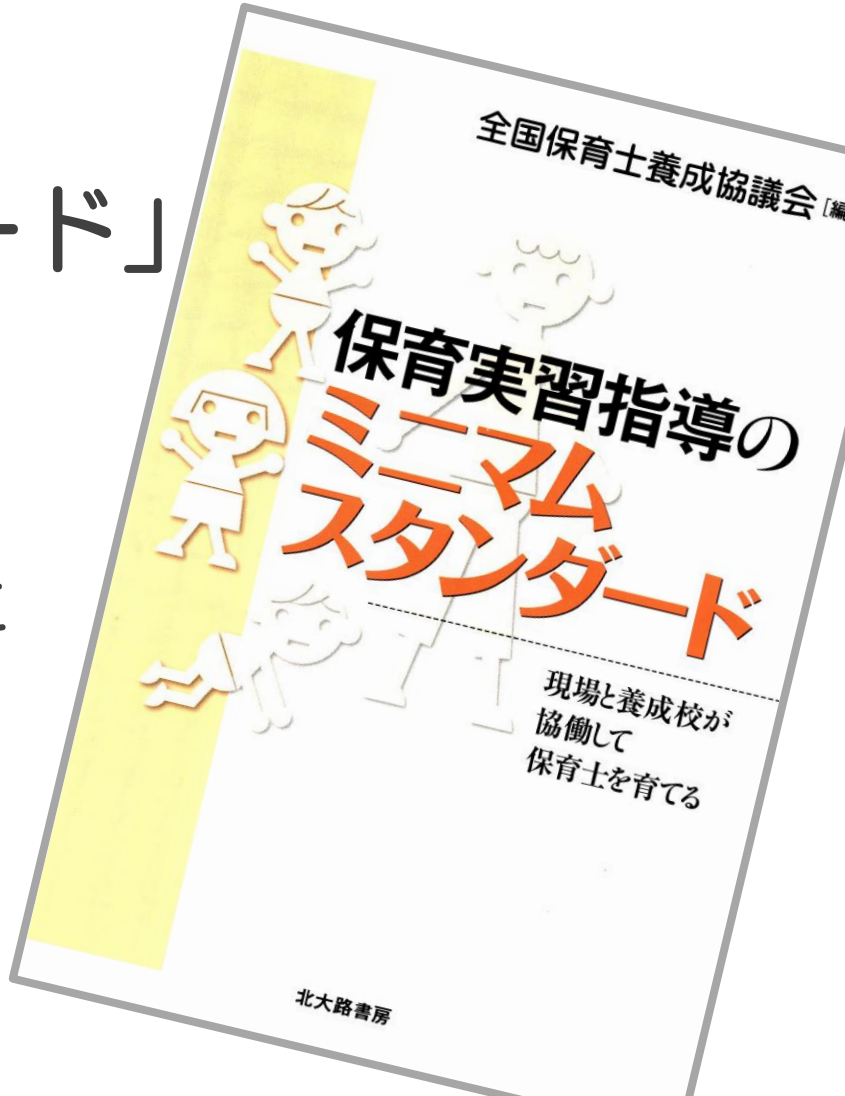
- カリキュラムの改正（2011年）と保育実習

▷今後の課題

- (1)保育実習の位置づけを高める効果的な学習
- (2)実習の長期化やインターンシップを検討

保育実習の意義と変遷・・・保育実習とは

- これまでの専門委員会の研究
  「保育実習のミニマムスタンダード」
  - 発刊より8年が経過・・・
- 発刊後にカリキュラム改正が行われた



保育実習の意義と変遷・・・保育実習とは

現行カリキュラムが完成年度を昨年度迎えた

- 養成の要である「保育実習」と「保育実習指導」は
  どのように実施されているのであろうか？

- 「学生の自己成長感」を
  保育実習指導を検討する軸の一つに

➡保育実習の特質は何か？

２つのアプローチ

保育実習の変遷（歴史的経緯）　・・・第1章

他の対人援助職との実習システムの比較・・・第2章

近接領域の専門職養成と実習および実習指導について
近接領域との比較

- 比較した近接領域の専門職
  - 社会福祉士
  - 介護福祉士
  - 管理栄養士

保育士養成課程と
実習の現状や
実習指導のあり方を比較

厚生労働省所管の国家資格であり、かつ専門性を持つ対人援助職である職種であるとともに、保育現場と密接な関連をもち様々な養成ルートを持つもの

＊報告書Ｐ21～比較の一覧が掲載されています

社会福祉士

- 社会福祉士養成の実習は・・・
  - 実習指導担当教員等の要件を明確化
  - 実習施設側も指導者講習会を受講すること
  - 職能団体が「実習生受け入れのテキスト」を作成
  - 実習指導や評価表の全国統一ガイドラインを作成

介護福祉士

- 介護福祉士養成の実習は・・・
  - 実習施設側の指導者側にも講習を受講する義務
  - 実習担当教員による訪問指導を週に1回以上を実施
  - 厚労省が作った養成団体と職能団体へ向けた「実習チェックシート」を使用している

管理栄養士

- 管理栄養士養成の実習は・・・
  - 基礎資格となる栄養士の実習と管理栄養士の実習
  - 実習施設は複数箇所でも一カ所でも選択可能
  - 養成団体と職能団体による実習のマニュアルの共作
  - 事前指導に「自然災害時の対応」という項目

近接資格と比較した保育士養成の実習の課題
近接領域の対人援助職における社会的役割の変化と実習の重要性

３つの職種に共通

- 高い専門性と社会的役割をもった対人援助職養成として共通的に重要視されているもの

実習の充実化

- 実習内容を充実することに取り組んでいる
- 実習指導体制の確立に力を入れている
- 実習の全国的な「共有化」や「標準化」を行っている

３つの職種からみた保育士養成の実習の課題
-事前事後指導に着目して-

保育士養成の実習指導では・・・

- 「保育者基礎力」（読み書き・マナー・身だしなみ・態度等）を育てることは、養成校の大きな役割の一つ
- また、保育現場も同様の考えを持っている

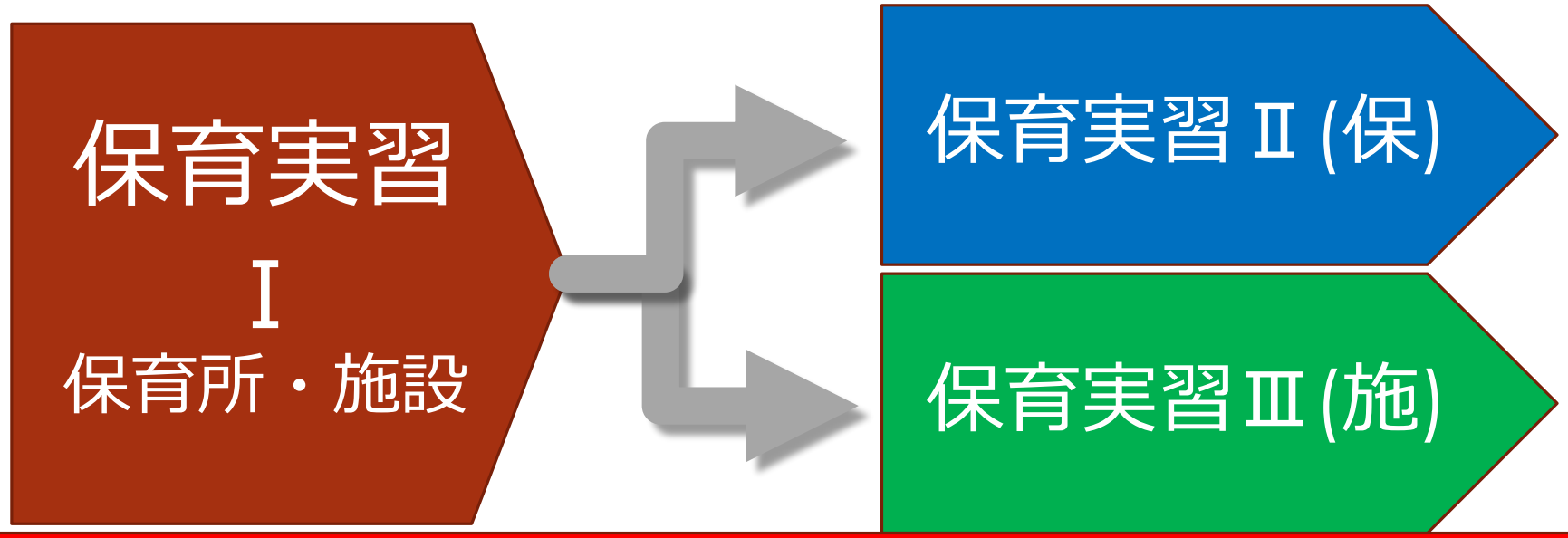
本来の指導の内容の充実より
基礎力育成を優先する

- 平成24-25年度専門委員課題研究報告
  「保育士の専門性についての調査」

３つの職種と比較した保育士養成における実習システムの特質

保育士養成における実習システムの特質とは何か？

➡段階的に展開する実習プログラムを有する点

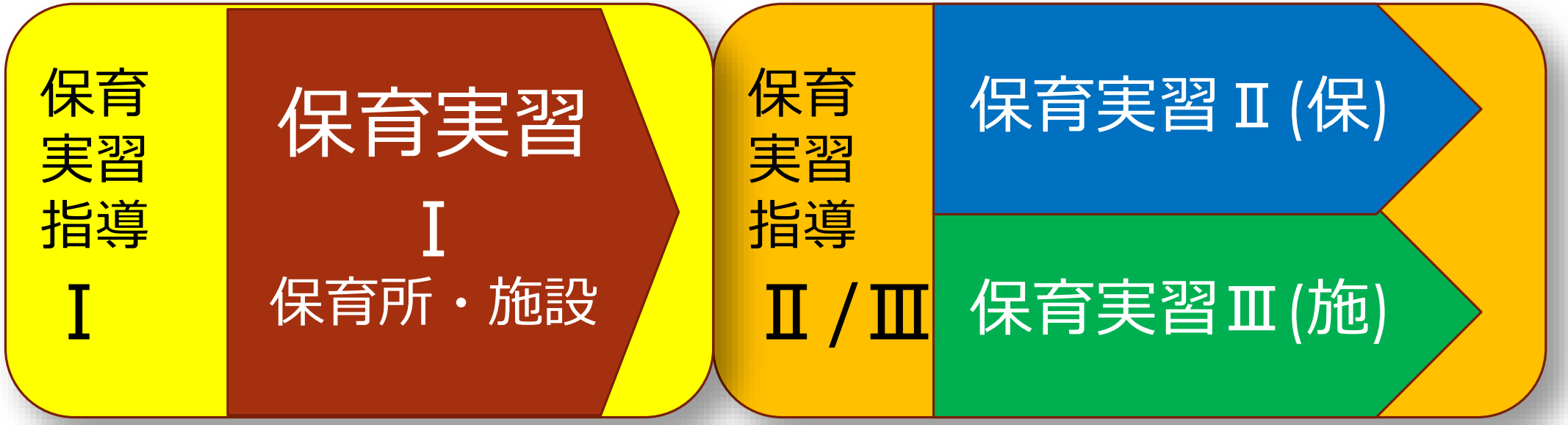


段階的にステップアップする実習システム

３つの職種と比較した保育士養成における実習システムの特質

このような特質を持つ保育士養成の実習プログラム

- それを指導するための「**保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ**」はどのように行われているのか？



３つの職種と比較した保育士養成における実習システムの特質

- 「保育実習指導」は
  どのように行われているのか？
- 養成校教員はどのように
  学生の自己成長感を捉えているのか？
- 「保育実習指導」の充実化に向けた調査

第２部
調査の概要と実習指導の実態

調査の概要と実習指導の実態

27～

- 第１章　調査の目的および方法
- 第２章　回答者の属性について
- 第３章　実習指導体制について
- 第４章　実習指導の授業内容
- 第５章　保育実習非担当教員の実習への関与

＜報告順序＞

第1章 → 第2章 → 第3章 → 第5章 → 第3章 → 第4章

第1節　　第2-3節

第１章
調査の目的および方法
（報告書P.27～29）

調査の目的および方法
調査の目的

- 調査の名称

「保育実習指導の充実化に向けた調査＜保育実習担当教員用＞」

「保育実習指導の充実化に向けた調査＜保育実習担当以外の教員用＞」

- 調査の目的

「保育実習指導Ⅰ」と「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」の指導内容の連続性および階層性に着目

“学生の自己成長”を実習指導を検討する軸の一つに

①養成校における保育実習と実習指導の充実を図るために、教員が学生の実習に関わる過程においてどのような実習指導を行っているのか

②学生の自己成長をどのようにとらえ指導内容に反映させているのか

調査の方法

➡調査対象

全国保育士養成協議会に所属する保育士養成施設511校のうち、平成26年度には最上級学年のいない22校を除いた489校。

保育実習担当教員および保育実習担当以外の教員で、現在の養成校に2年以上在籍している教員。１施設各1名。

➡＜保育実習担当教員用＞

保育実習指導科目を担当する専任教員。

現在の養成校に2年以上在籍している教員。

➡＜保育実習担当以外の教員用＞

保育実習指導科目を担当していない専任教員。

現在の養成校に2年以上在籍している教員。

調査の方法

➡調査内容

	保育実習担当教員用	設問数	保育実習担当以外の教員用	設問数
パートA	実習指導や実習指導体制について	19	養成校での勤務経験・担当科目等について	14
パートB	実習指導の実際について	18	保育実習とのかかわりについて	6
パートC	学生の成長について	2	学生の成長について	2
パートD	実習指導における工夫について	1	実習を意識した授業の工夫について	1

調査の方法

➡調査の実施方法

質問紙配布ー養成校に実習担当教員･非担当教員用各１通を郵送配布
質問紙回収ー各教員が封入した回答を郵送で直接回収

➡調査期間

平成２７年２月～３月

➡回収率

	発送数	回収数	回収率	分析対象
養成校	４８９校	２８７校	５８．７%	
実習担当教員		２８６名	５８．５%	２８３名
非担当教員		２７２名	５５．６%	２７１名

第2章
回答者の属性について
（報告書P.30～39）

回答者の属性について

所属校の概要

- 校種
- 所属ブロック
- 学生定員

※担当教員回答

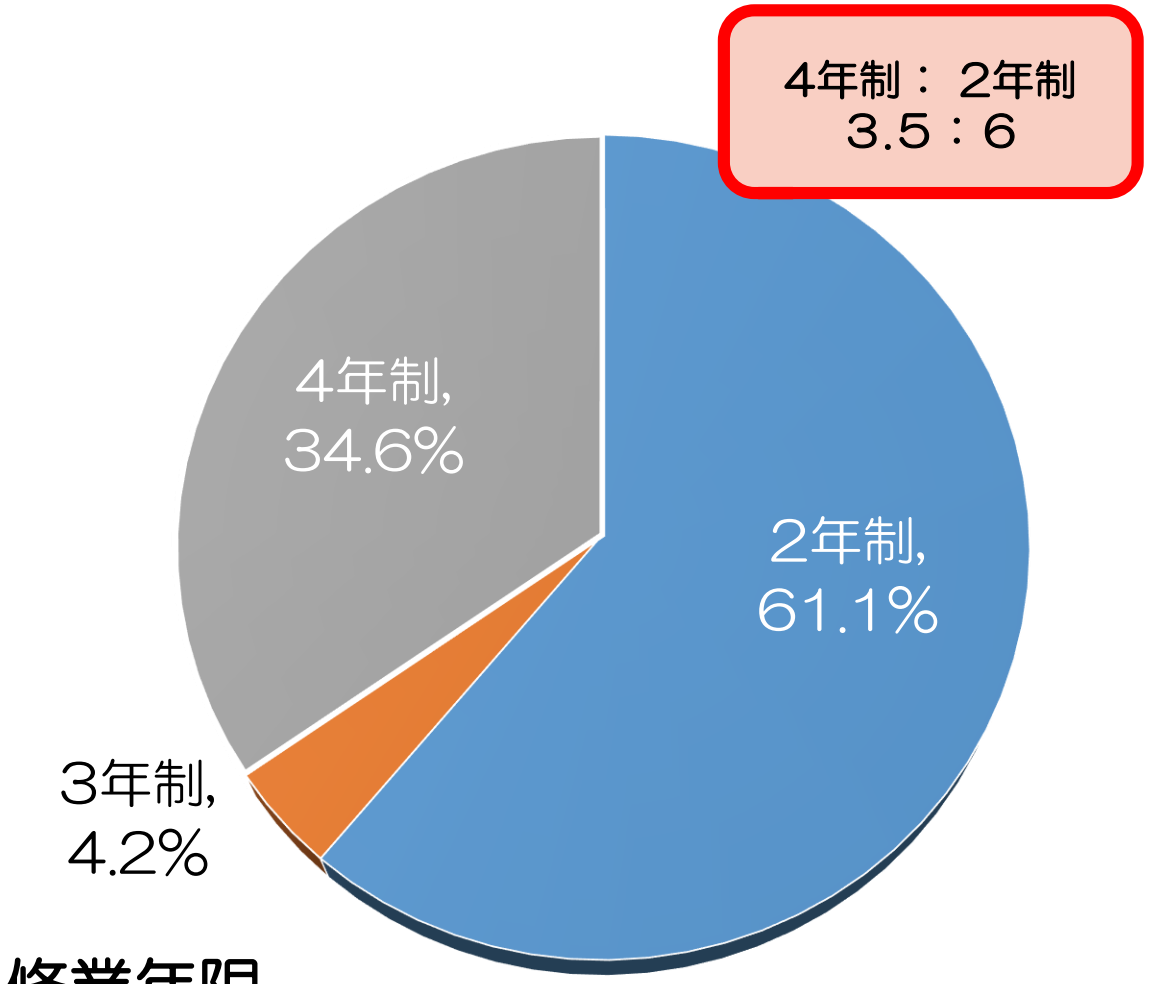
担当教員の属性

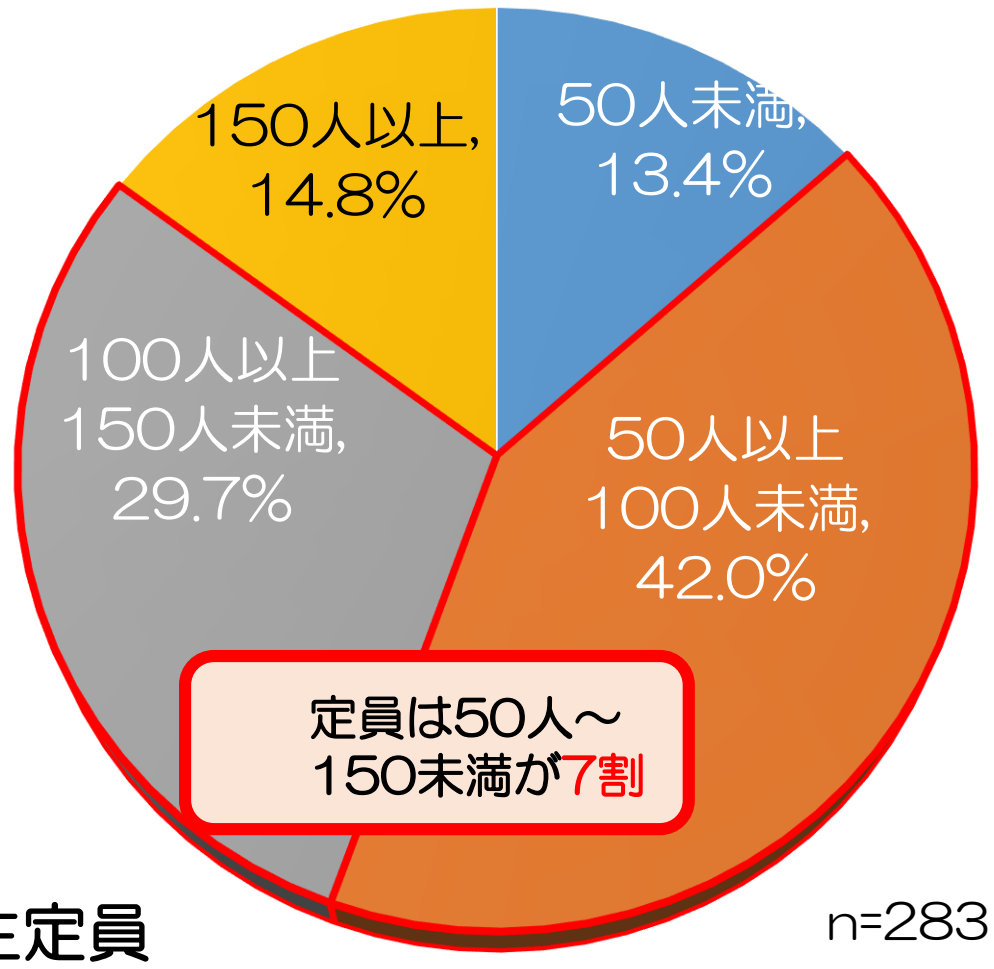
- 年齢
- 専門分野
- 養成校での勤務年数
- 実習指導経験年数
- 担当実習指導

非担当教員の属性

- 年齢
- 専門分野
- 養成校での勤務年数

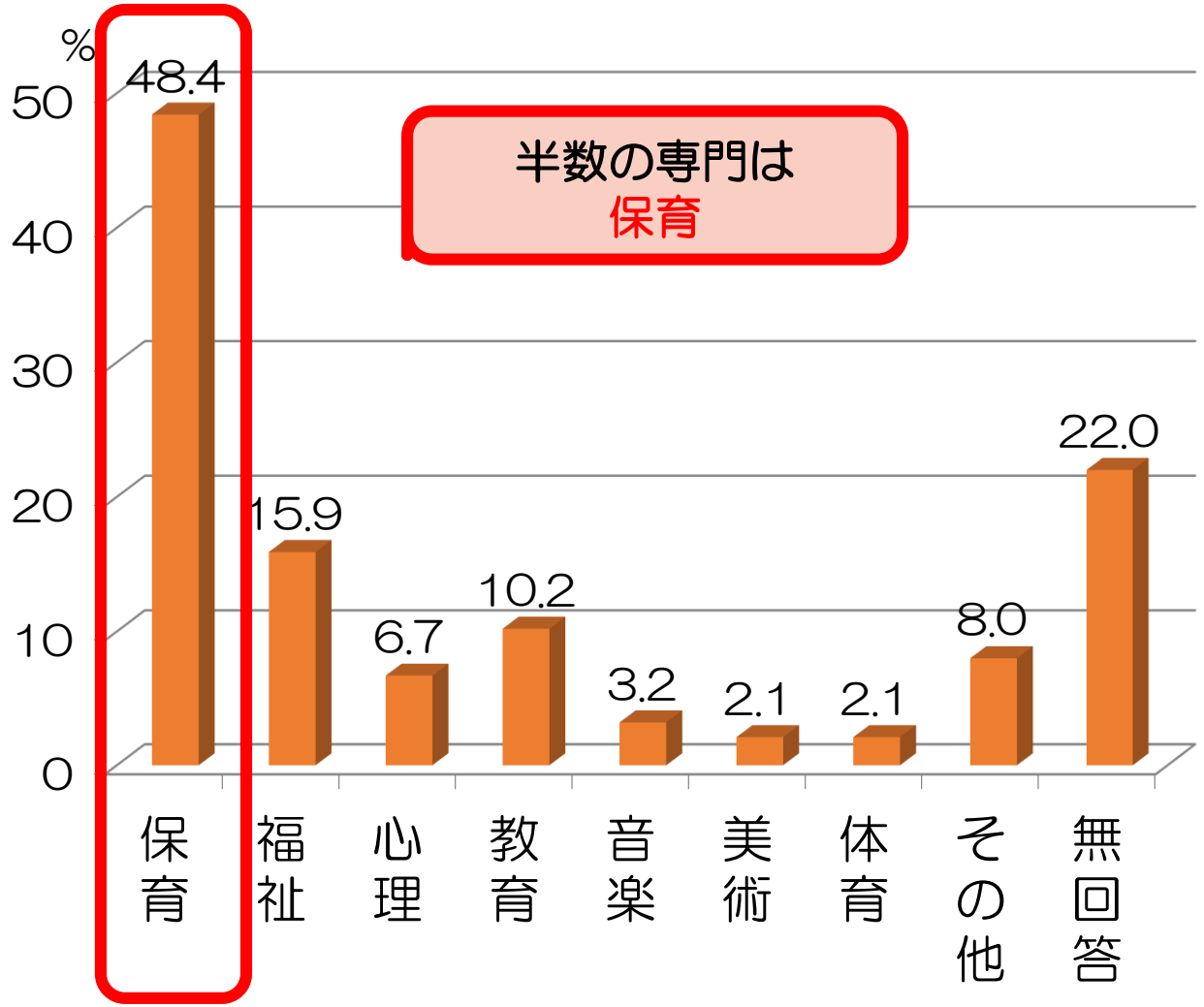
所属する養成校の概要
修業年限と学生定員



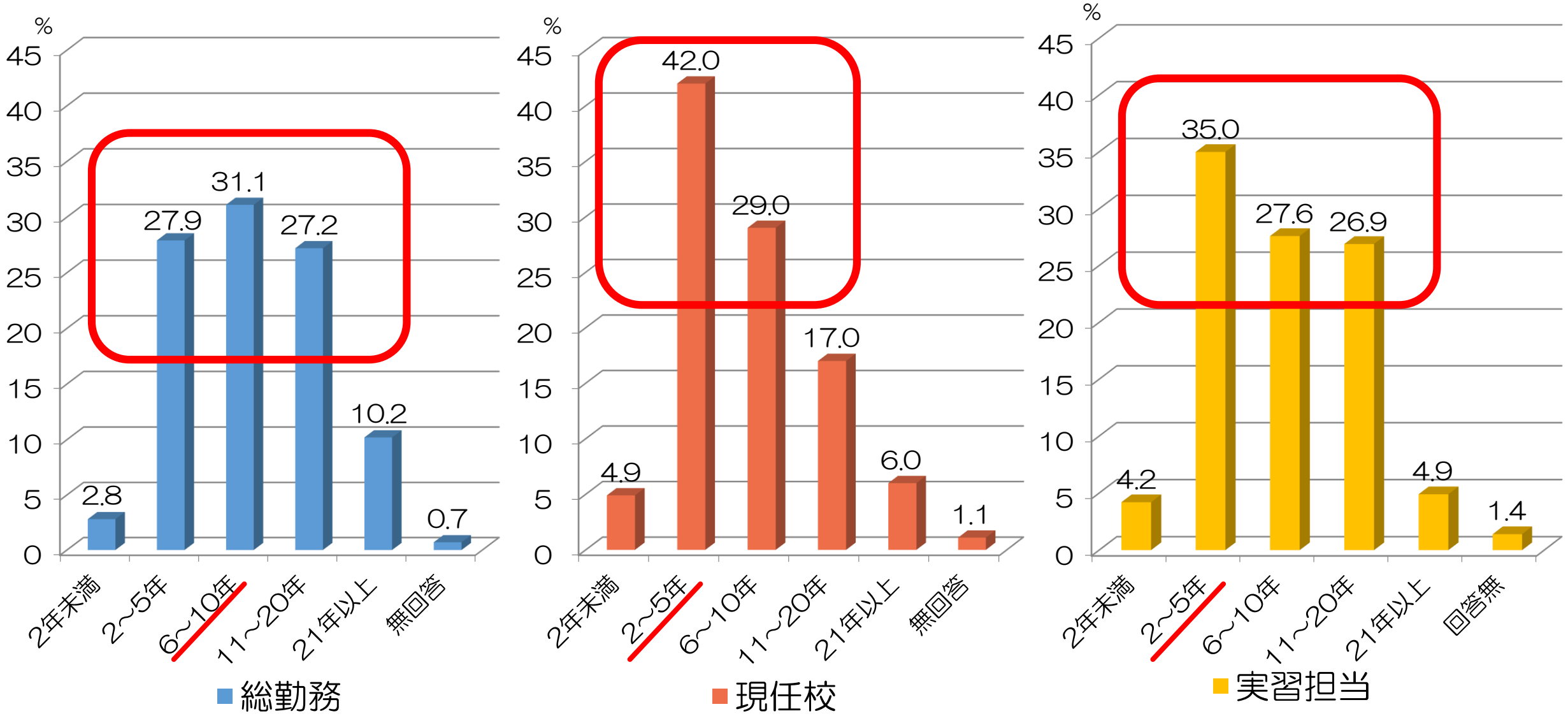


回答者の属性
年齢と専門分野 ―担当教員―

年齢	回答数	%
30歳代	54	19.1
40歳代	74	26.1
50歳代	84	29.7
60歳代	62	21.9
70歳以上	7	2.5
無回答	2	0.7

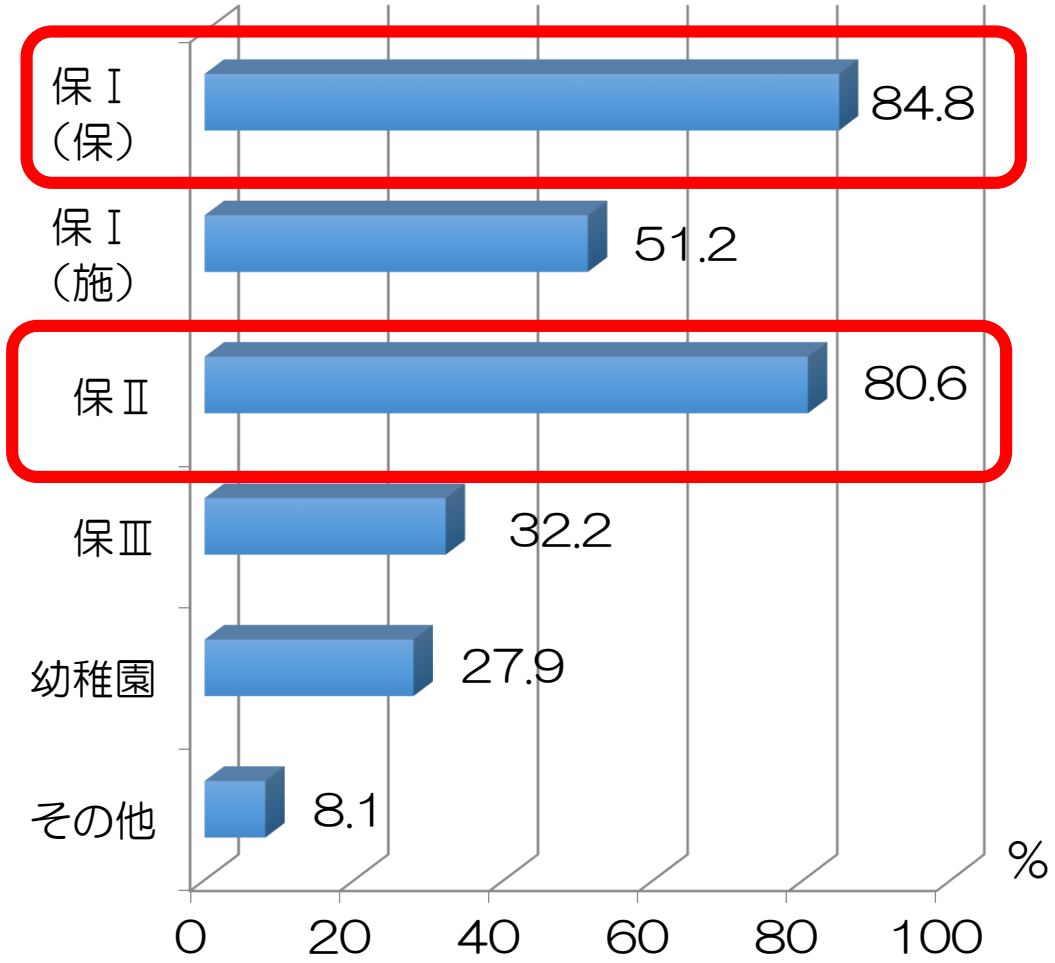


養成校での勤務年数（総勤務・現任校）と実習担当年数 ー担当教員ー



担当する実習指導について ー担当教員ー

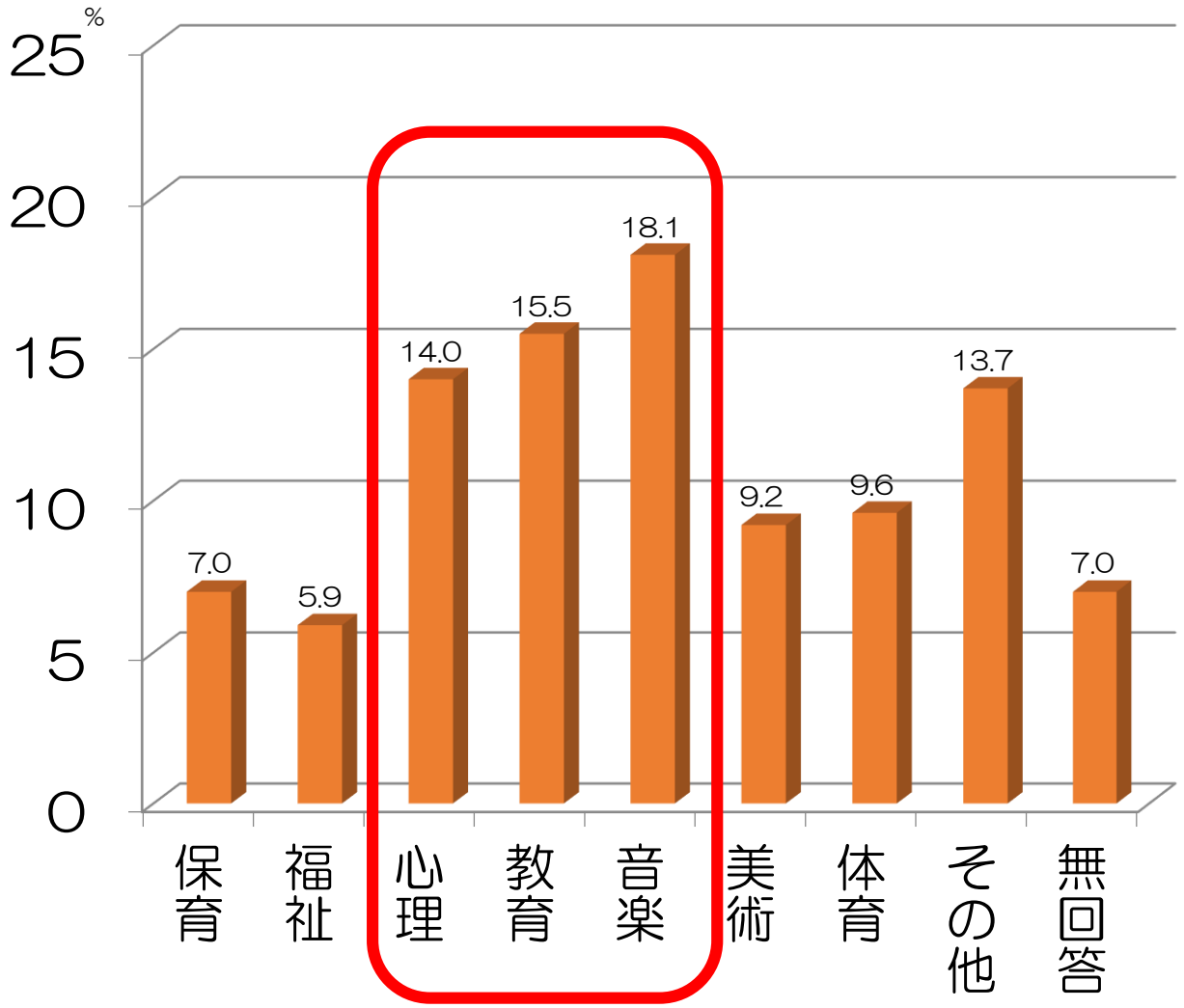
担当科目数	人数	%
1科目	１８	6.4
2科目	119	42.0
3科目	61	21.6
4科目	60	21.2
5科目	24	8.5
6科目	1	0.4



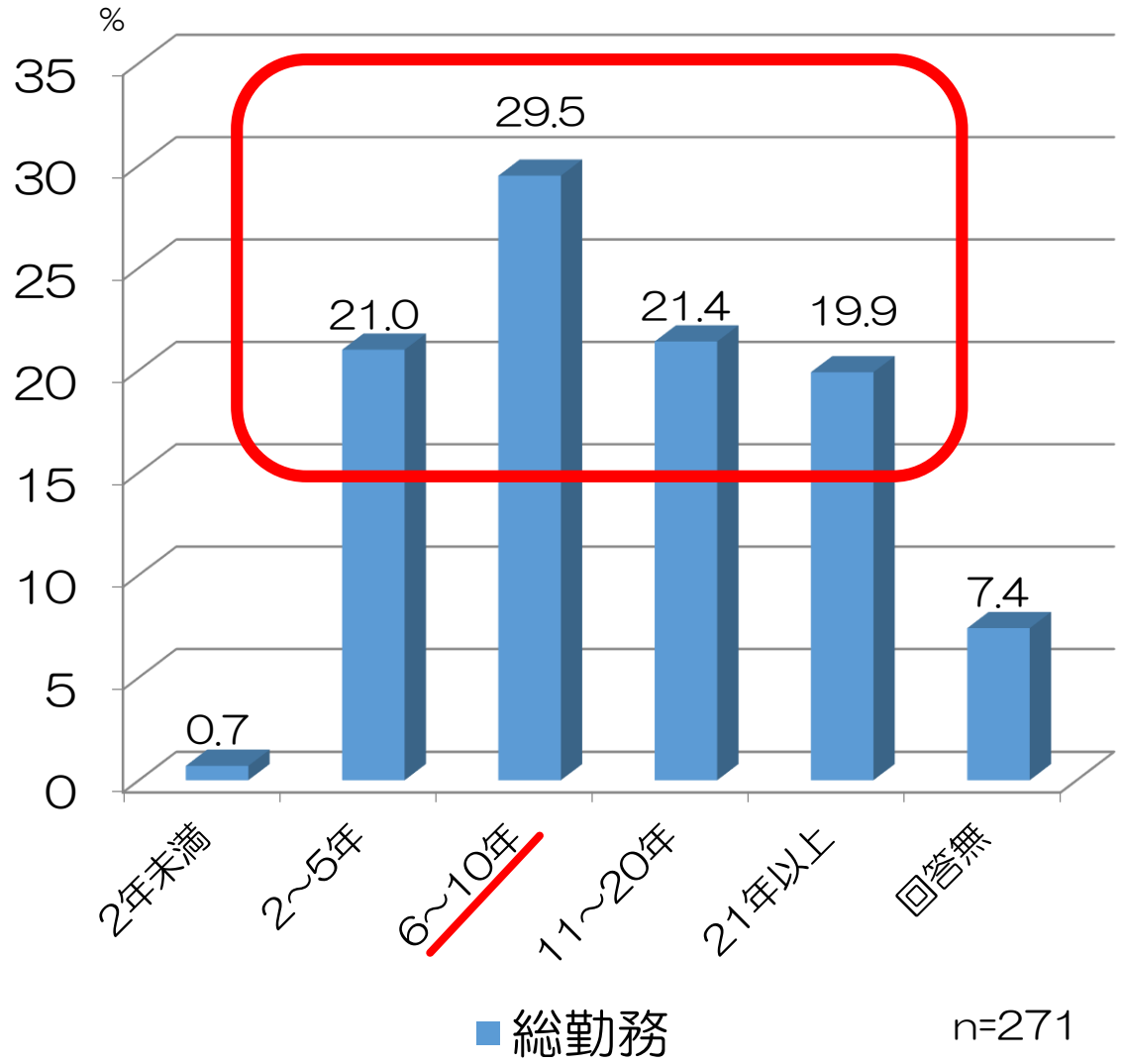
n=283:複数回答可

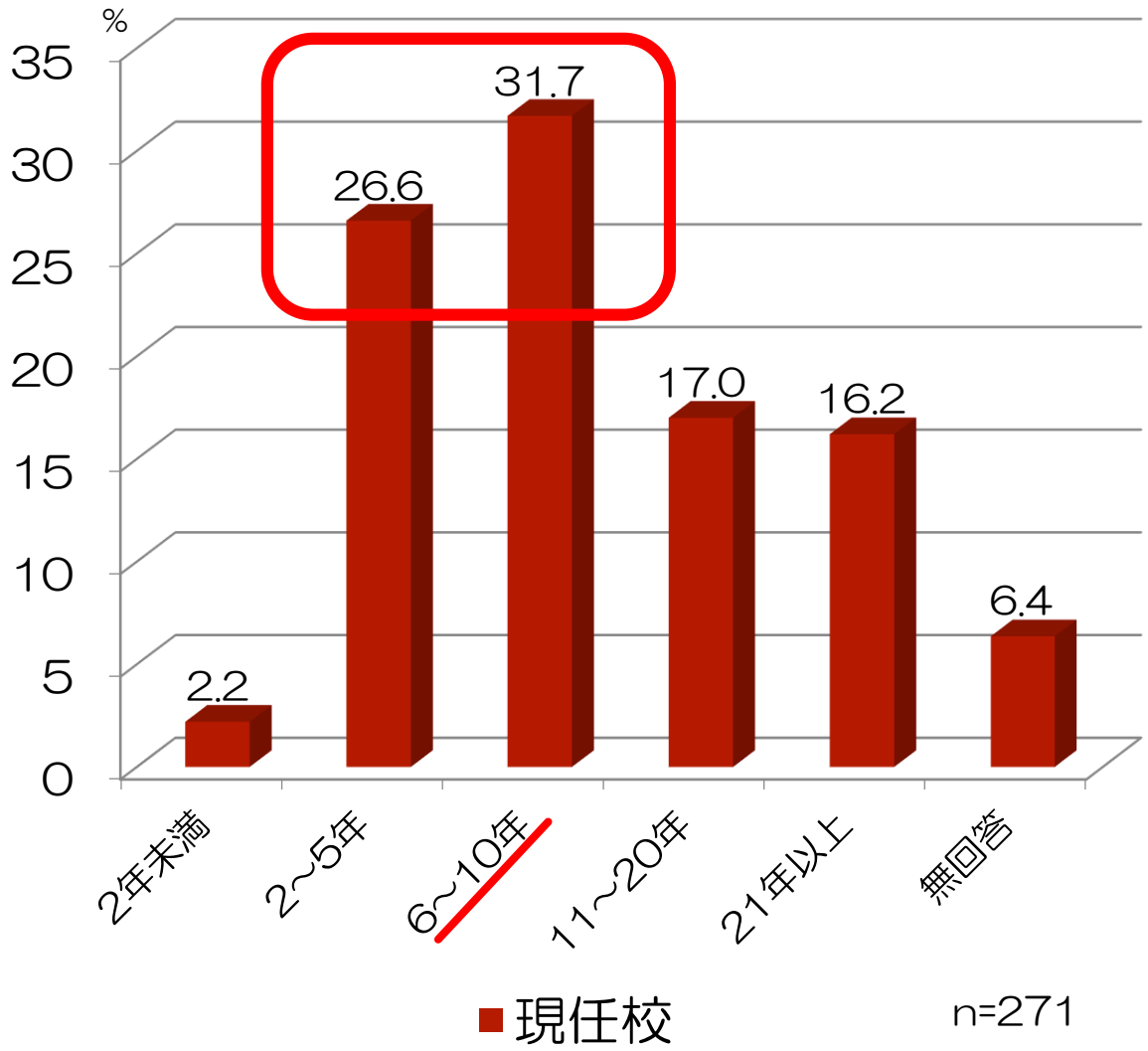
年齢と専門分野 ―非担当教員―

年齢	回答数	%
20歳代	4	1.5
30歳代	44	16.2
40歳代	58	21.4
50歳代	87	32.1
60歳代	65	24.0
70歳以上	7	2.6
無回答	6	2.2



養成校での勤務年数（総勤務・現任校）
ー非担当教員ー



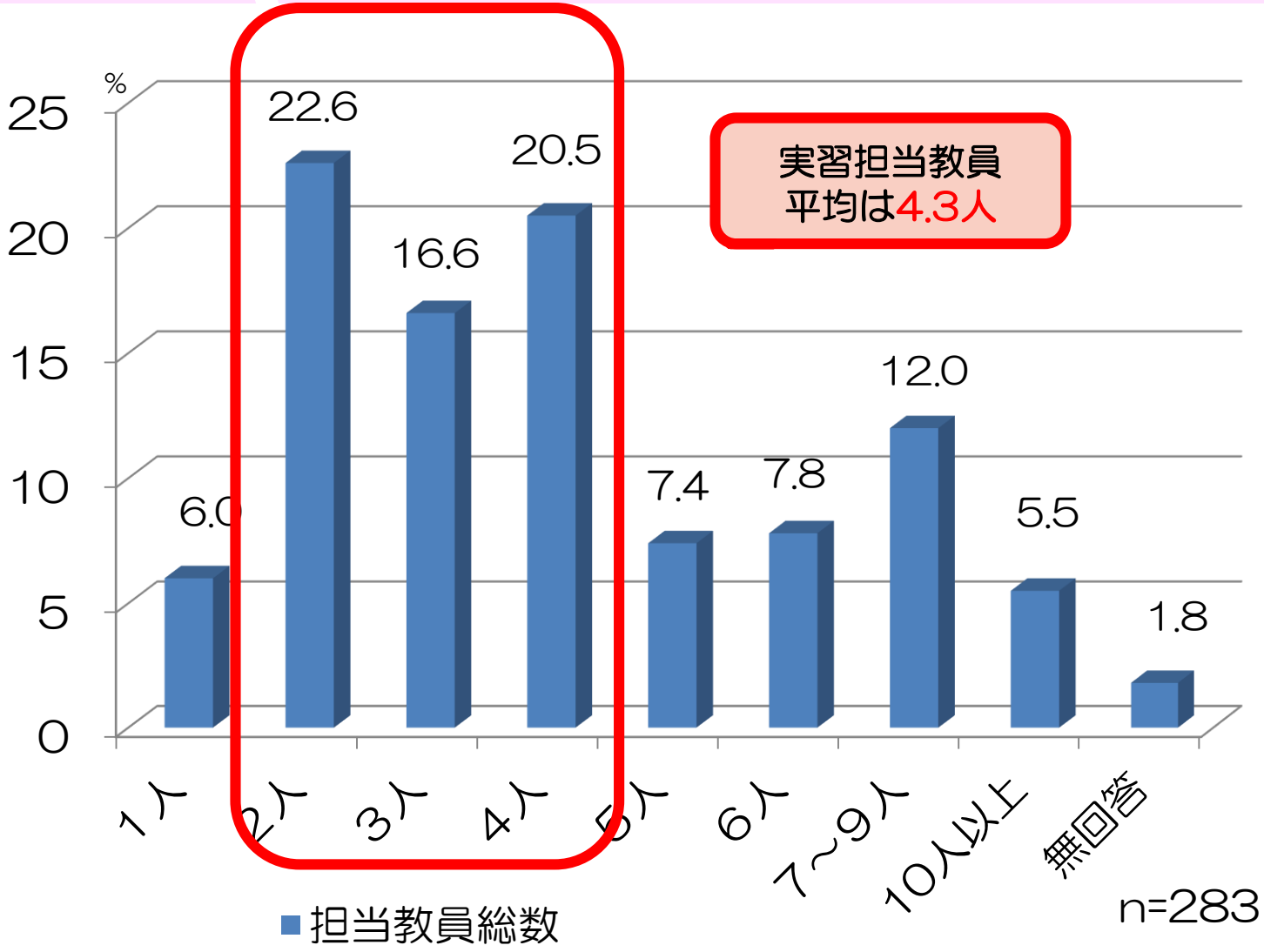


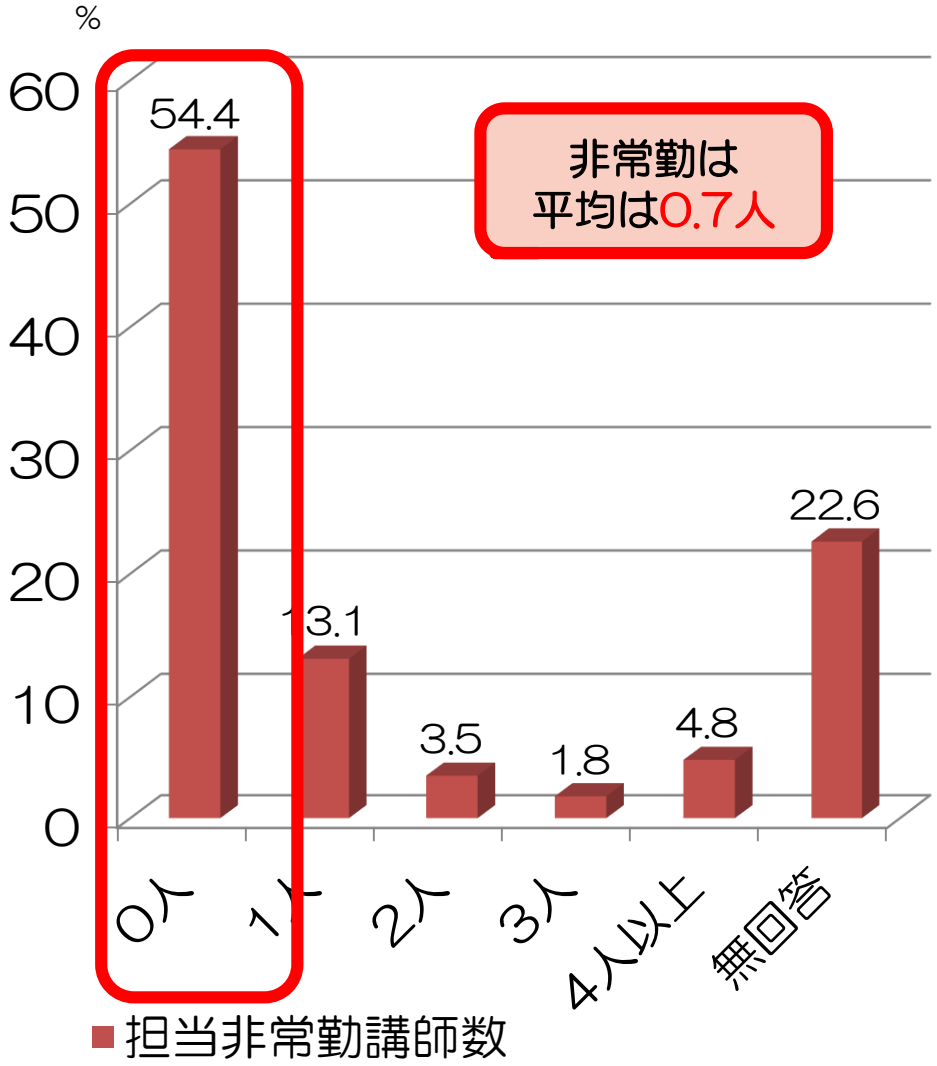
第３章
実習指導体制ならびに実習指導内容
第1節
実習指導体制
（報告書P.40～58）

実習指導体制ならびに実習指導内容
実習指導体制

- 実習指導担当教員
  - 総人数
  - 指導分担
  - 教員組織
- 実習履修要件
  - 有無
  - 要件内容
- 訪問指導
  - 実施体制
  - 内容把握法
- 書式統一
  - 実習日誌
  - 評価票

実習指導体制
実習指導担当教員総数



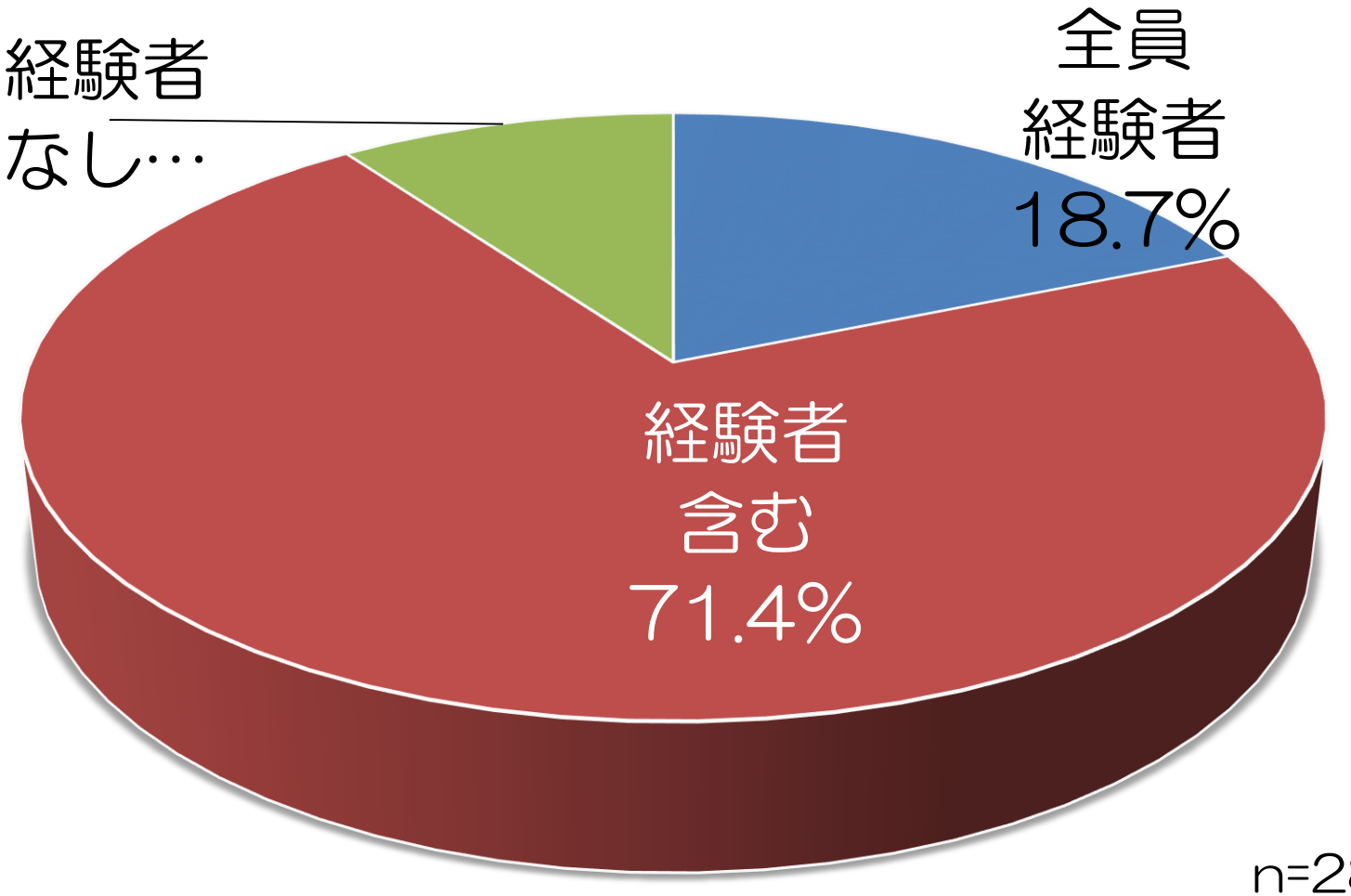


実習指導担当の分担（指導の連続性）

（%）

保育所と施設の実習指導担当者		保Ⅰ（保）と保Ⅱ	保Ⅰ（施）と保Ⅲ	保育所と幼稚園
別	65.0	15.9	18.0	67.8
同一	28.6	75.1	64.2	20.5
その他	5.7	5.7	15.2	9.9
無回答	0.7	0.3	2.8	1.8

実習指導教員の保育・福祉分野での現場実務経験

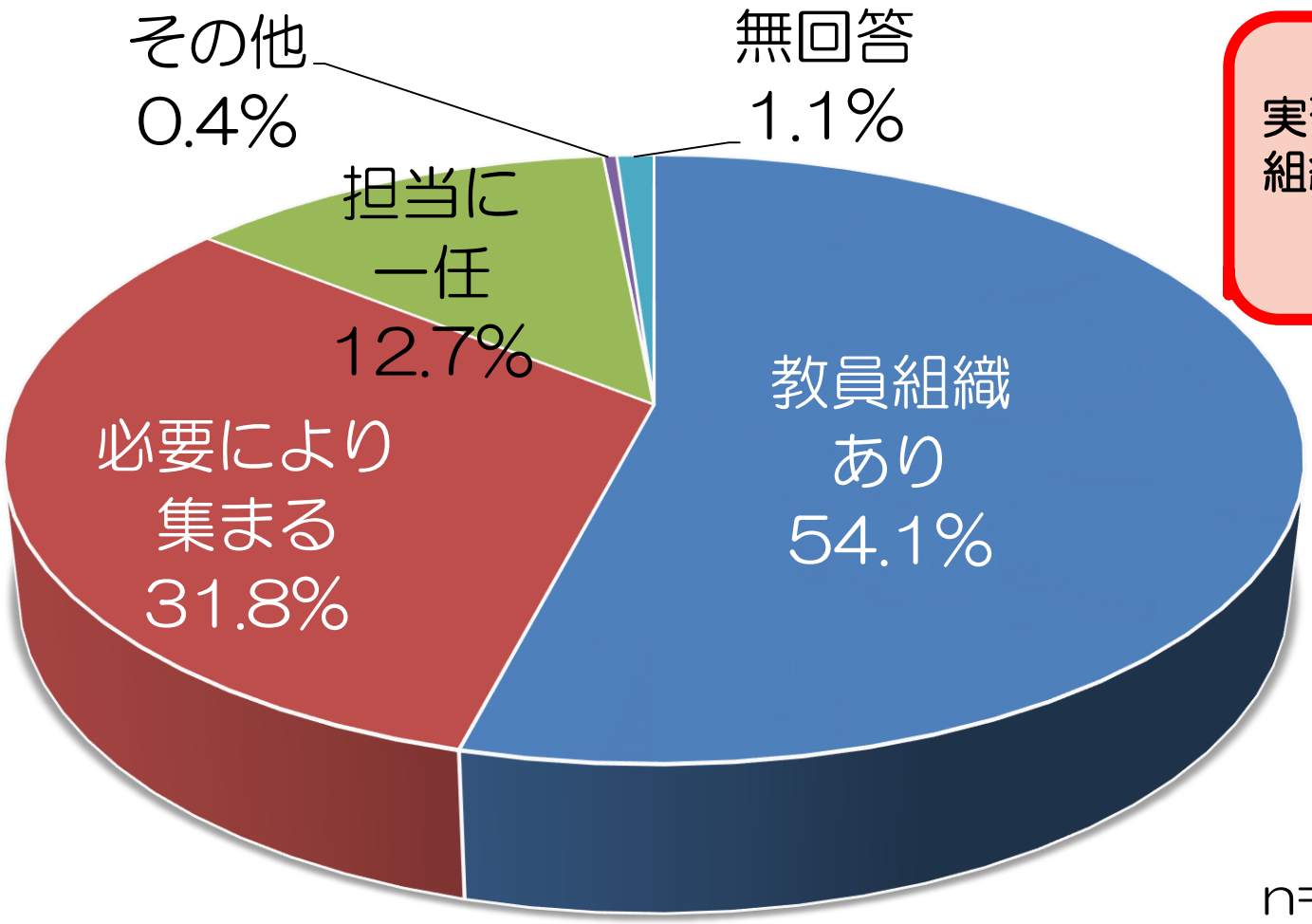


n=283

養成校の
9割で
現場経験者
が含まれる

実習指導の検討をする教員組織の有無

指導は担当に
一任されている
13%

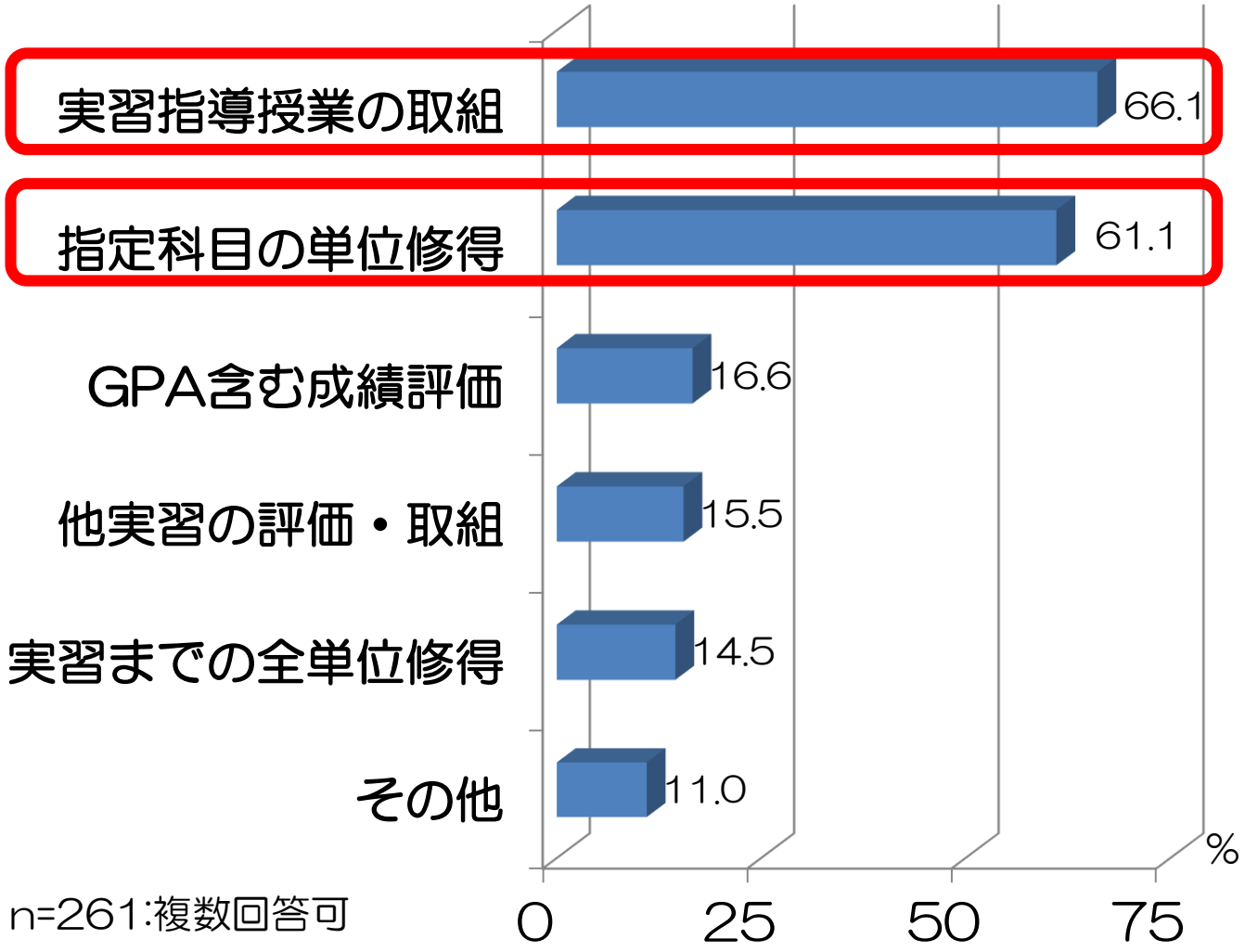


実習指導を検討する
組織がある
54%

n=283

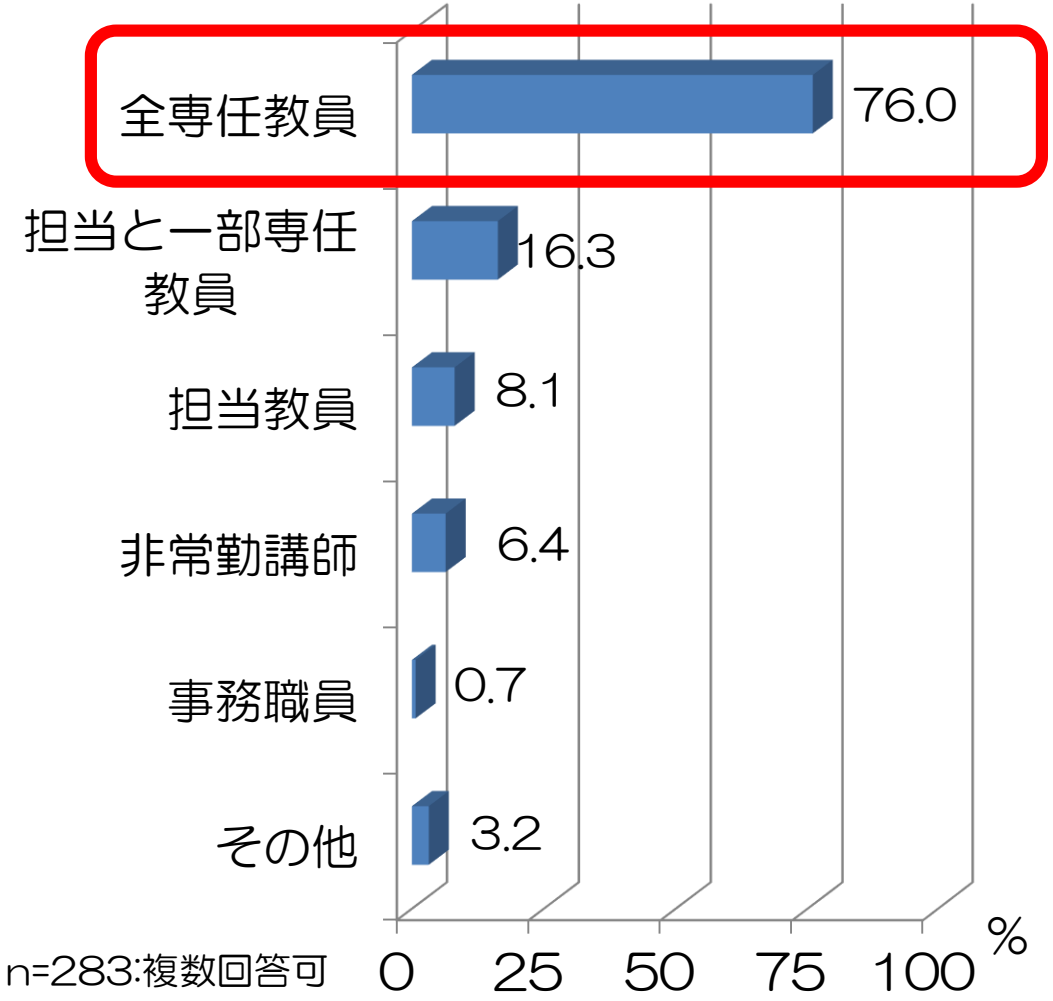
実習指導体制
実習要件（履修基準）

実習要件	%
ある	92.2
ない	7.4
無回答	0.4

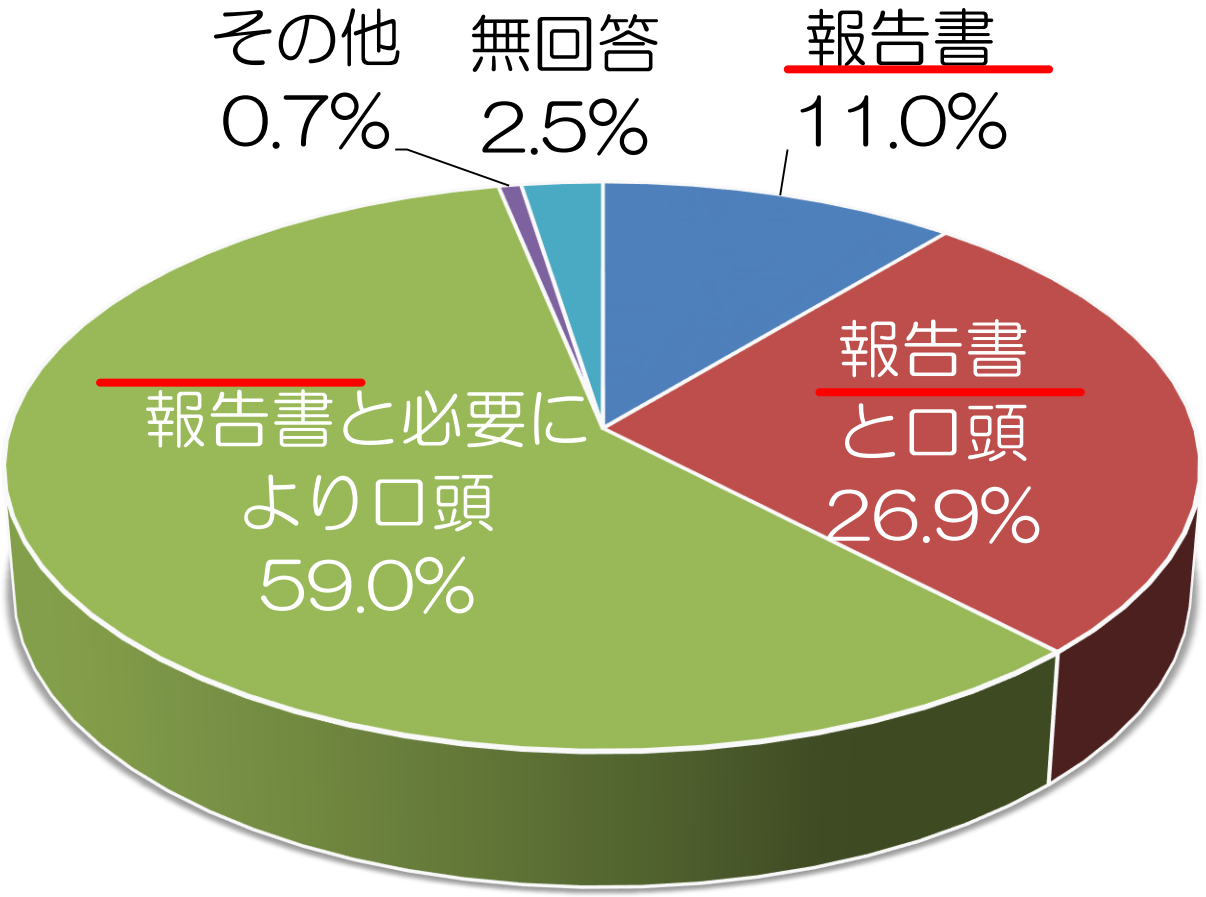


n=261:複数回答可

訪問指導について（担当と内容把握法）

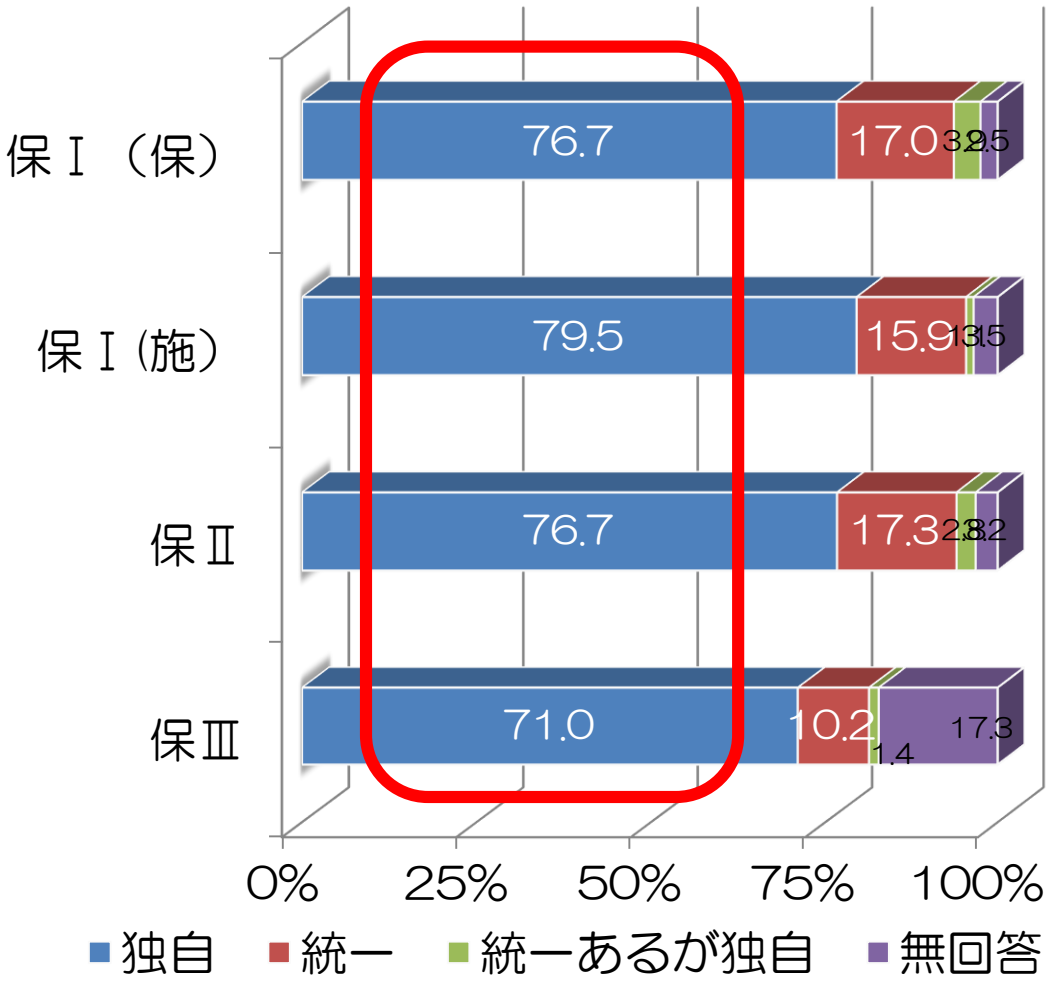


n=283:複数回答可



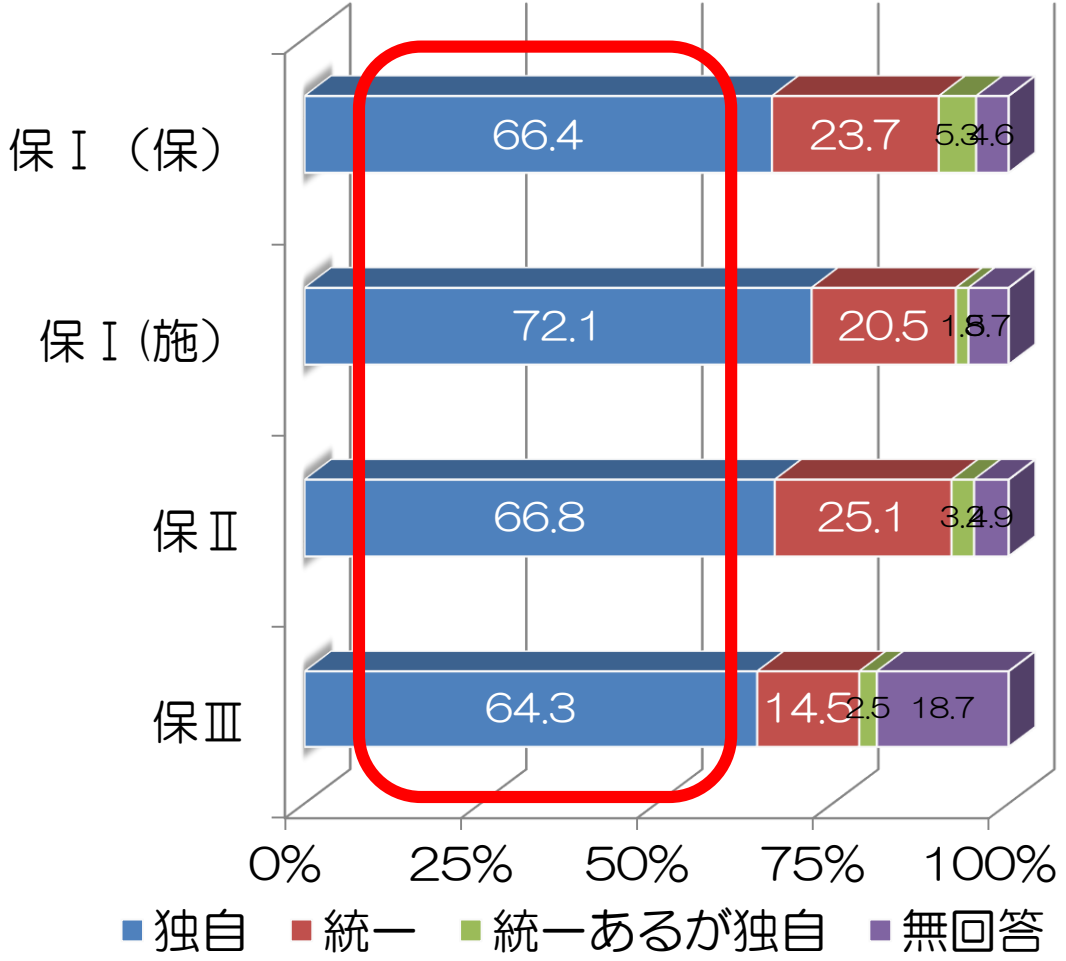
内容把握方法　n=283

実習日誌と評価票の様式統一



実習日誌

n=283



実習評価票

n=283

第５章
実習非担当教員の実習への関与
（報告書P.130～153）

第2部
第5章

実習非担当教員の実習への関与

保育実習とのかかわり１

- 現場実務経験
- 実習指導経験

保育実習とのかかわり２

- 実習指導授業関与
- 訪問指導関与
- 訪問情報共有

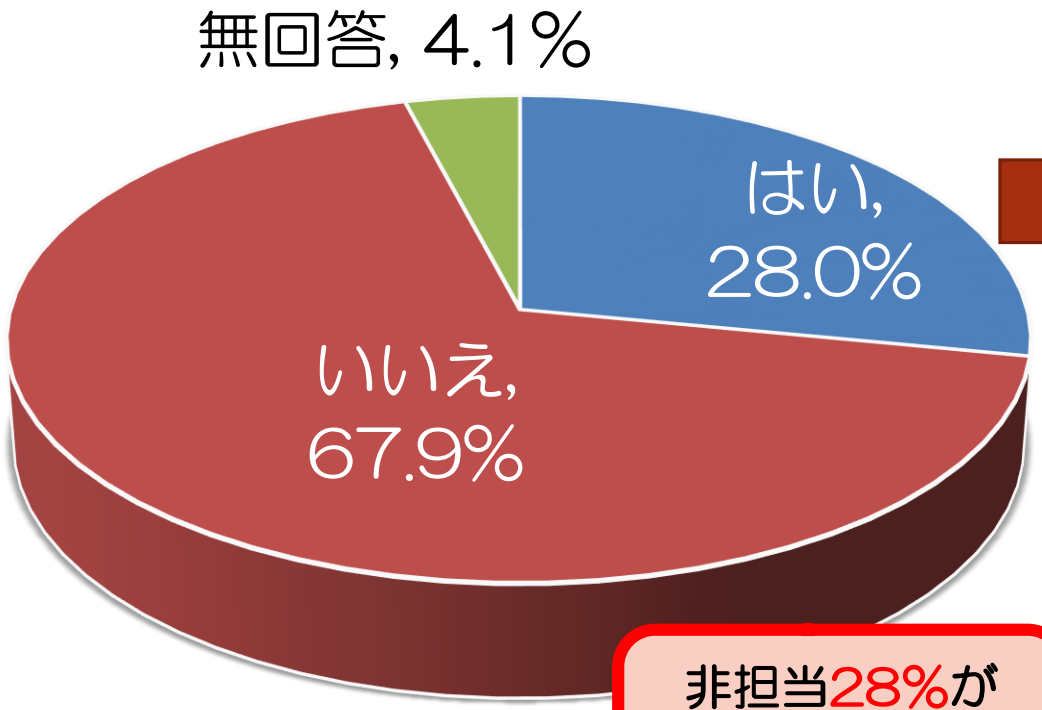
担当授業とのかかわり

- 実習指導内容理解
- 担当授業展開
- 実習に向けた取組
- 訪問内容の反映

実習への教員連携

- 実習指導授業関与との関連
- 訪問情報級との関連

非担当教員の保育実習とのかかわり
実習指導科目への担当外でのかかわり



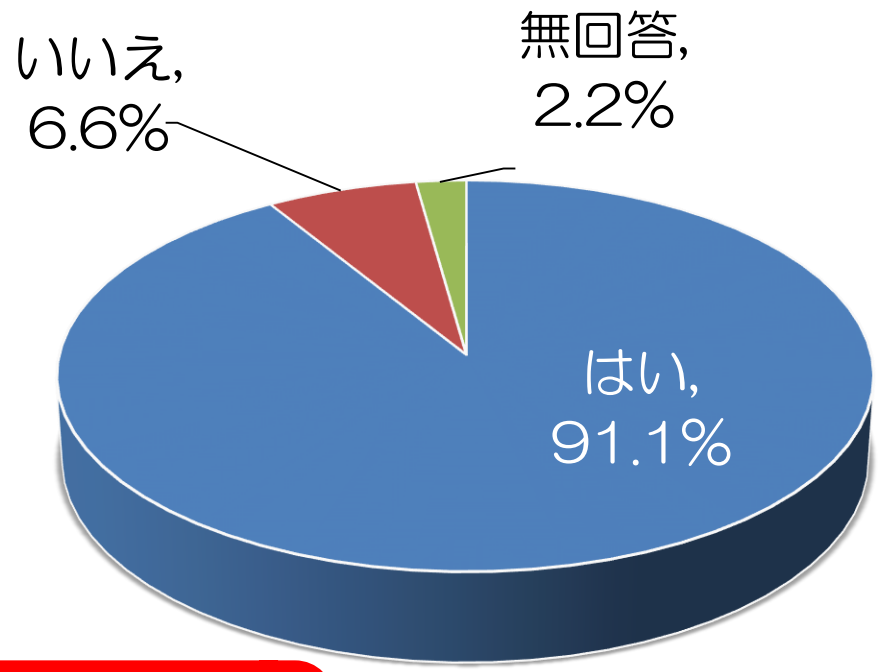
非担当28%が
実習指導科目の
一部担当あり

実習指導科目への関与（n=271）

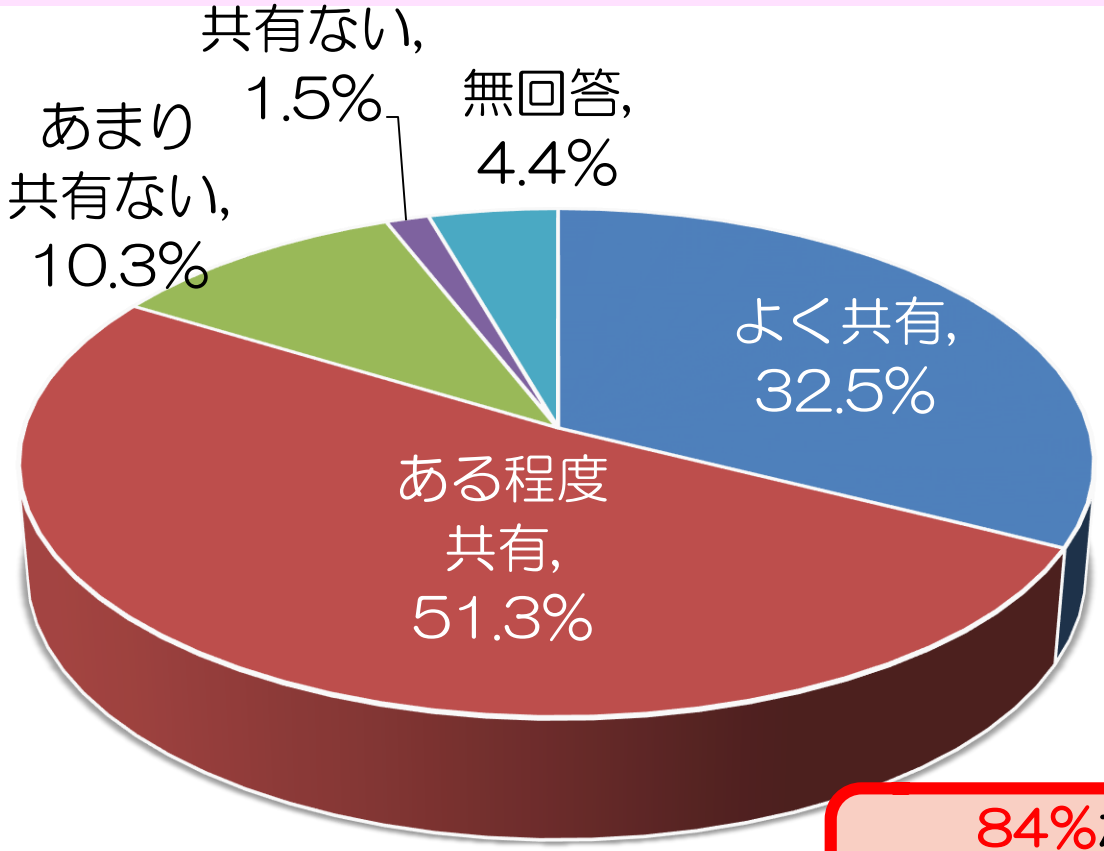
	項目		%
指導段階	事前指導	オリエンテーション指導、直前指導	19.2
	事後指導	振り返り	21.2
	個別指導	訪問担当学生への事前指導、個別指導	34.2
指導内容	保育者基礎	マナー、身なり、態度、礼状	9.5
	保育の内容	設定保育、指導案	23.3
	実習関係文書指導	記録、日誌、報告書	12.3
	保育知識・技能	ピアノ、手遊び、食育、健康	8.2
	その他	日誌点検、補助、反省会	9.6

訪問指導へのかかわりについて

135‣137



91%が
訪問指導担当

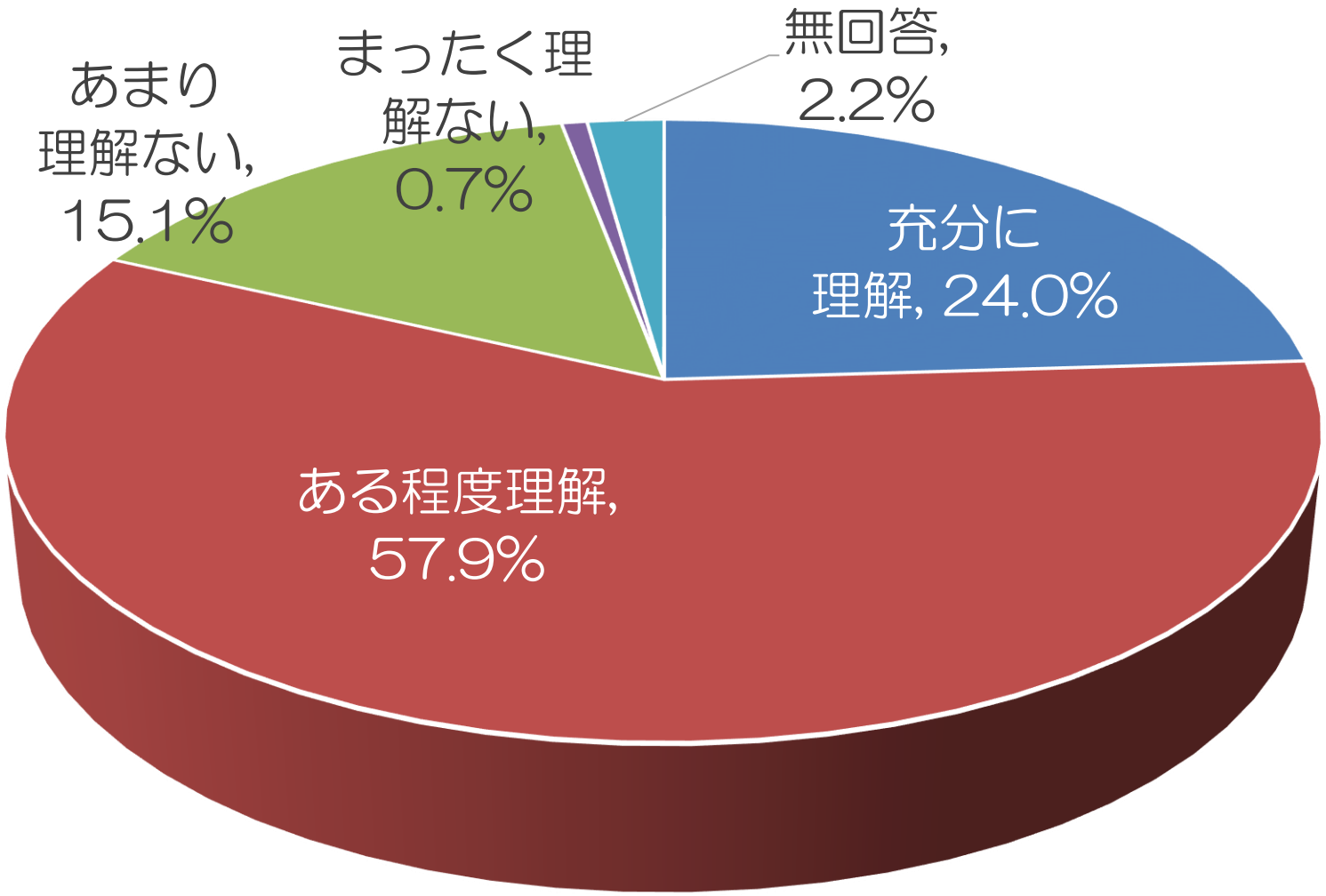


84%が
訪問指導情報の
共有ができている

n=271

訪問指導情報共有
修業年限別
2年制＞4年制

担当授業と保育実習とのかかわり
実習指導授業内容の理解

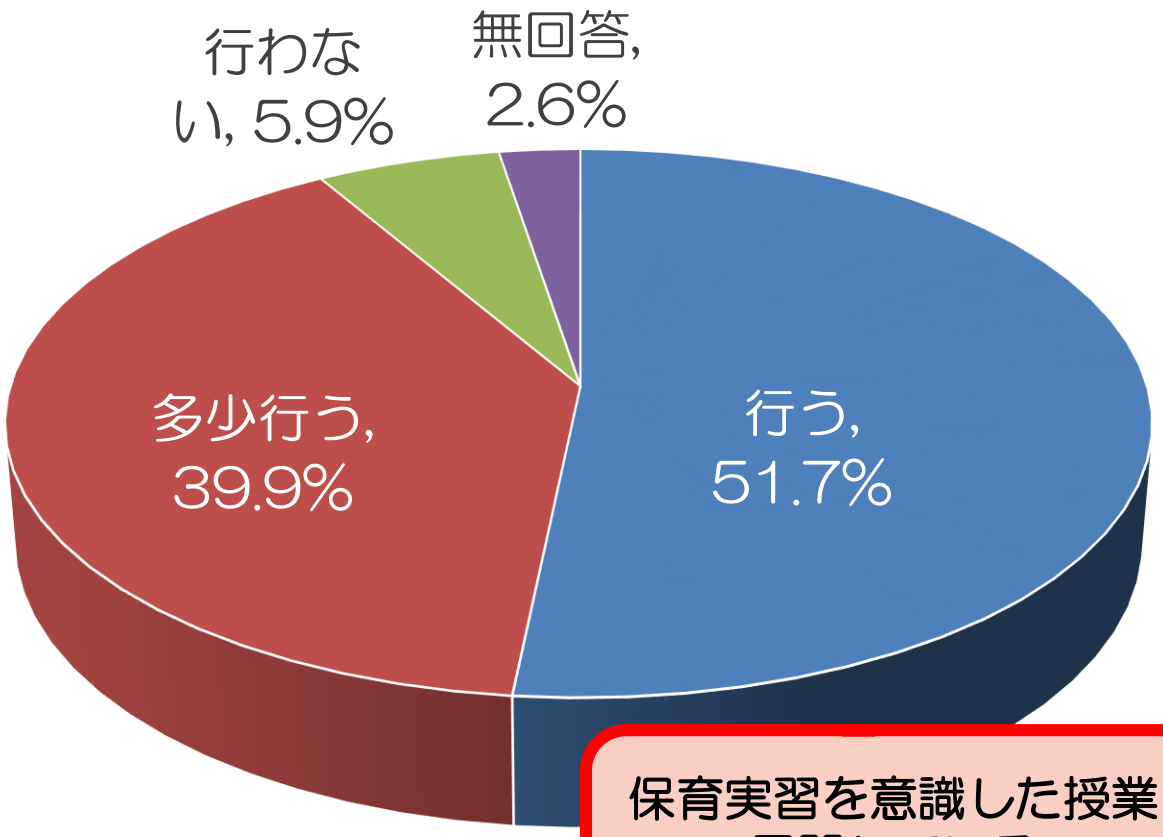


実習指導授業理解
修業年限別
2年制＞4年制

非担当の82%が
実習指導授業内容を理解
できている

保育実習を意識した授業展開

訪問指導情報共有
修業年限別
2年制＞4年制

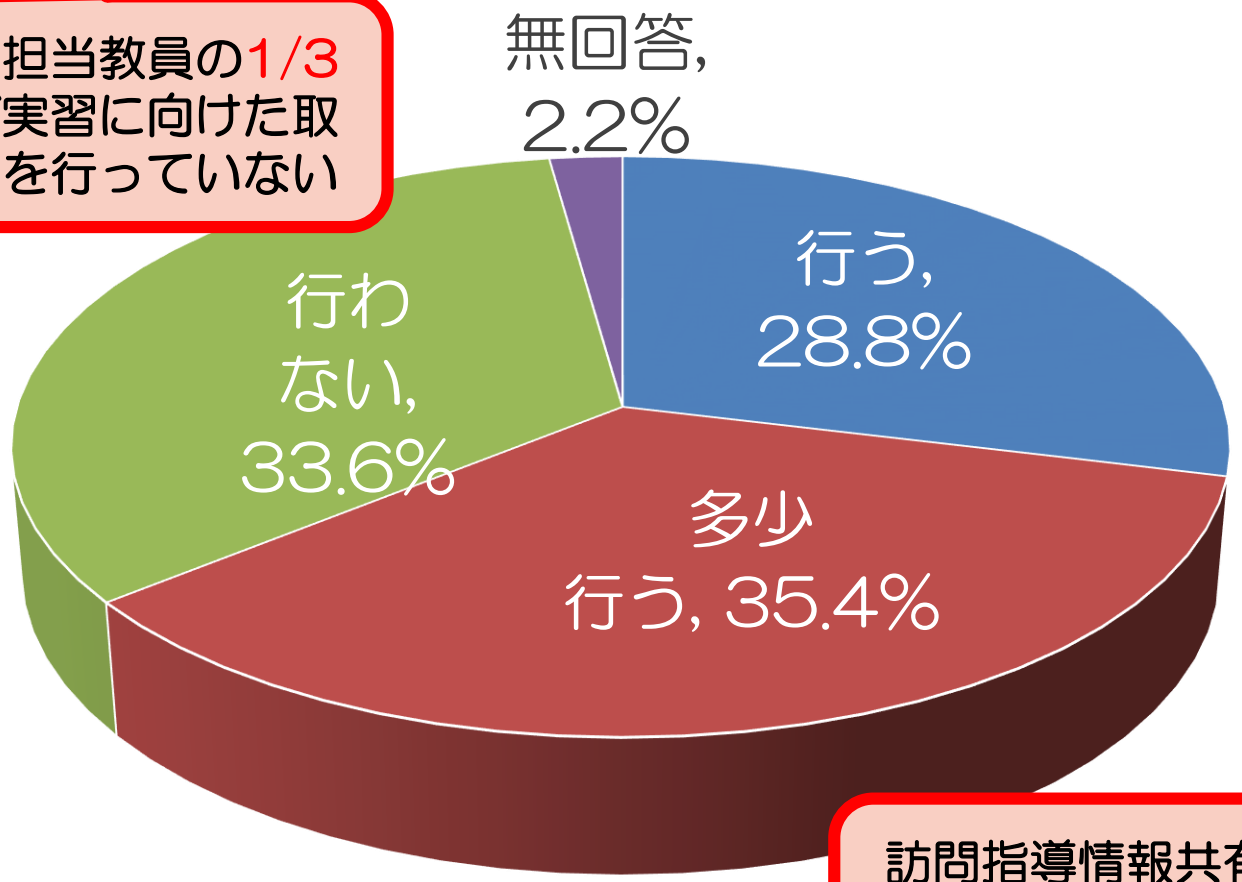


保育実習を意識した授業展開している
非担当教員は半数

カテゴリー	用語数	%
保育の内容	132	44.3
表現	79	26.5
計画と記録	35	11.7
発達	24	8.1
保護者支援	12	0.4
５領域	9	0.3
振り返り	7	0.2

保育実習に向けた課題や実習の振り返りの取り組み

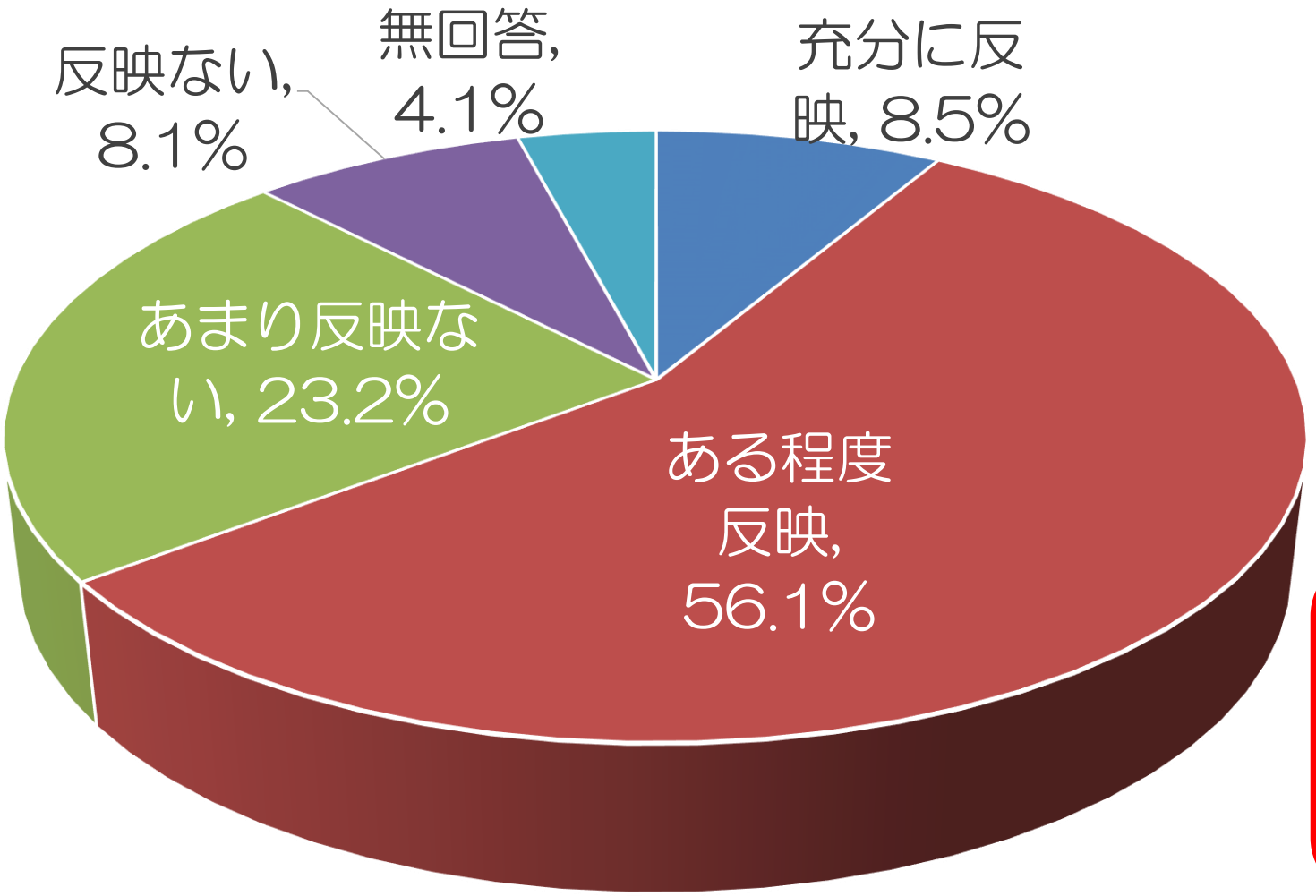
非担当教員の1/3が実習に向けた取組を行っていない



訪問指導情報共有
修業年限別
2年制＞4年制

カテゴリー	用語数	%
保育の内容	67	35.1
振り返り	57	26.8
表現	51	23.9
計画と記録	21	9.8
保護者支援	4	1.9
５領域	7	0.3
発達	6	0.3

訪問指導内容の担当授業への反映



訪問指導情報共有
修業年限別
2年制＞4年制

非担当の65%が訪問指導内容を授業に反映している
3割は反映していない

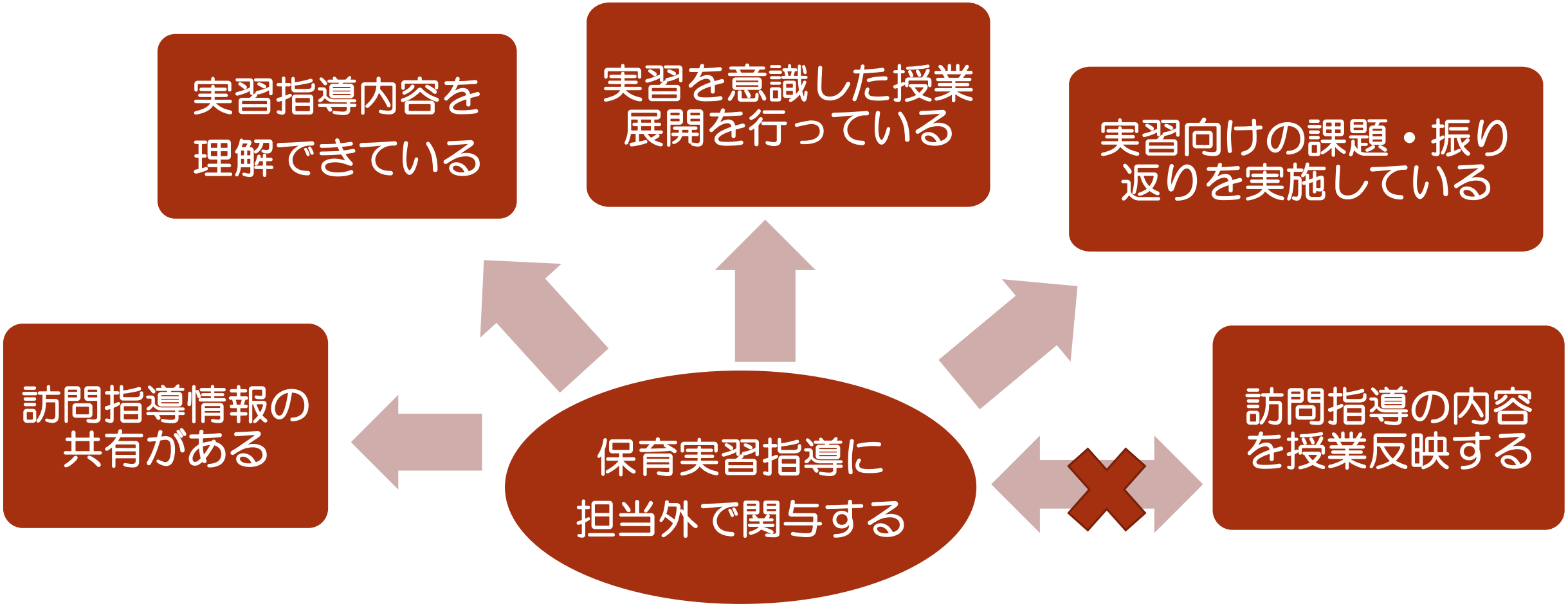
非担当教員の保育実習指導への関与と連携について

146～

	実習指導授業への関与	訪問指導情報の共有
訪問指導情報の共有	0.035	
実習指導内容の理解	0.000	0.000
実習意識した授業展開	0.040	0.004
実習意識した課題・振返り	0.001	0.000
訪問指導の授業への反映	n.s.	0.000

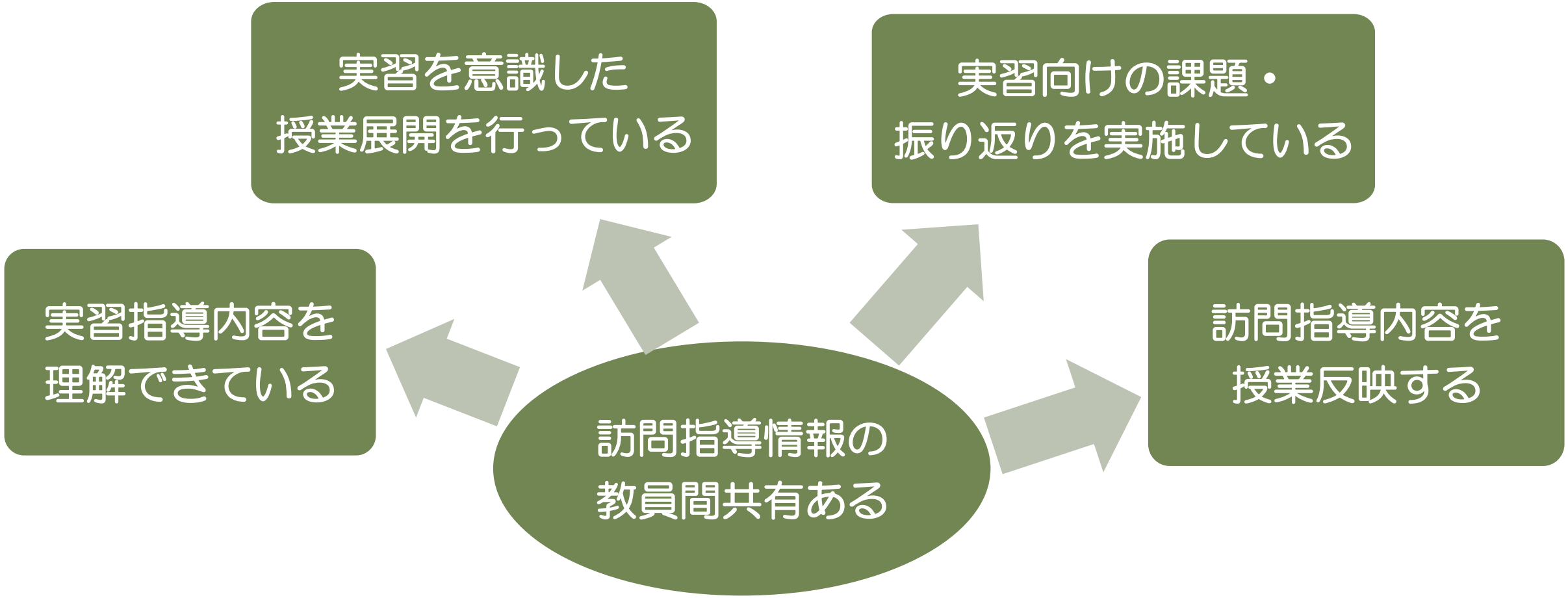
X^2検定：ｐ値

保育実習指導への担当外での関与との関連



実習指導科目への参加が非担当教員の実習への関与に影響

訪問指導情報の共有との関連



教員間の情報共有は非担当教員の実習への関与に影響

第３章
実習指導体制ならびに実習指導内容
第２節
保育実習および保育実習指導の開講や履修の状況

保育実習および保育実習指導の開講や履修の状況

○開講期と実習期間

設問：平成26年度の保育実習および保育実習のシラバス上の開講期／実習期間を、以下の回答例を参考にお書きください。実際の開講期/実習期間がシラバスと異なる場合には、補足説明にご記入ください。

○保育実習に先立つ体験的実習

○保育実習に関連の深い実習

○保育実習Ⅱ・Ⅲ　履修者数

実習期間：修業年限別傾向

指定科目名	最も多い実習期間：修業年限別傾向
保育実習Ⅰ（保育所）	＊1年次２月が最も多い。91/96校が2年制。 ＊4年制では2年次2月が最も多いが、分散している。
保育実習Ⅰ（施設）	＊２年次８月が最も多い。64/75校が2年制。 ＊4年制は3年次9、8月、2年次2月に分散している。
保育実習Ⅱ	＊2年制は2年次に集中。8、9、11月の順に多い。 ＊4年制は3～4年次に分散。 3年次2、3月、3年次8、9月が多い。
保育実習Ⅲ	保育実習Ⅱに同じ。

保育実習に先立つ体験的実習

- 体験的実習　64.0%が行っていると回答。

24.7%は2科目開講。
「見学」「観察」「実習」「体験」「ボランティア」

開講時期　１年前期：40.9%　１年後期：19.7%

➡保育実習と関連の深い実習

幼免取得のための「教育実習」89.8%

その他：付属幼稚園や併設園での実習、児童厚生2級資格のための児童館実習や社会福祉士資格に関わる実習、小学校教諭や特別支援学校教諭のための教育実習や介護等体験、レクリエーション実習やインターンシップ、ボランティア等

保育実習Ⅱ・Ⅲ　履修者数

- 保育実習Ⅱ履修者数
  保育士資格取得希望者のうち88.5%が履修。

- 保育実習Ⅲ履修者数
  保育士資格取得希望者のうち20.8%が履修。

＜保育実習Ⅲの履修者が少ない理由＞（回答88名中）
「学生が希望しない」54.5%
「保育実習Ⅱを必修にしている」13.6%
「実習先確保が困難」11.4%
「保育実習Ⅲを開講していない」10%

第４章
実習指導の授業内容

第４章

実習授業の実施内容

- 第１節　実習授業の実施状況
- 第２節　保育実習指導の事後指導をどの時期に行っているか
- 第３節　事後指導の方法
- 第４節　事後指導のねらいや指導上重視していること
- 第５節　実習指導の評価

保育実習指導Ⅰ（シラバス例の内容）

保育実習指導Ⅰ
1. 実習の目的
2. 実習の概要
3. 実習の内容
4. 実習の課題
5. 子どもの人権と最善の利益の考慮
6. プライバシーの保護と守秘義務
7. 実習生としての心構え
8. 実習における計画と実践
9. 実習における観察、記録及び評価
10. 実習の総括と自己評価
11. 新たな課題と学習目標の明確化

実習指導の授業内容
シラバス実施状況

- 設問B5. 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実施状況について

（保育士養成課程等検討会

『保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）』）

➡１～４の中から当てはまるもの１つに〇をつけてください

「１．十分な時間を取っている」

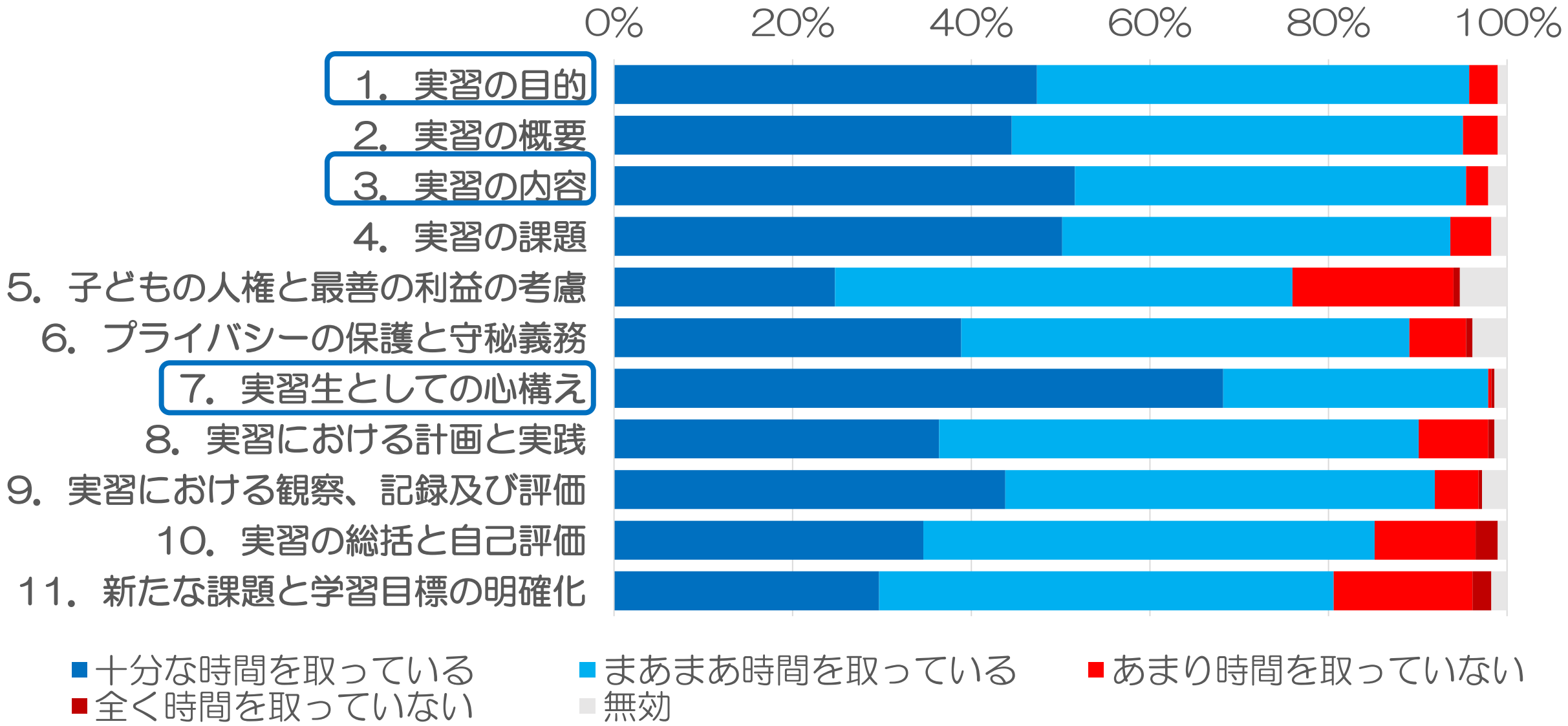
「２．まあまあ時間を取っている」

「３．あまり時間を取っていない」

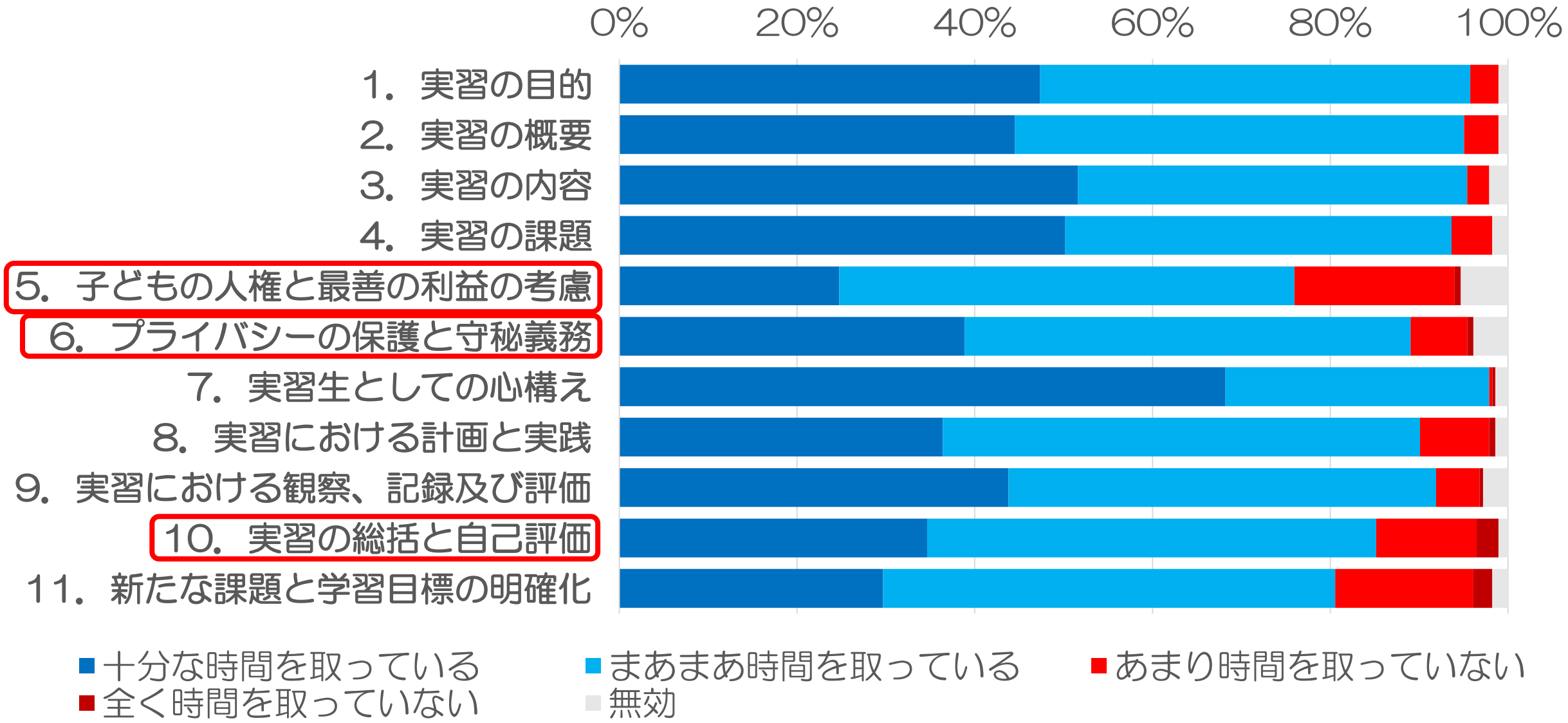
「４．全く時間を取っていない」

➡他の科目と連動して指導している項目について〇

シラバス例の実施状況
保育実習指導Ⅰ　*時間を取っている項目*

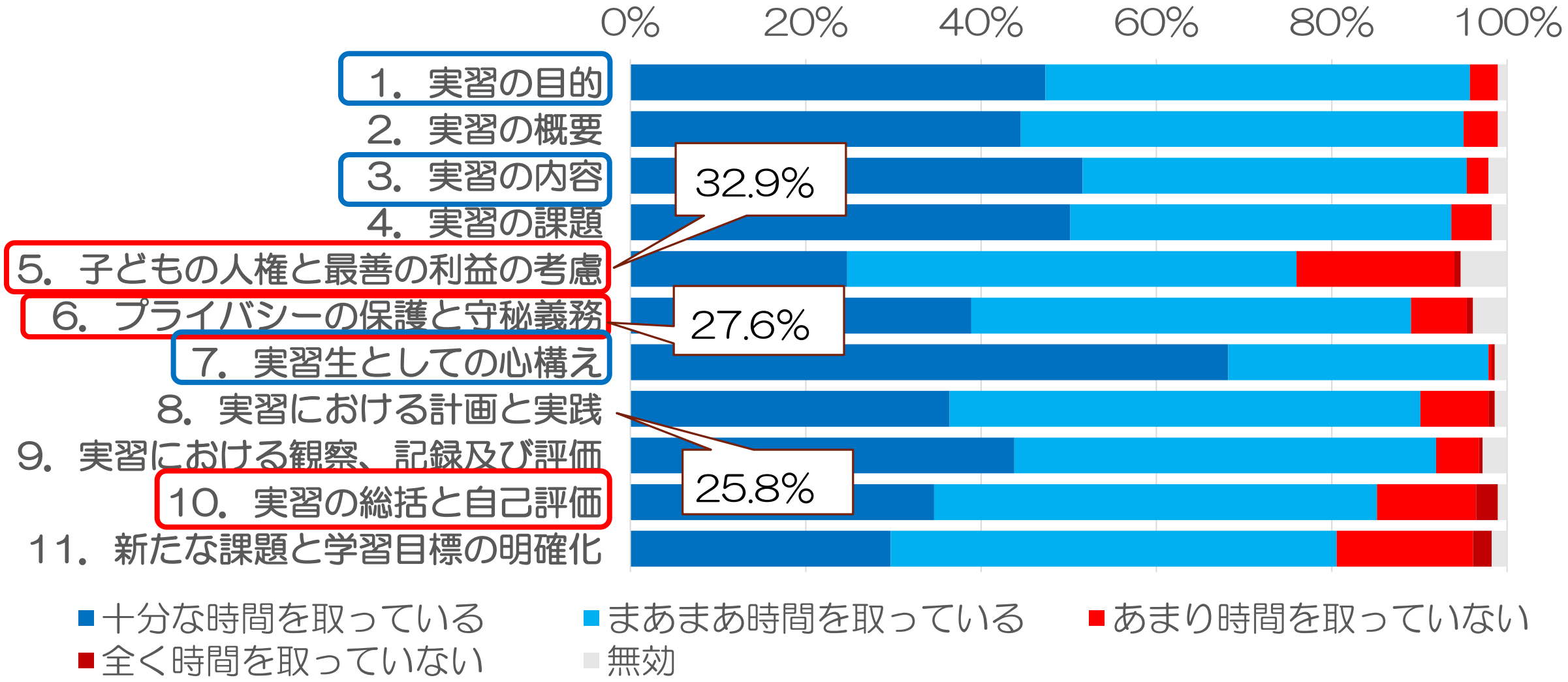


シラバス実施状況
保育実習指導Ⅰ　*時間を取っていない項目*



シラバス実施状況

保育実習指導Ⅰ　*他の科目との連動*

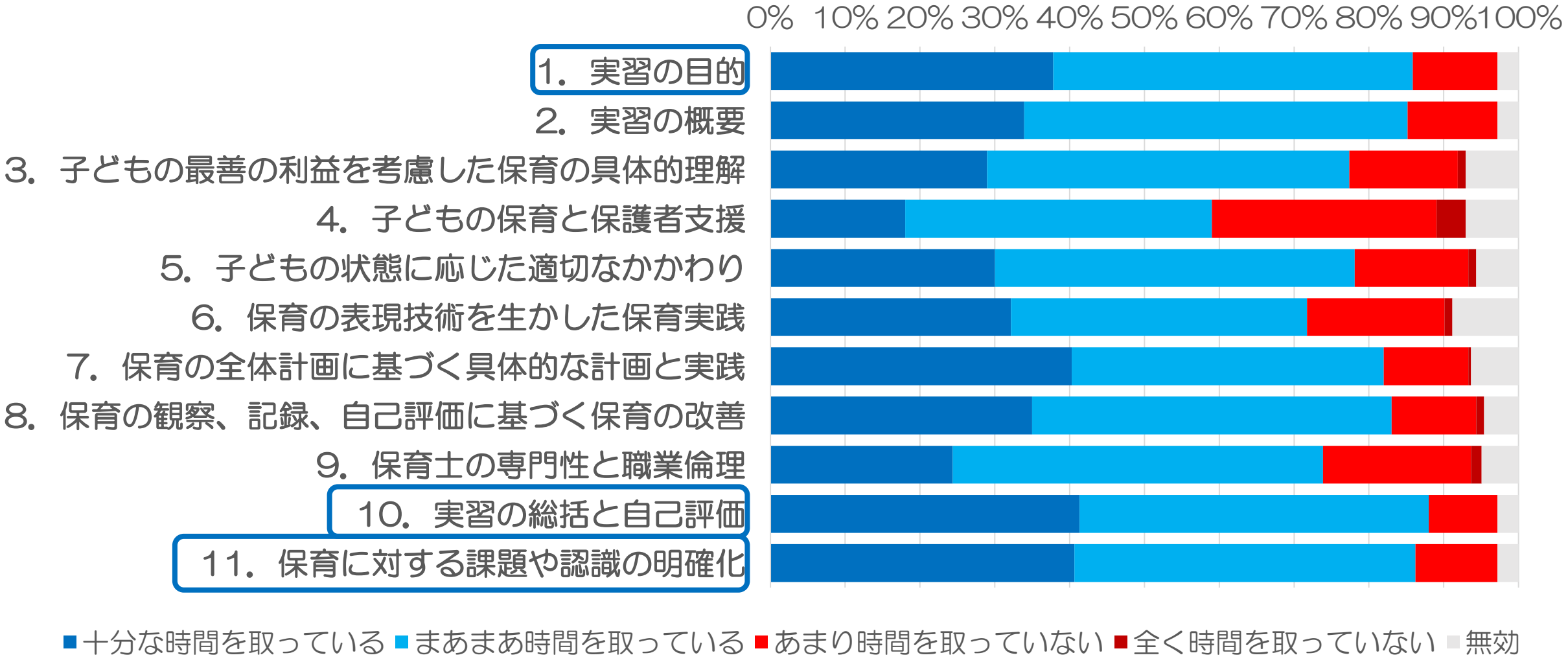


保育実習指導Ⅱ（シラバス例の内容）

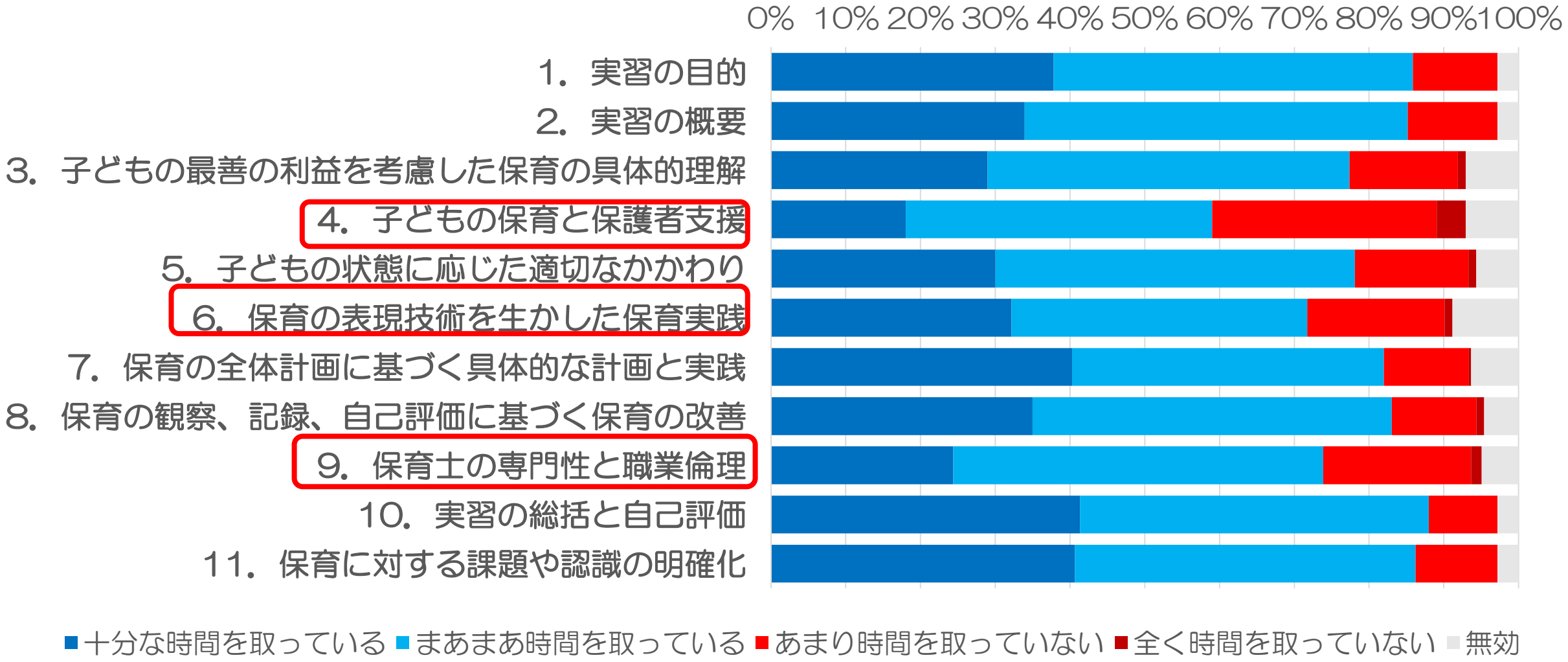
保育実習指導Ⅱ
1.　実習の目的
2.　実習の概要
3.　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
4.　子どもの保育と保護者支援
5.　子どもの状態に応じた適切なかかわり
6.　保育の表現技術を生かした保育実践
7.　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
8.　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
9.　保育士の専門性と職業倫理
10.　実習の総括と自己評価
11.　保育に対する課題や認識の明確化

シラバス実施状況

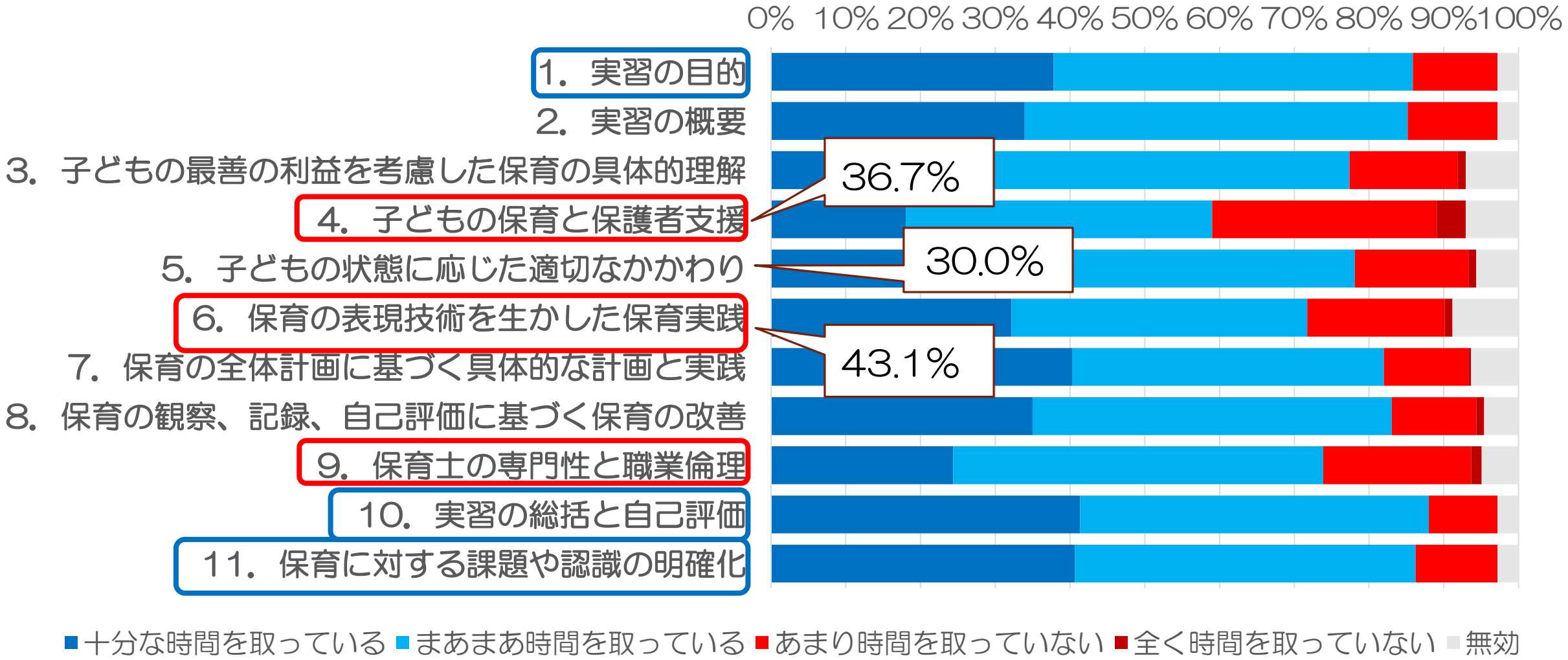
保育実習指導Ⅱ　*時間を取っている項目*



シラバス実施状況
保育実習指導Ⅱ　*時間を取っていない項目*



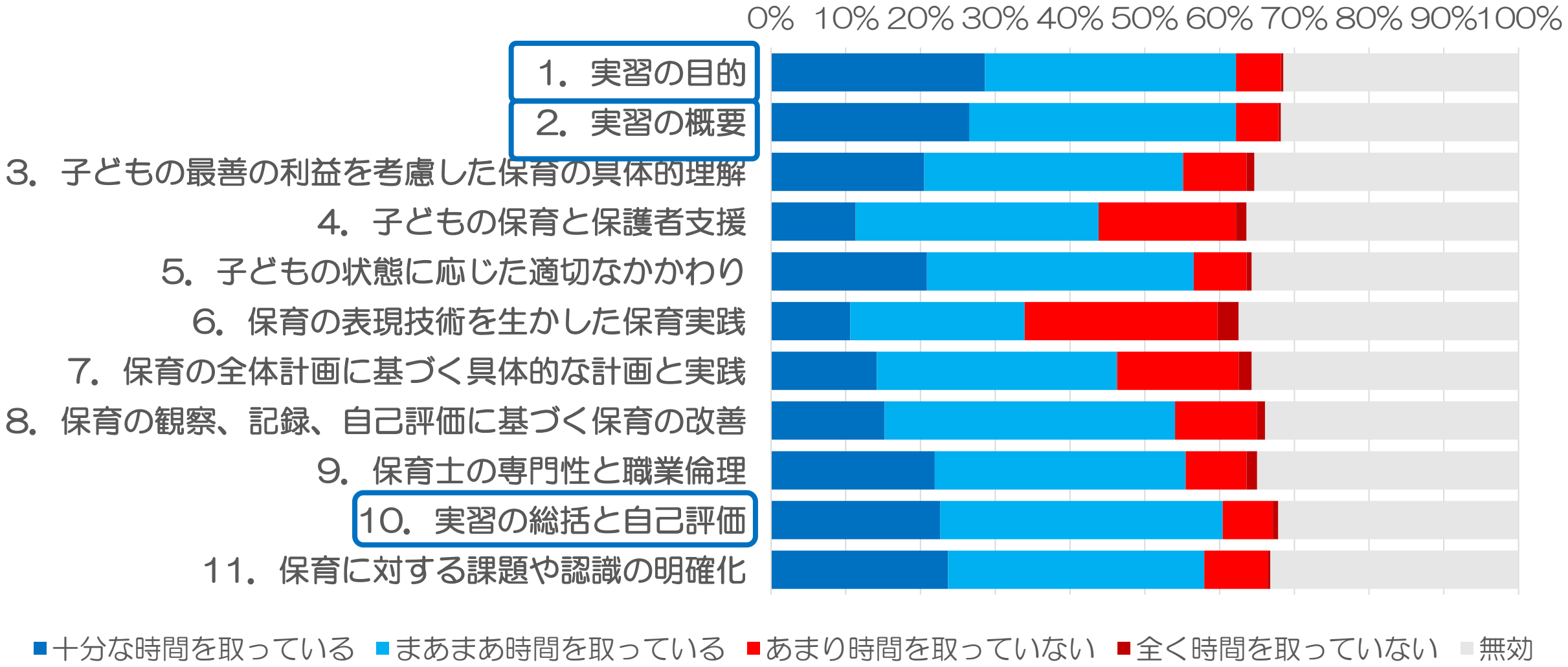
シラバス実施状況
保育実習指導Ⅱ　*他の科目との連動*



保育実習指導Ⅲ（シラバス例の内容）

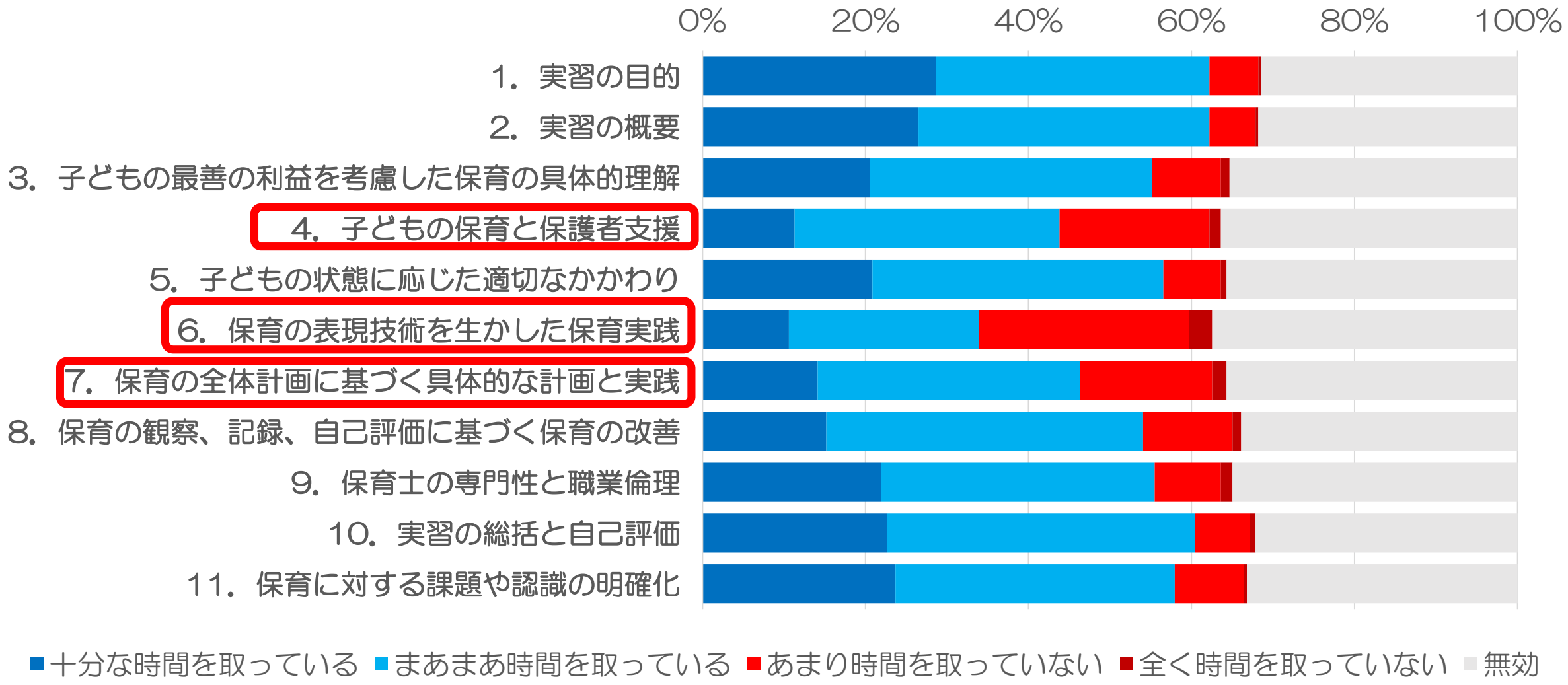
保育実習指導Ⅲ
1.　実習の目的
2.　実習の概要
3.　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
4.　子どもの保育と保護者支援
5.　子どもの状態に応じた適切なかかわり
6.　保育の表現技術を生かした保育実践
7.　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
8.　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
9.　保育士の専門性と職業倫理
10.　実習の総括と自己評価
11.　保育に対する課題や認識の明確化

シラバス実施状況
保育実習指導Ⅲ　*時間を取っている項目*

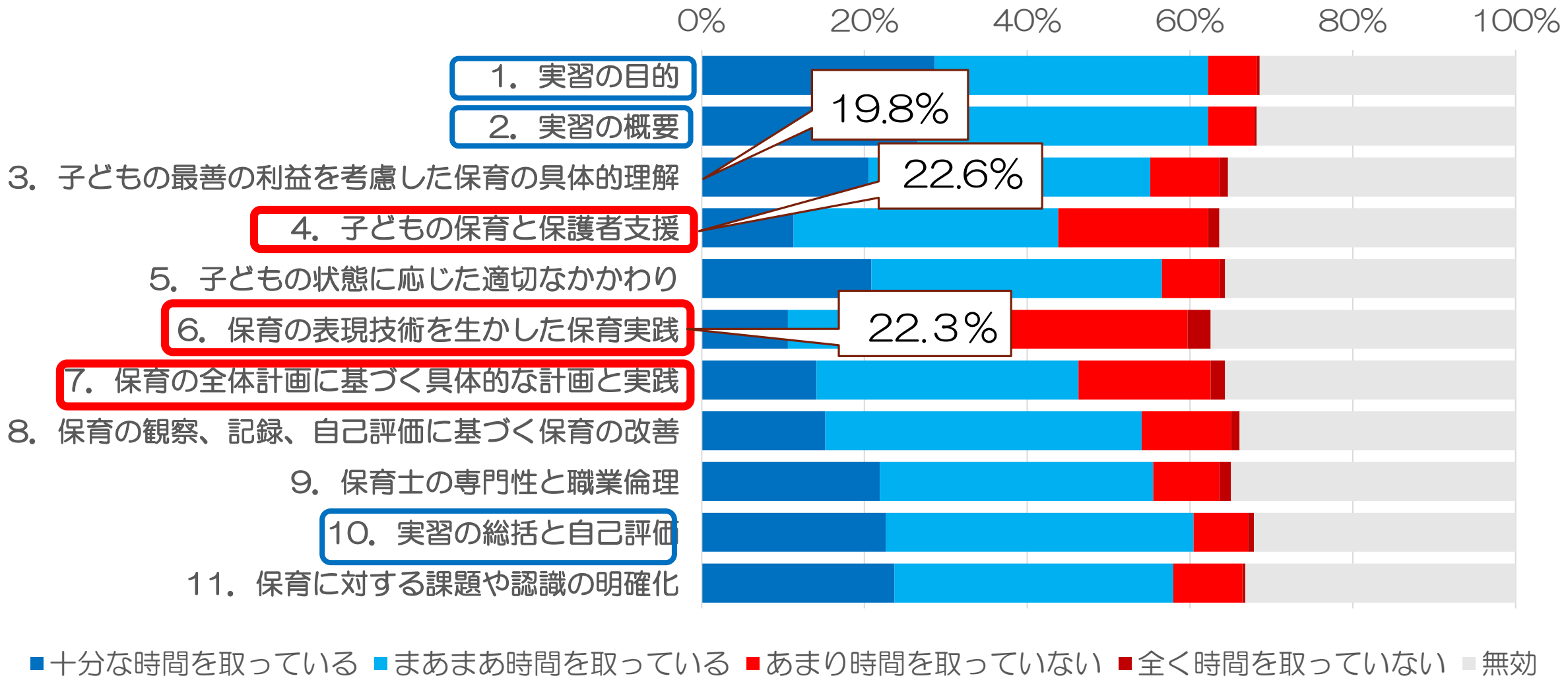


シラバス実施状況

保育実習指導Ⅲ　*時間を取っていない項目*



シラバス実施状況
保育実習指導Ⅲ　*他の科目との連動*



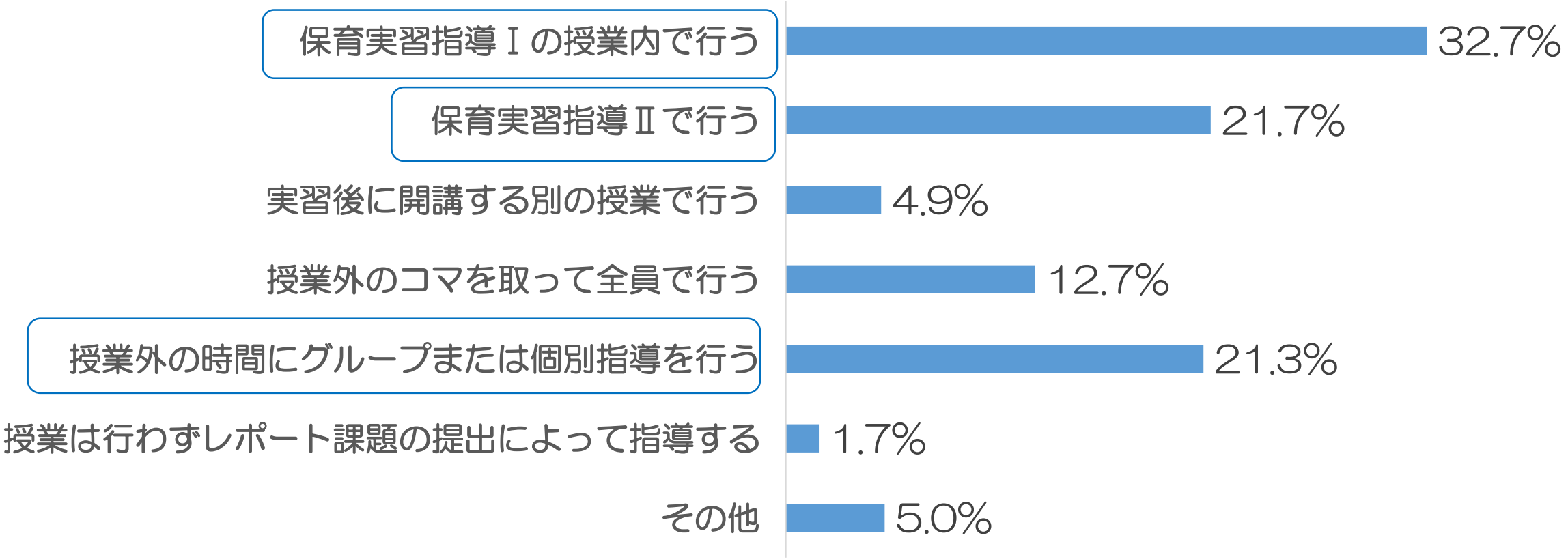
事後指導実施状況
保育実習指導Ⅰ（保）・Ⅰ（施）・Ⅱ・Ⅲ

- 設問　保育実習指導の事後指導をどのように行っているかについてお尋ねします。

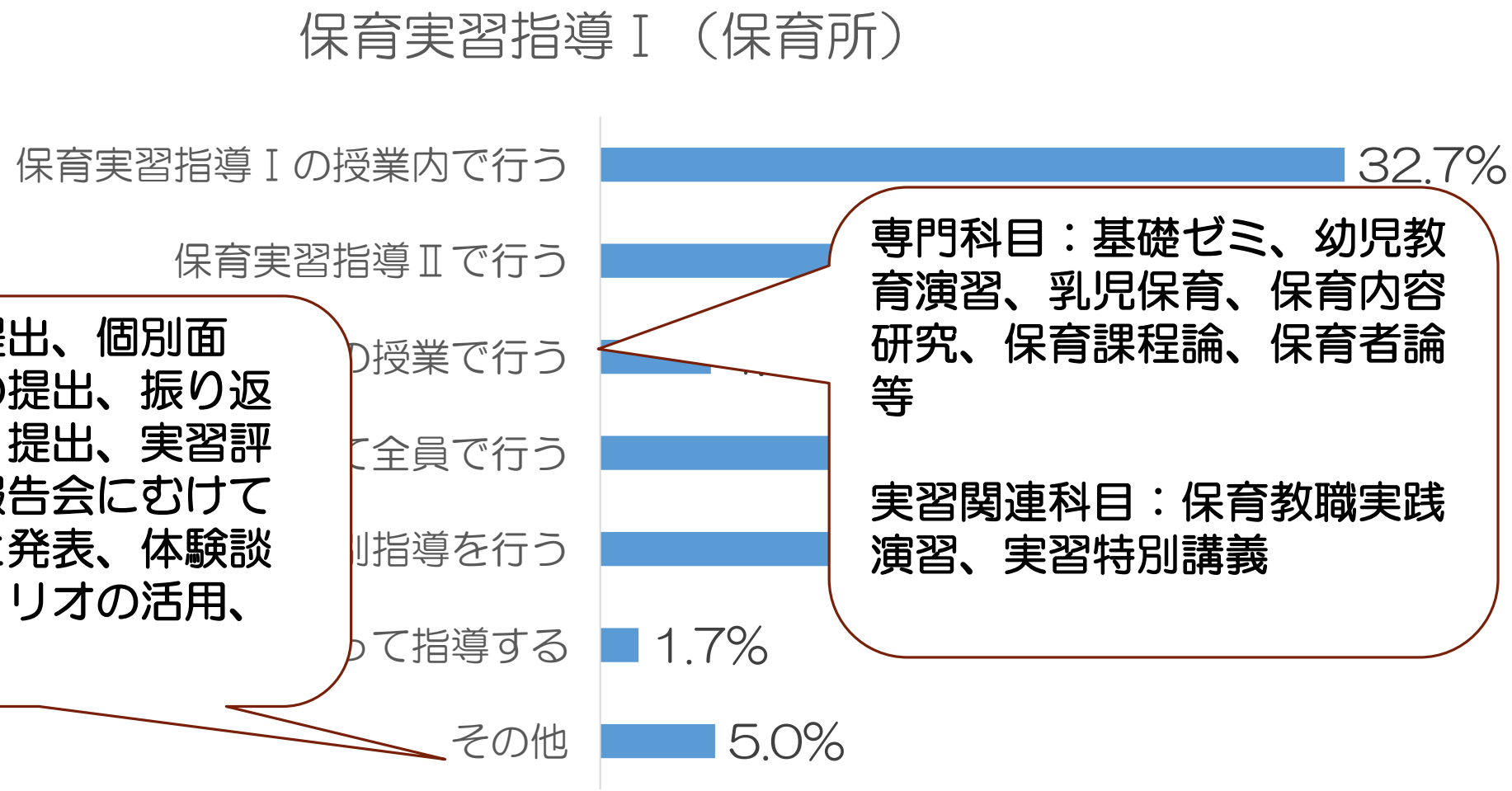
保育実習指導Ⅰ（保育所）の事後指導をどの時期にどのように行っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1．保育実習指導Ⅰの授業内で行う
2．保育実習指導Ⅱで行う
3．実習後に開講する別の授業で行う　授業名（　）（　）
4．授業外のコマを取って全員で行う
5．授業外の時間にグループまたは個別指導を行う
6．授業は行わずレポート課題の提出によって指導する
7．その他（　　）
8．特に行っていない

事後指導実施状況
保育実習指導Ⅰ（保育所）の事後指導



事後指導実施状況
保育実習指導Ⅰ（保育所）の事後指導



専門科目：基礎ゼミ、幼児教育演習、乳児保育、保育内容研究、保育課程論、保育者論等

実習関連科目：保育教職実践演習、実習特別講義

レポート課題の提出、個別面談、実習報告書の提出、振り返りシートの作成・提出、実習評価の伝達、実習報告会にむけてのレポート作成と発表、体験談発表、ポートフォリオの活用、自己評価

実習指導の授業内容

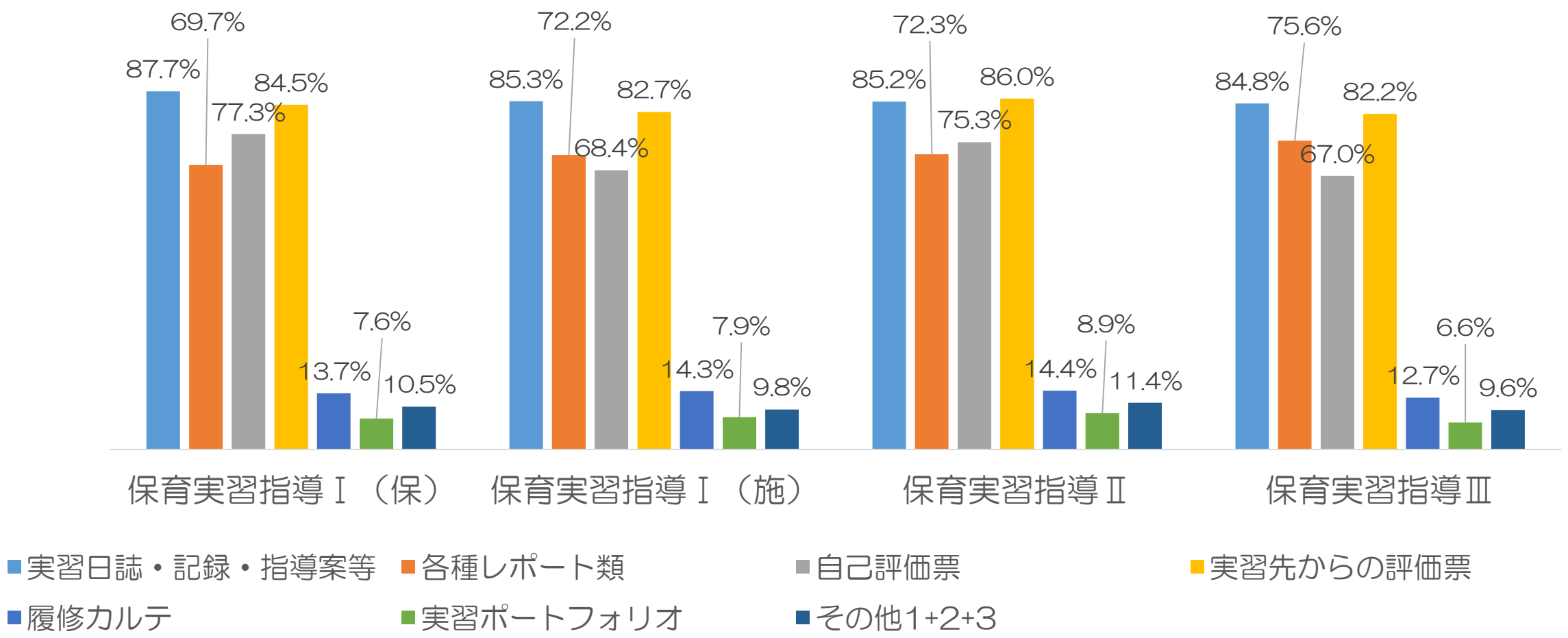
事後指導実施状況　事後指導で使用するツールと方法

設問10. 保育実習指導の事後指導をどのような方法で行っているか答えください。（複数回答可）

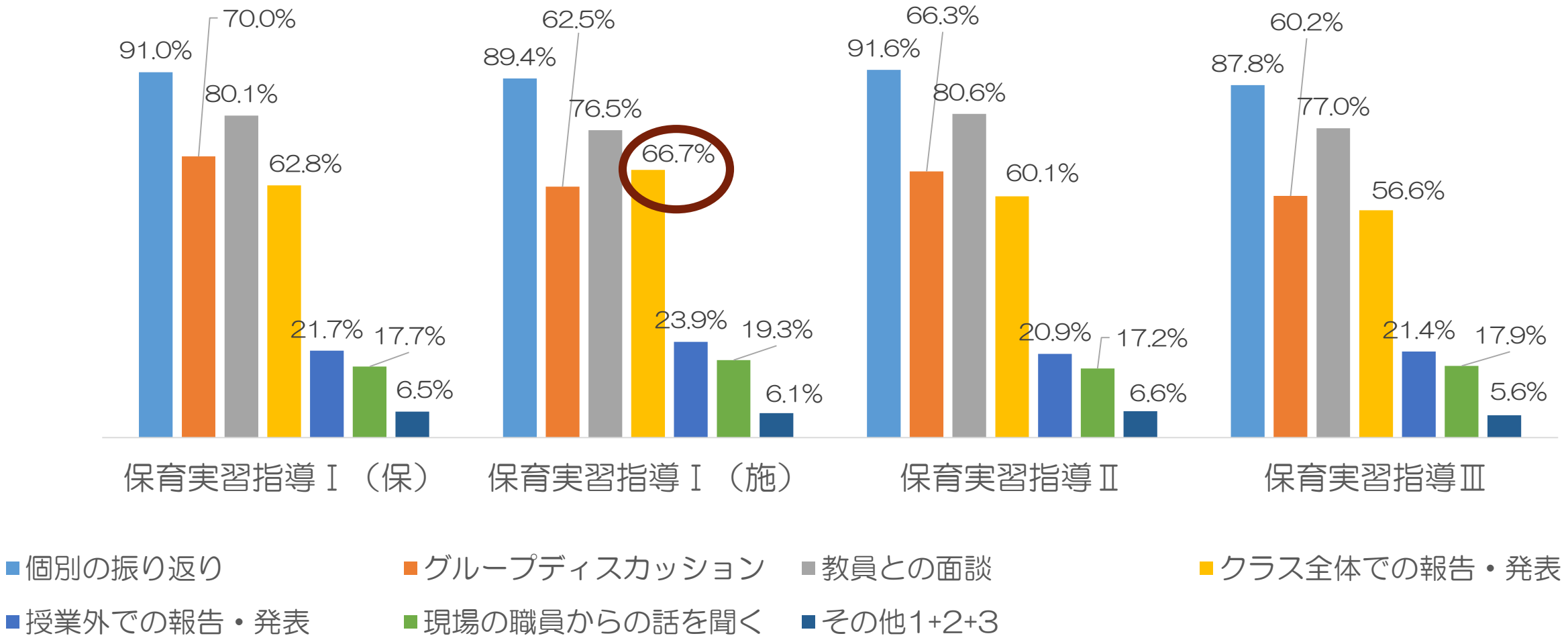
使用するツール
実習日誌・記録・指導案等
各種レポート類
自己評価票
実習先からの評価票
履修カルテ
実習ポートフォリオ
その他

方　法
個別の振り返り
グループディスカッション
教員との面談
クラス全体での報告・発表
授業外での報告・発表
現場の職員からの話を聞く
その他

事後指導で使用するツール
実習別



事後指導の方法
実習別


91.0%
70.0%
80.1%
62.8%
21.7%
17.7%
6.5%
89.4%
62.5%
76.5%
66.7%
23.9%
19.3%
6.1%
91.6%
66.3%
80.6%
60.1%
20.9%
17.2%
6.6%
87.8%
60.2%
77.0%
56.6%
21.4%
17.9%
5.6%
保育実習指導Ⅰ（保）
保育実習指導Ⅰ（施）
保育実習指導Ⅱ
保育実習指導Ⅲ
個別の振り返り
グループディスカッション
教員との面談
クラス全体での報告・発表
授業外での報告・発表
現場の職員からの話を聞く
その他1+2+3

実習事後指導で使用するツールの「その他」

使用するツール（33校から41項目の回答）

実習報告書　ふり返り票作成　大学で作成した振り返り用紙
作成したテキスト　最終カンファレンスレジュメ　ビデオ視聴
ポスター　訪問記録　巡回指導報告書
実習間の学び・良さ・課題を記入したもの
「保育実習を終えて」の提出　アンケート　パワーポイント
１年生を混じえての実習報告会　事後指導のテキスト　教職ファイル
実習先へのアンケート　各科目の課題　巡回指導者の報告書　評価　県保協「手引き」　実習反省会要項　実習計画書
「私の課題」の提出　実習報告会での発表
アンケート集計研究レポート　学生コメントシート
クラス内アンケート　実習用テキスト　実習報告会での質疑応答

実習事後指導の方法「その他」

方法（22校から27項目の回答）
実習報告書の作成 他学年参加報告会・交流会 課題解決型学習　指導案の添削 個別の特別課題提示・指導 実習だより作成・送付　保育所との実習懇談会 ２年間のレポートをまとめ、ふり返る ディスカッション　レポート作成 「私の課題」のプレゼン 巡回担当者からの報告、評価 パワーポイントで解説

事後指導に用いられるツールの使用頻度
２年制と4年制の違い - 保育実習指導Ⅰ（保育所）

頻度	2年制	4年制
1	実習先からの評価票	実習日誌・記録・指導案等
2	実習日誌・記録・指導案等	実習先からの評価票
3	自己評価票	各種レポート類
4	各種レポート類	自己評価票
5	履修カルテ	実習ポートフォリオ
6	その他	履修カルテ
7	実習ポートフォリオ	その他

事後指導で重視しているねらいや指導上の項目
設問項目

事後指導で重視しているねらいや指導上の選択項目
実習での活動や体験を確認・整理すること
実習を振り返り自身の課題点や達成点を明らかにすること
保育指導計画・支援計画の立案とそれに基づく実践についての振り返り
実習の事前に設定しているねらいや目標が達成されたか確認すること
子どもや利用者の理解を深めるための振り返りを行うこと
保護者の理解や保護者支援の振り返りを行うこと
保育士の職務内容について理解を深めるための振り返りを行うこと
次回の実習や今後の学習に向けた学生自身の目標の設定・計画を行うこと
「保育」の社会的役割や地域連携について認識を明確にすること
実習日誌等の書類をまとめて提出をすること
その他

事後指導で重視しているねらいや指導上の項目 重みづけ集計の順位

順位	保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅲ
1	実習を振り返り自身の課題点や達成点を明らかにすること	実習を振り返り自身の課題点や達成点を明らかにすること	実習を振り返り自身の課題点や達成点を明らかにすること	実習を振り返り自身の課題点や達成点を明らかにすること
2	実習での活動や体験を確認・整理すること	子どもや利用者の理解を深めるための振り返りを行うこと	保育指導計画・支援計画の立案とそれに基づく実践についての振り返り	子どもや利用者の理解を深めるための振り返りを行うこと
3	次回の実習や今後の学習に向けた学生自身の目標の設定・計画を行うこと	実習での活動や体験を確認・整理すること	子どもや利用者の理解を深めるための振り返りを行うこと	保育士の職務内容について理解を深めるための振り返りを行うこと

保育実習指導の評価　設問項目

保育実習指導の評価
1.授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子
2.課題の提出状況（期日厳守や規定枚数などの提出条件の達成度）
3.実習に取り組むための自己の課題設定や目標設定の内容
4.実習の振り返りレポートや自己評価などの内容
5.2や4をのぞく課題レポートやワークシートなど授業中の課題内容
6.筆記試験（小テスト含む）
7.模擬保育の準備や活動の様子
8.個人面談の内容
9.実習先からの評価
10.その他

保育実習指導の評価
重みづけ集計の順位

項目	Ⅰ（保育所）	Ⅰ（施設）	Ⅱ	Ⅲ
参加状況や受講態度	① 513	① 454	① 394	① 297
課題提出状況	② 391	② 362	② 305	② 232
自己の課題設定	③ 185	③ 213	③ 216	③ 179
振り返りレポートや自己評価	150	174	214	167
授業中の課題内容	88	88	95	66
筆記試験（含小テスト）	50	38	34	21
模擬保育の準備と活動	32	13	105	26
個人面談の内容	14	12	19	21
実習先からの評価	155	155	168	117
その他	13	11	6	7
無効	107	188	142	565

保育実習指導の評価
１番目に重視する項目

順位	保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅲ
1	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子
2	課題の提出状況（期日厳守や規定枚数などの提出条件の達成度）	課題の提出状況（期日厳守や規定枚数などの提出条件の達成度）	実習に取り組むための自己の課題設定や目標設定の内容	実習に取り組むための自己の課題設定や目標設定の内容
3	実習先からの評価	実習先からの評価	実習先からの評価	実習先からの評価

第３部
実習を通した学生の成長感

分析手続きと方法
設問の概要

＜設問パートC・G＞

以下の文言に対して、空欄に記入することで、直感で文章を完成させてください。担当する実習指導に関わらず、まずは文章をご記入ください。

　その上で、その記入がどの実習の終了後に最も当てはまるかについて{　　}内に〇をつけてください。

学生の成長を感じるのは／学生の成長を感じられないのは、

学生が＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。{Ⅰ(保)・Ⅰ(施)・Ⅱ・Ⅲ・他・不明}

SCT回答例

●肯定的側面：学生の成長を感じるのは、学生が

挨拶ができるようになったとき

{Ⅰ(保)・Ⅰ(施)・Ⅱ・Ⅲ・他・不明}

●否定的側面：学生の成長を感じないのは、学生が

実習先の指導者を批判するとき

{Ⅰ(保)・Ⅰ(施)・Ⅱ・Ⅲ・他・不明}

分析の枠組み

上位概念	カテゴリー
保育者の専門性の育ち	保育者基礎力
	保育に向かう態度
	専門的知識･技能
成長の時間	展望
	変化
他の成長感の反映	実習先からの評価・意見
その他	その他

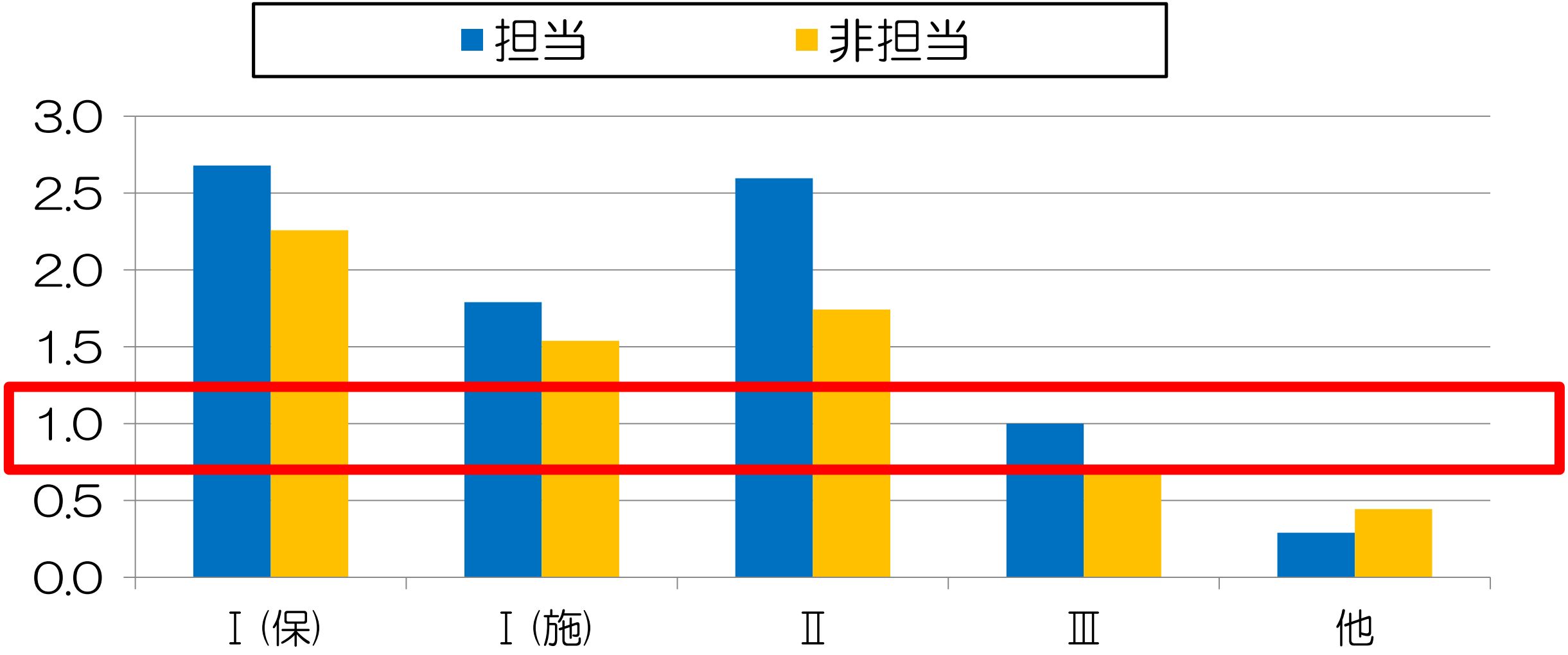
H24-25年度専門委員会調査研究報告書の専門性の枠組み

カテゴリー定義：
報告書p.160参照

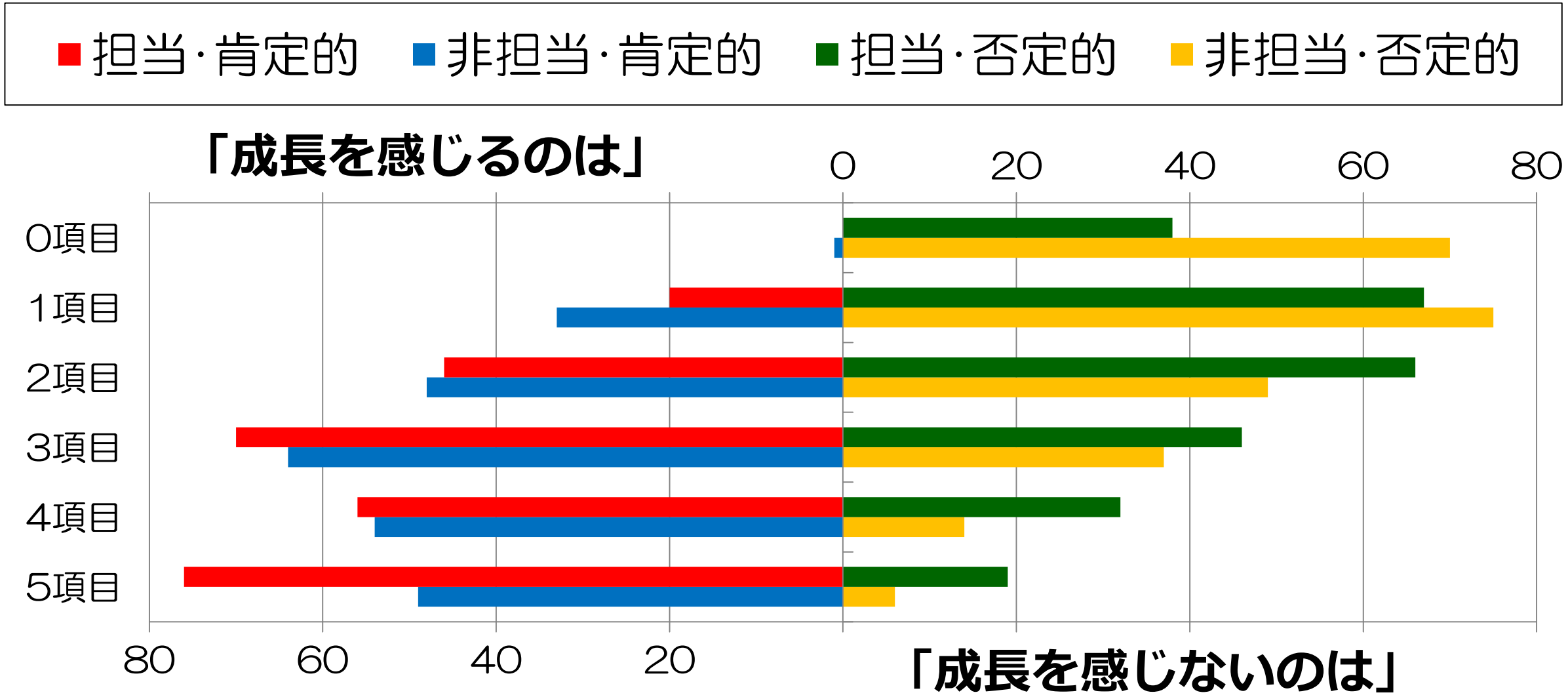
回答結果の概要

	質問紙の有効回答数	SCT回答者数	有効質問紙に対するSCT回答率（%）
担当教員	283	268	94.7
非担当教員	271	252	93.0

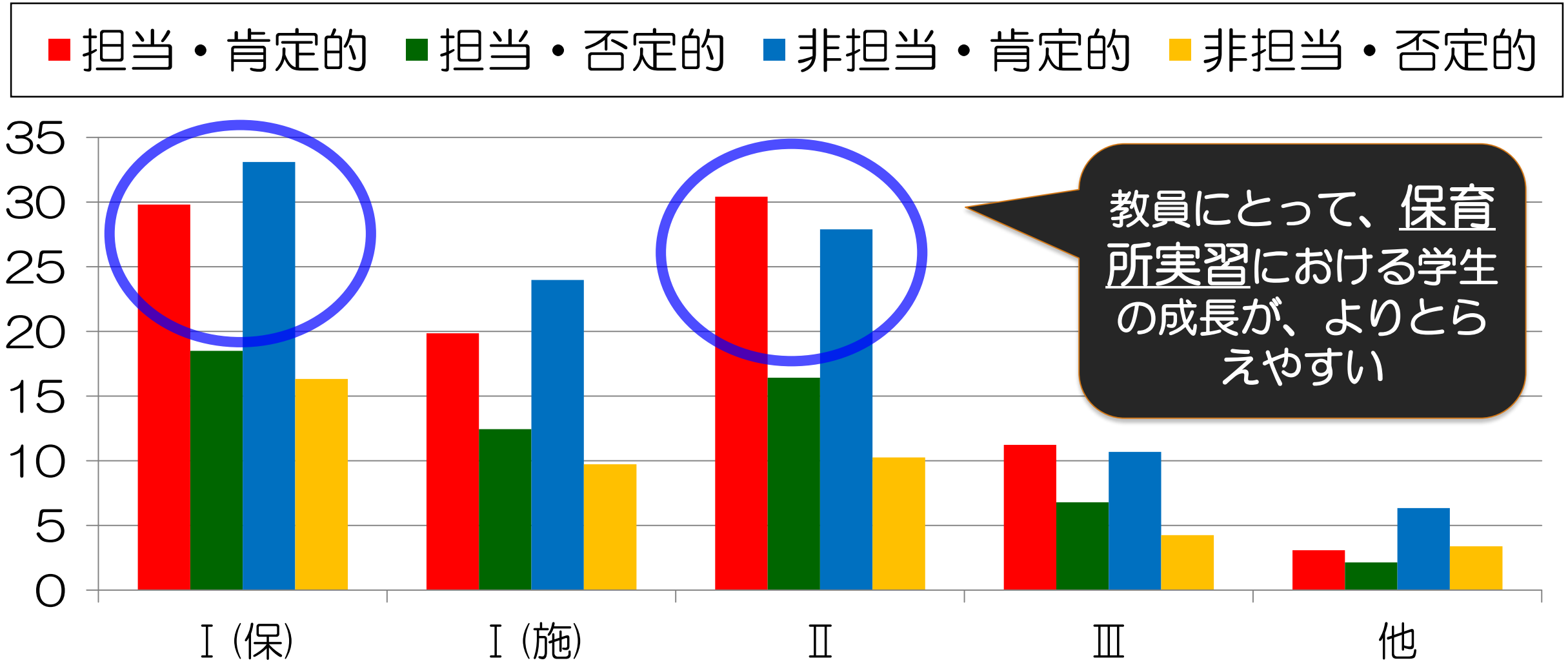
実習種別にみる学生の成長感
各実習に対する平均回答項目数



回答項目数ごとの回答者数



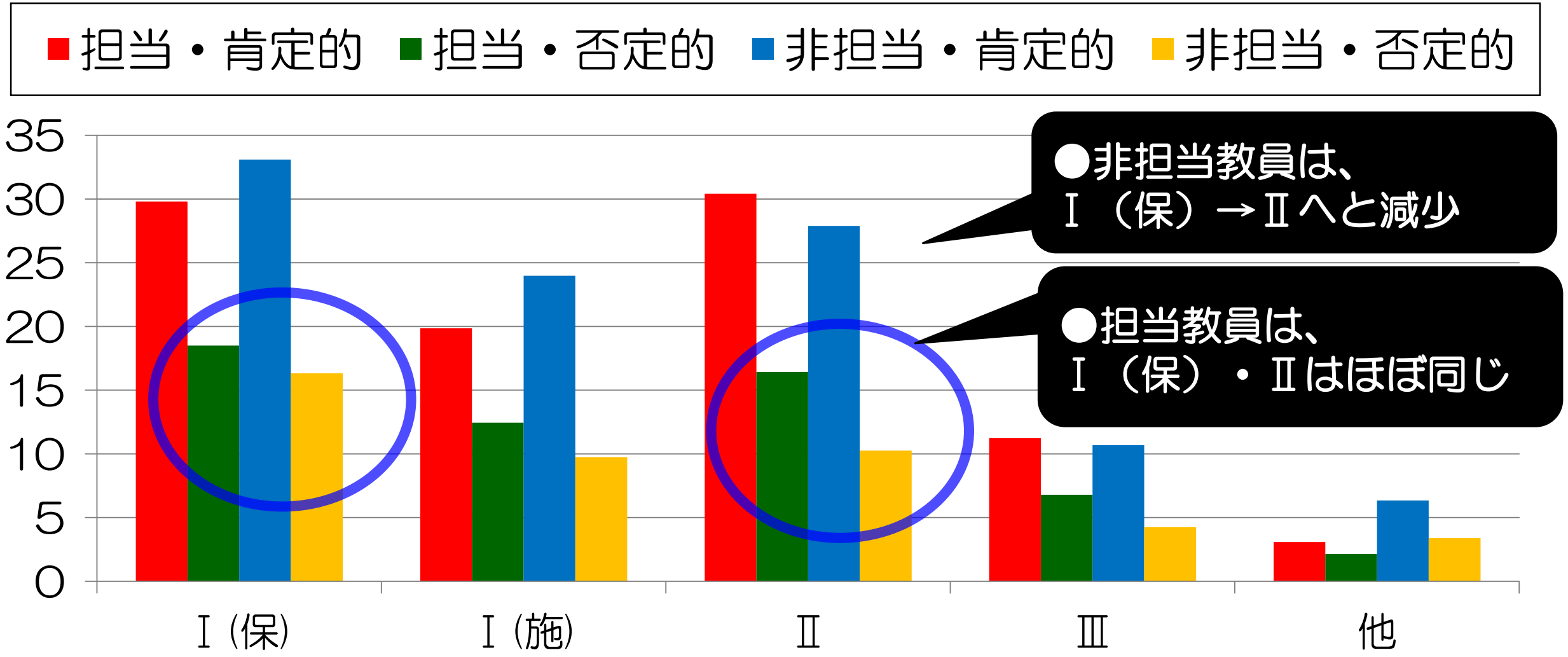
実習種別にみる学生の成長感
各実習種別に対する回答数の割合（肯定的側面）



「学生の成長を感じるのは（肯定的側面）」の回答例

	保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ
担当教員	体験から得た学びを自らの言葉で語るとき	障害があってもなくても、同じなんだと気づいた事	育ちや活動を見通して考えるようになったとき	子どもの幸せのために「自分にできることをしたい」と思うようになったとき
非担当教員	子どもと保育士との関わりの中から保育士の役割を学んでいる	実習の意義を考えて話せている点である	人（子ども）の前で堂々とパフォーマンスをしているとき	年齢相応の社会的判断が可能になってきている

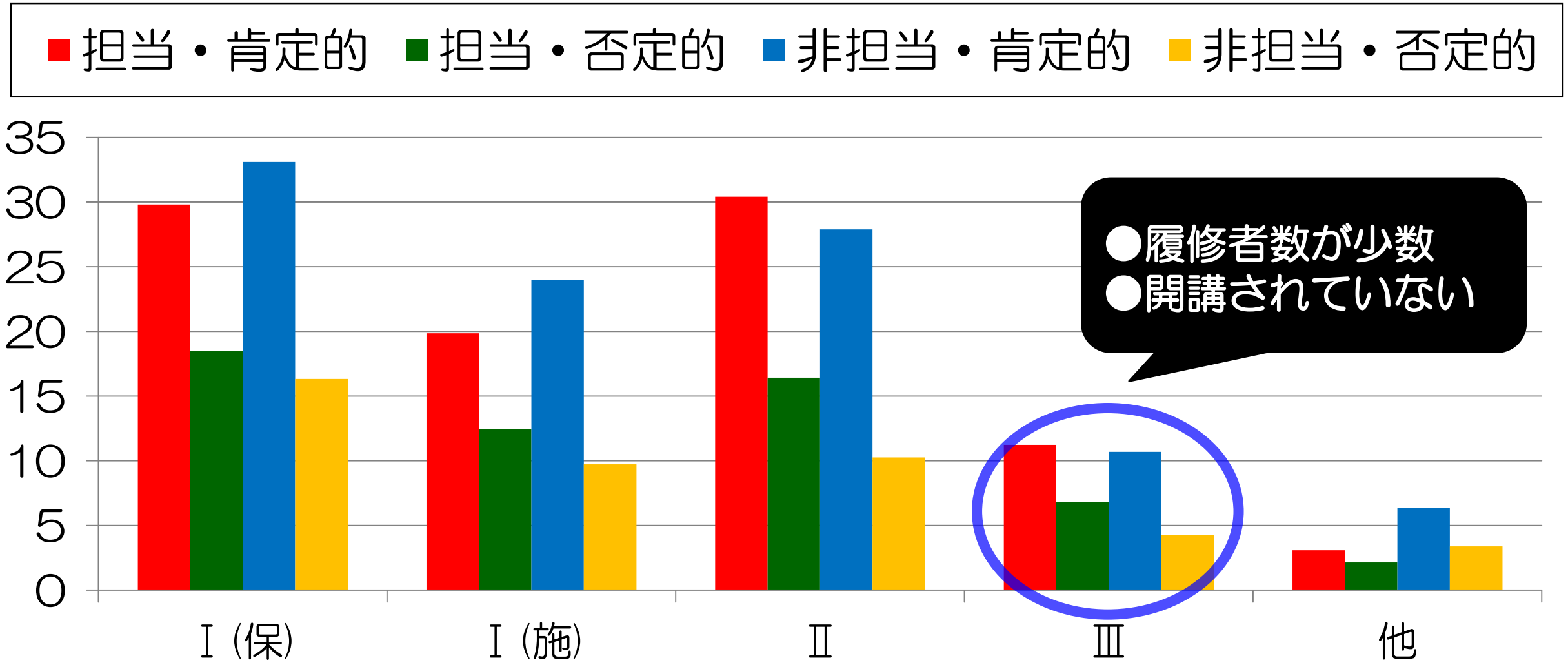
各実習種別に対する回答数の割合（否定的側面）



「学生の成長を感じないのは（否定的側面）」の回答例

	保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ
担当教員	自分の課題や問題点に真摯に向きあおうとしない	現場職員からの指導を受けても改善されない状態	主観で保育活動を理解していること	楽だからという理由で保Ⅲ選択する意識がある
非担当教員	てきぱきと行動できないとき	所定の実習日数をこなすことだけを考えている時	現場で出会った先生方への不満や不平を口にした時	実習全体を通して疑問や課題が見つからないとき。

各実習種別に対する回答数の割合（保育実習Ⅲ）

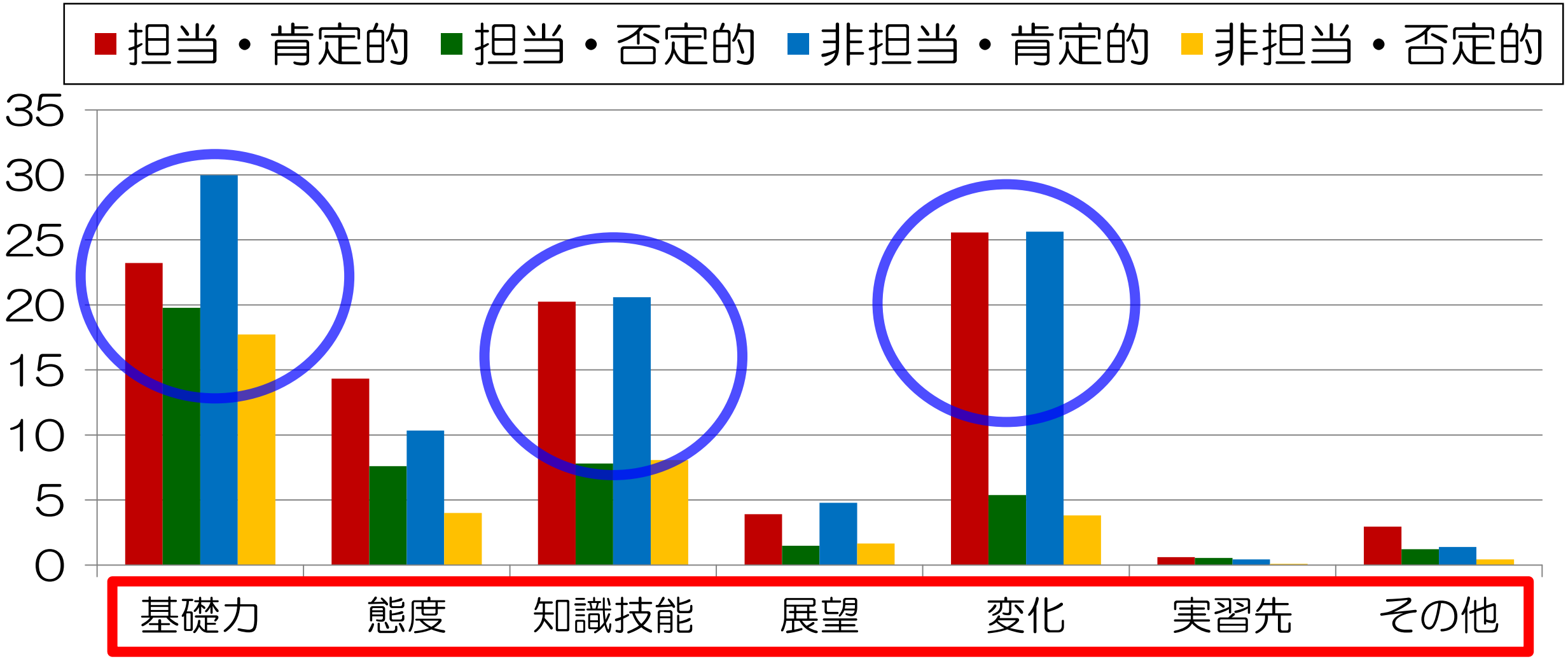


教員がとらえる学生の成長分析の枠組み（再掲）

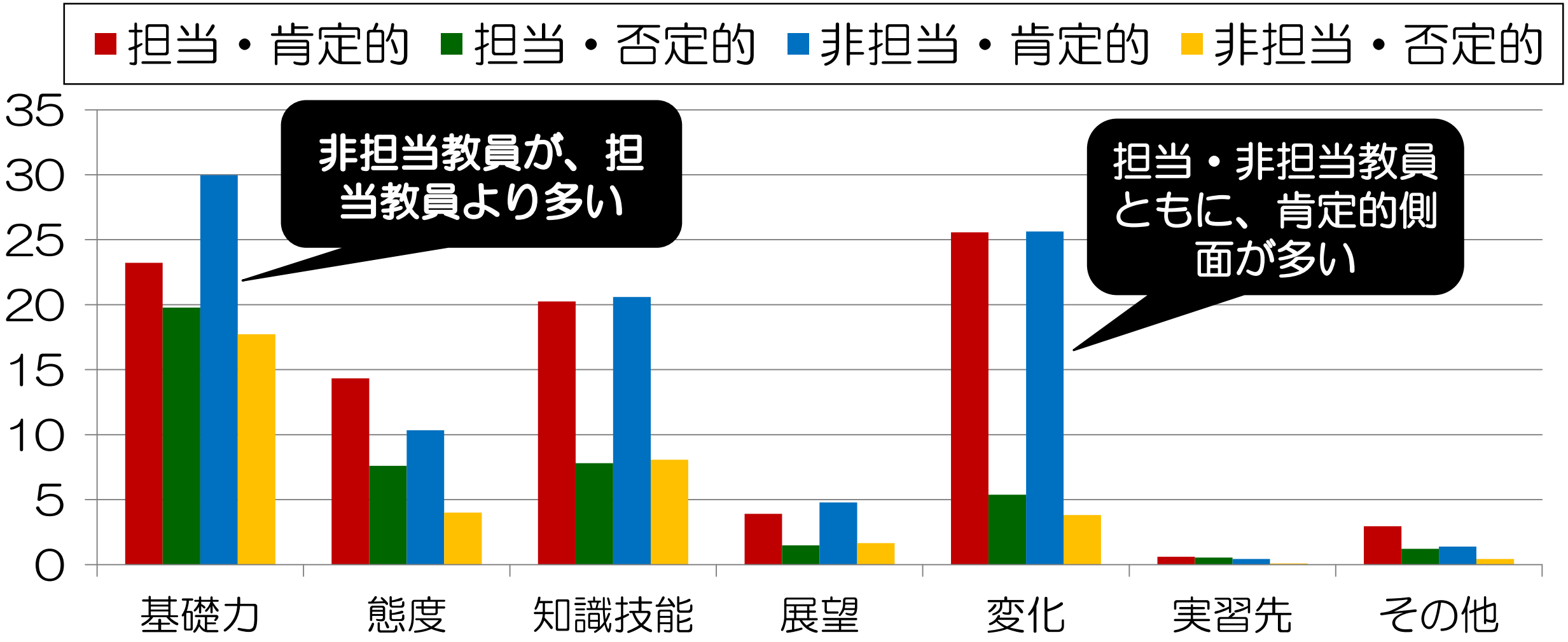
上位概念	カテゴリー
保育者の専門性の育ち	保育者基礎力
	保育に向かう態度
	専門的知識･技能
成長の時間	展望
	変化
他の成長感の反映	実習先からの評価・意見
その他	その他

H24-25年度専門委員会調査研究報告書の専門性の枠組み

SCT回答内容の回答者別割合



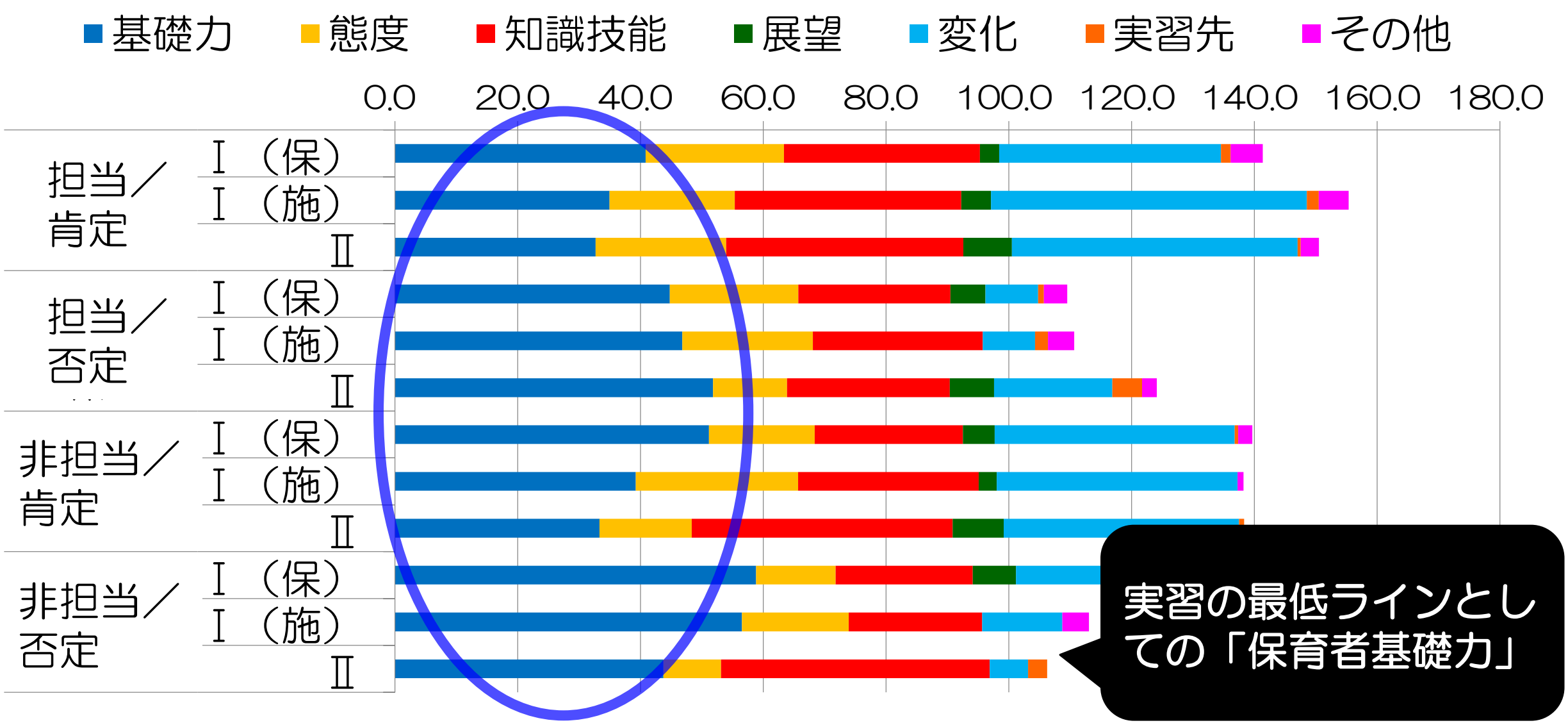
SCT回答内容の回答者別割合



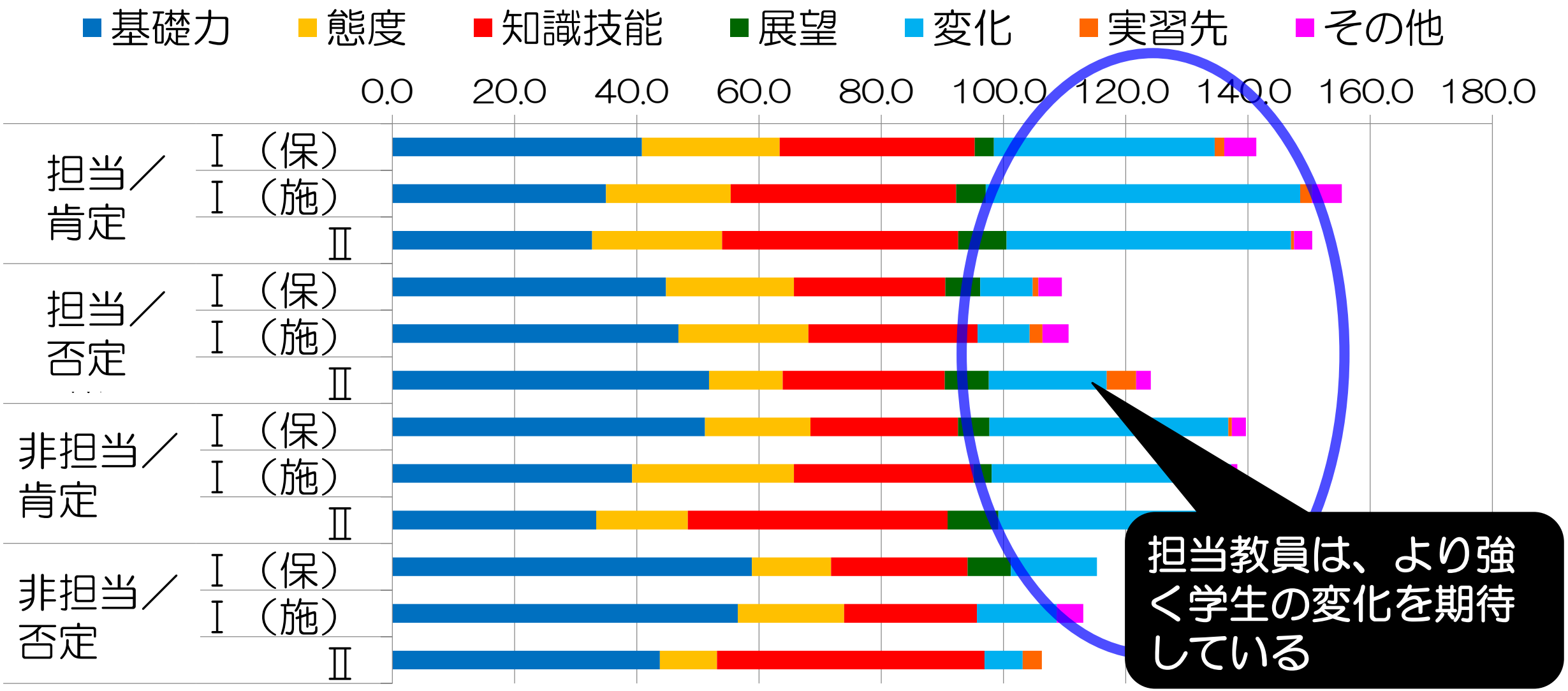
各カテゴリーにおけるSCT回答例

	基礎力	変化	知識・技能
担当／肯定的	自分から挨拶をする	子どもへの対応に悩むようになった	子どもや施設利用者の安全、健康への配慮の大切さを感じている時
担当／否定的	自分自身の生活態度を改めることができない	どの実習においても同じ課題がある	環境構成への気づきが不十分
非担当／肯定的	社会性を身につけた	落ち着きをもって回りの状況を見られるようになった時	臨機応変に子どもの気持ちによりそった保育の展開をした時
非担当／否定的	努力しないとき	子どもへの関心を持たなくなった	自分の指導力不足を子供のせいにする時

成長の内容と実習時期の関連
実習種別ごとのＳＣＴ内容の割合

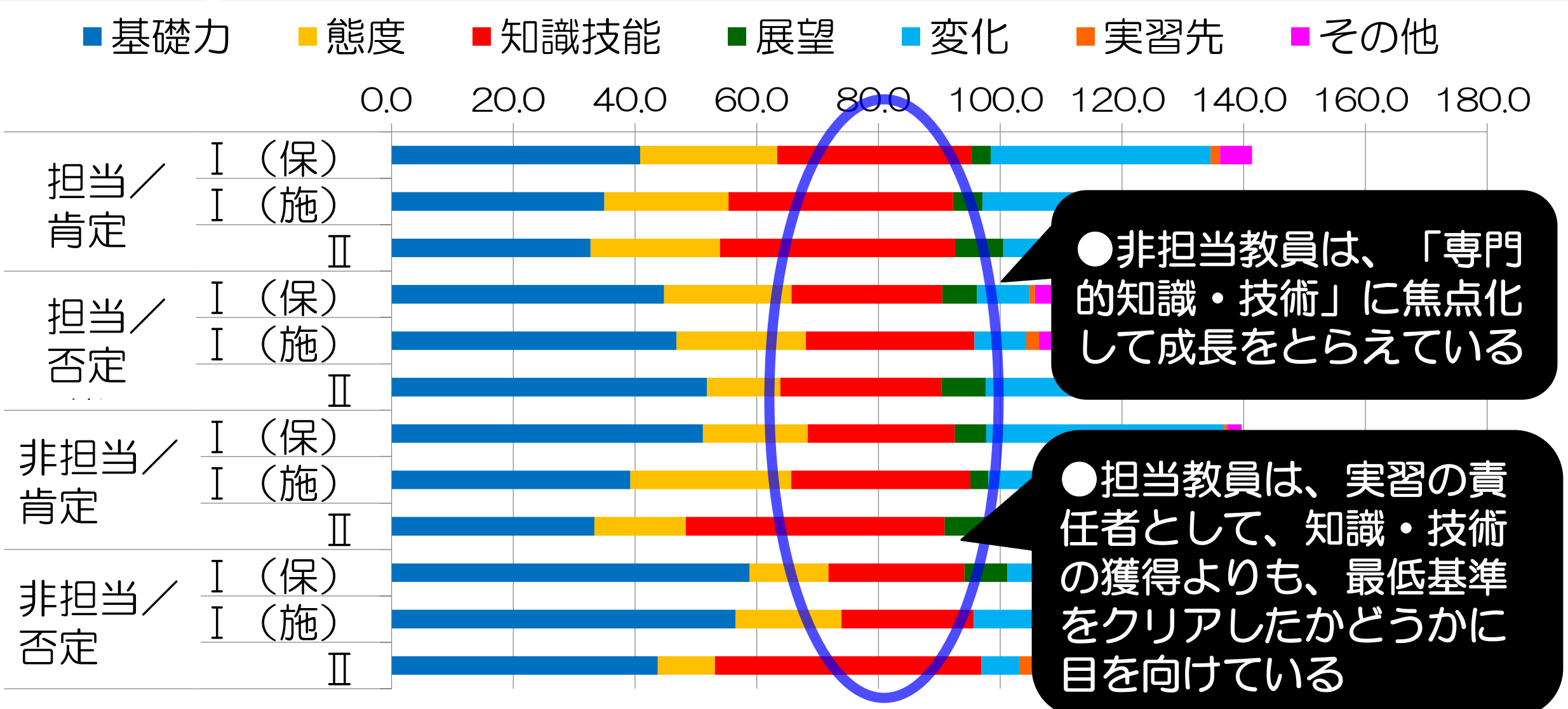


成長の内容と実習時期の関連



担当教員は、より強く学生の変化を期待している

実習種別ごとのＳＣＴ内容の割合



●非担当教員は、「専門的知識・技術」に焦点化して成長をとらえている

●担当教員は、実習の責任者として、知識・技術の獲得よりも、最低基準をクリアしたかどうかに目を向けている

まとめ

●担当教員は、非担当教員よりも回答項目数が多く、多角的に学生の成長をとらえているのに対して、非担当教員は、否定的側面に対する回答項目数が少なく、学生の成長をより肯定的にとらえている。

●担当教員、非担当教員ともに、保育所実習に焦点化して、学生の成長をとらえている。

●実習前後の学生の変化の有無が、学生の成長をとらえる指標となっている。

自由記述にみられる教員がとらえる学生の成長

第１節　担当教員がとらえる成長の要因と成長を促す工夫

第２節　非担当教員がとらえる成長の要因と実習指導との連携

第３節　まとめ

自由記述の設問内容

● 担当教員

D1．保育実習Ⅰから保育実習Ⅱ・Ⅲへとつながる実習を通して学生の成長をもたらしたと感じるものは何か、保育実習Ⅰから保育実習Ⅱ・Ⅲへの連続性・発展性を図るために工夫していることは何かなど、ご自由にお書きください。

● 非担当教員

H1．保育実習を意識した授業展開や実習後の振り返りを行う中で、学生の成長をもたらしたと感じるものは何か、保育実習指導の授業との連携について工夫していることは何かなど、自由にお書きください。

学生に成長をもたらしたもの

１．　具体的な実践を行う

２．　保育者という役割を果たす

３．　自己を見つめ直す

学生に成長をもたらしたもの

１．具体的な実践を行う

●担当教員

現場の保育を体験することで、保育を実際的に捉えることができるようになり、保育士として活動するときの自分自身の明確な課題や目標などを理解できるようになったからと思う。

●非担当教員

机上で学んでいた事を、実際現場で体験し、他者（目上の方、同僚）との交わりの中で、またこども達とのふれあいの中で心も身体もたくましくなり、受身で対処していた学生が積極的に授業に臨むようになったこと。

学生に成長をもたらしたもの

２．保育者という役割を果たす

●担当教員

実習先で自分がやったこと、かけた言葉などに子どもや利用者さんが反応して下さることで、自分自身の影響力を実感するとともに、責任感が芽生えるように感じています。

●非担当教員

子どもであれ、施設利用者であれ、自分が気配りや見守りやお世話をしなければならない立場に置かれることによると思います。普段は（それまでは）してくれる、してもらう立場にあることが多かったので、戸惑いも多いようですが。

学生に成長をもたらしたもの

３．自己を見つめ直す

●非担当教員

内省すること。表面的な知識やスキルを身につけることや、実習等の経験をすることだけでよいというものでもない。じっくり考えて、自分なりの考えを持ち、他者とそれについて話し合う時間を持つことが大切。

●担当教員

実習Ⅰでの子どもとの関わりや担当保育士等との関わりを通して、楽しかった事や、悩んだ事を、友人や教員と話す事によって反省し、子どもに対する思いを新たにしている事が成長をもたらしたものと思います。

連続性を図る工夫＜担当教員＞

１．実習の記憶が鮮明な早い段階での事後指導の実施

直後指導、事後指導を少人数で実施していることで、実習でマイナス感情を抱いて終えても、フォローすることができており、次の実習にむけて課題や目標を見い出せているように思う。

２．実習指導にかかわる者同士の共通理解、科目間連携

その他の授業と連携をとりながら、指導案に沿って責任実習をしたり保育実技の発表をするなど自らの知識や技術、専門性を高めていけるような授業の展開、工夫を行っています。

連続性を図る工夫＜担当教員＞

３．実習施設との連携

大学の併設幼稚園や子育て支援施設、地域貢献連携施設での実習や経験の機会をつくり、実習（カリキュラム）以外の現場経験と、それらに関連する授業等での連携の成果と考えます。

４．異なる種別での実習体験の積み重ねによる学生の対応力の向上

保育者との出会いによって、その後の「保育者になりたい」意欲を高めたり低くめたりもするため、Ⅱ・Ⅲへのつながりとして、様々な園や施設があることを伝え、自主実習などを促し、カリキュラムでの実習以外の経験をすすめている。

実習指導と授業との連携の工夫＜非担当教員＞

１．実習を意識した保育技術に関する授業の展開

保育実習指導の授業と連携して、担当科目に関わる指導案や教材研究に取り組ませています。実習前に十分に準備ができ、より有意義な実習になると考えています。

２．実際のエピソードを取り入れた授業の展開

実際に実習であった出来事について、ディスカッションを行うと、他の学生が真剣に討議をする。振り返りはとても有意義である。自分がその場にいたらどうしていたであろうなど、意見が飛び交う。

実習指導と授業との連携の工夫＜非担当教員＞

３．保育者としてのマナーや姿勢に関する指導

授業の中だけではなく、自己の生活を見直す機会を与える。子ども達の前で恥ずかしくない自分であるか、子ども達に慕われる保育士となるために、自分に必要なものは何か、足りないものは何かを考えさせる授業及び生活指導を心掛けている。

おわりに

おわりに　実習指導の「今」をとらえる試み

- 平成24－25年度専門委員会課題研究「保育者の専門性についての調査」
  → 保育者の専門性向上のためには、養成段階から”自ら成長する保育者”という視点を持った取り組みが求められる。

- 保育士養成課程検討会（2010）『保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）』
  → 「実践力や応用力をもった保育士を養成するため、実習や実習指導の充実を図り、より効果的な保育実習にすることが必要である」

おわりに

実習指導の「今」をとらえる試み

- 実習指導の充実化は図られているのか？
- 保育実習および保育実習指導Ⅰから Ⅱ又はⅢへの指導の連続性・発展性はどのようになされているか？
- 学生の自己成長感は保障されているか？

おわりに

実習指導の「今」をとらえる試み

- １．養成校は今、
- ２．実習指導体制
- ３．実習指導内容

  事後指導の内容と方法／実習指導のねらい／評価
- ４．実習を通した学生の成長感

＋

- ヒアリングに続くものとして、

  実習指導の連続性・発展性のための工夫点

おわりに　養成校は今、

所属校の概要

- 会員校数　330校→489校　約1.5倍増
- 校種　回答校のうちの4年制の割合　13.0%→34.6%
- 学生定員

- 急激な養成校の開設と、４年制の養成校の増加
- 新規採用教員の多さ
- 保育の現状や学生の現状に対する認識不足を実習先から指摘

おわりに

実習指導体制（１）

実習指導担当教員

- 総人数
- 指導分担
- 教員組織
- 実務経験者

担当教員数は平均4.3人　やや増加

保育所と施設担当、保育所と幼稚園担当は別傾向
ＩとⅡ、ＩとⅢは同一担当者が多い

実習指導検討組織あり５４％　／　担当に一任１３％

保育・福祉分野の実務経験者が含まれる割合は約９０％

➡少数の担当者に任すのではなく、保育現場の実態をふまえ、チームを組んで実習指導に取り組む体制が指向されている

おわりに

実習指導体制（２）

訪問指導

- 実施体制　７６％が学科教員全員で訪問指導
- 内容把握法　報告書と必要に応じて口頭で５９％

- 学科全体で実習訪問指導に取り組むことが訪問指導の主流
- 報告書作成は必須事項
- 話し合いや情報交換の機会をもつだけでなく、「学内メール」など、多様なツールを活用して情報を共有し、訪問指導の充実化を図る

おわりに

実習指導体制（３）　実習非担当教員の関与

保育実習とのかかわり

- 実習指導授業関与
- 訪問指導関与
- 訪問情報共有

２８％が実習指導科目の一部を担当
９１％が訪問指導担当
８４％が訪問指導情報を共有

実習指導授業の一部を担うことで、「実習指導内容理解」は高くなり、訪問指導の情報共有もすすむ。「実習を意識した授業展開」がされ、「実習に向けた課題や振り返り」も　なされていた。

おわりに

実習指導体制（４）　実習担当外教員の関与（続き）

保育実習とのかかわり

- 実習指導授業関与
- 訪問指導関与
- 訪問情報共有

訪問指導の情報共有ができている教員ほど、「実習指導内容理解」、「実習を意識した授業展開」、「授業内での実習に向けた課題や振り返りの実施」、「訪問指導の内容の授業反映」の割合が高い

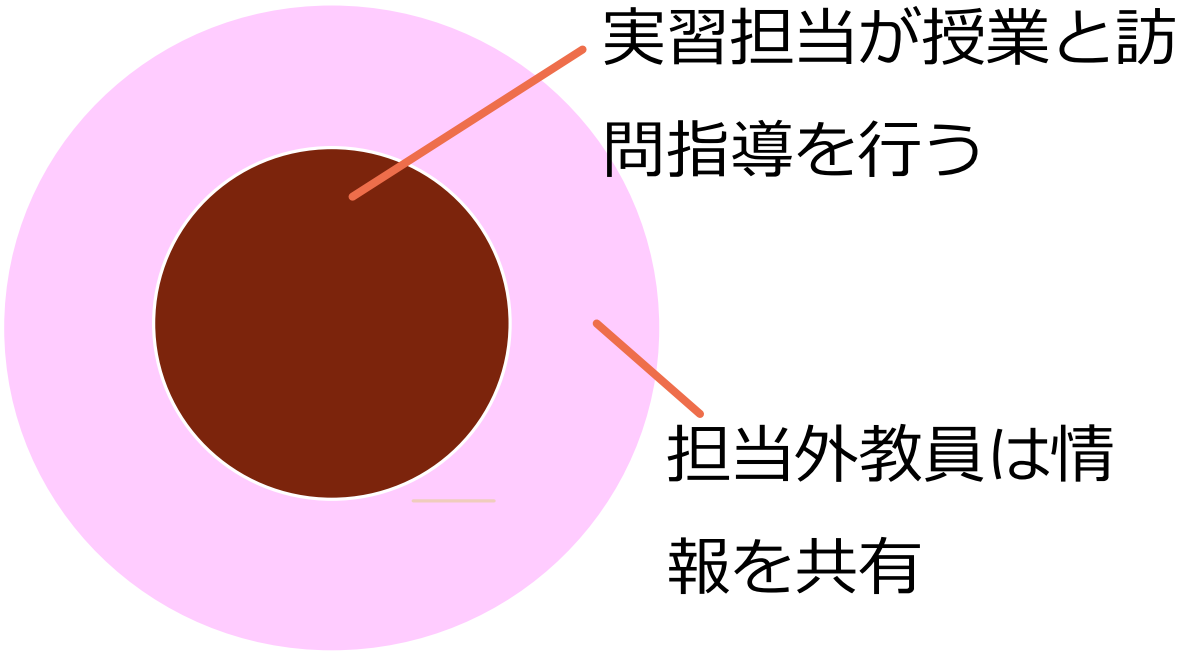
- 単に全員で訪問指導を行うのではなく、その情報を共有し話し合う機会をもつことが重要
- 4年制養成校の非担当教員では、「訪問指導の情報共有」、「実習指導授業内容の理解」、「実習を意識した授業展開」、「実習に向けた課題や振り返りの実施」など、実習自体への意識が低い傾向がある

→ 授業終了後に実習を行う4年制カリキュラムの課題

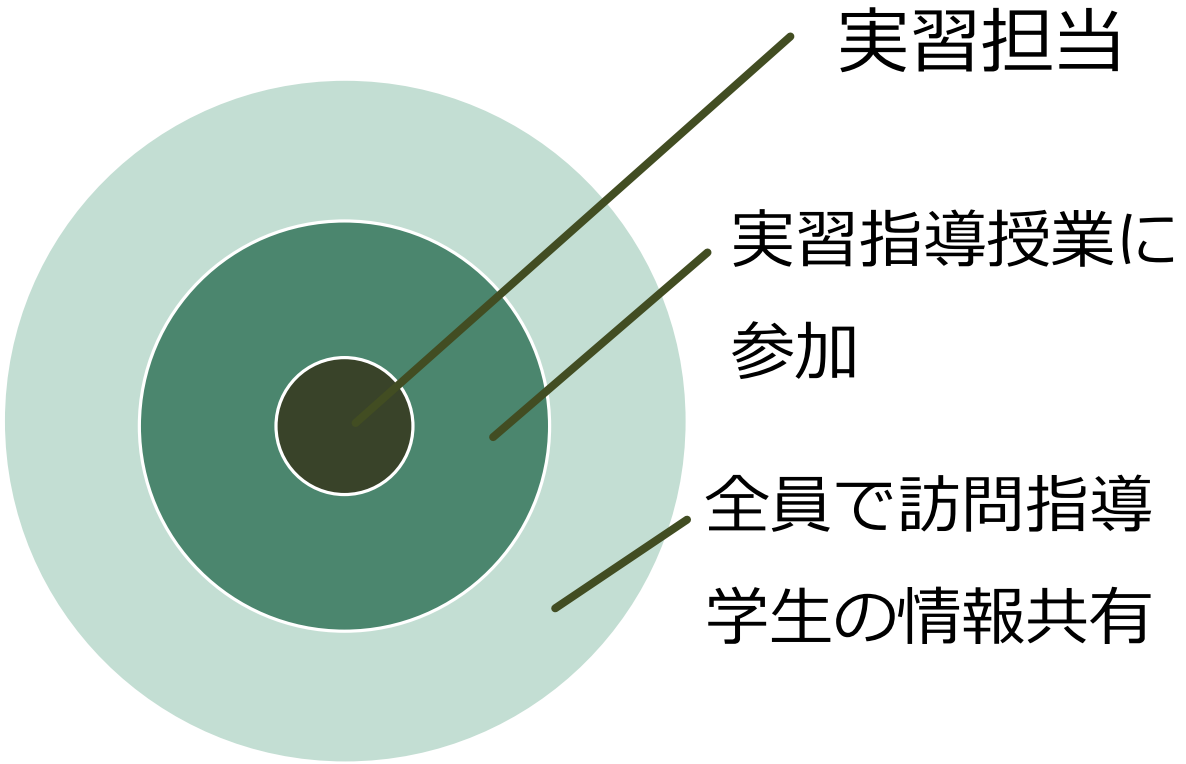
おわりに

実習指導体制（５）　誰がどのように指導するのか？

A.実習指導の専門性を意識したモデル（社会福祉士、介護福祉士、管理栄養士など）



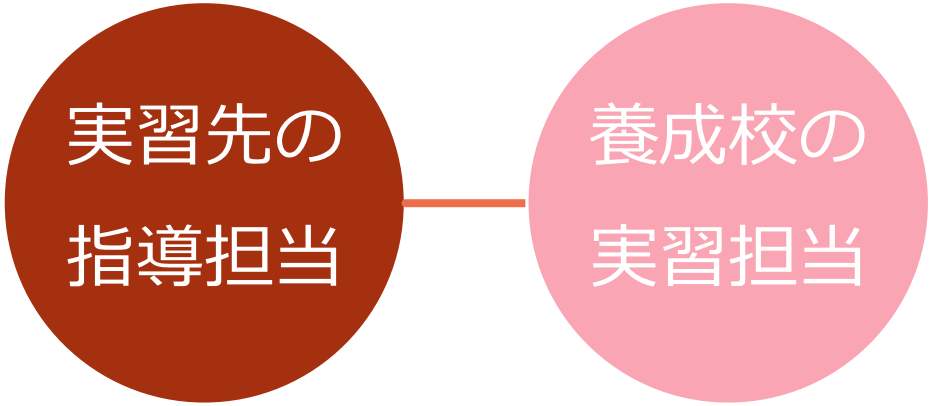
B.学科全体で実習に関与し養成するモデル（保育士）



おわりに　実習指導体制（５）　実習指導の専門性をどう考えるのか？

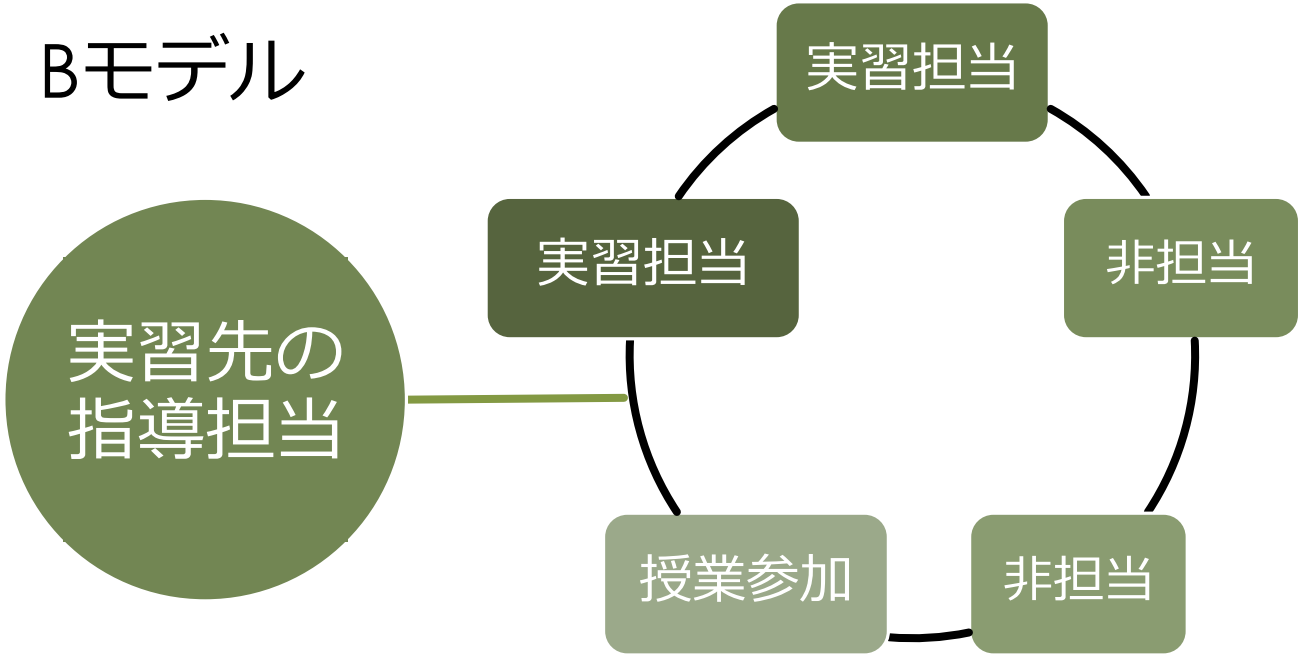
保育士の専門性向上をどのような体制で実現しようとするのか？

Aモデル



実習内容の標準化と相互研修による専門性向上と質の確保

Bモデル



学科内カンファレンスおよびネットワーク構築と実習内容を反映した授業展開

おわりに

実習指導内容（１）シラバス実施状況

	保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅲ
十分な＋まあまあ時間を取っている	実習生としての心構え	実習の総括と自己評価	保育の概要
	実習の内容	保育に対する課題や認識の明確化	実習の目的
	実習の目的	実習の目的	実習の総括と自己評価
他の科目との連動	子どもの人権と最善の利益の考慮	保育の表現技術を生かした保育実践	子どもの保育と保護者支援
	プライバシーの保護と守秘義務	子どもの保育と保護者支援	保育の表現技術を生かした保育実践
	実習における計画と実践	子どもの状態に応じた適切な関わり	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解

おわりに

実習指導内容（２）シラバス実施状況（つづき）

- 実習指導は「保育実習指導」の授業内で完結するものではない

→ 当該領域の授業で、より専門性の高い内容を扱う
「保育実習指導」が、実習オリエンテーションと
保育者基礎力アップの授業になってしまわないか？

- 実習指導は実習担当教員だけで完結するものではない

→ 「保育実習指導」に各領域の教員が参加する
実習に依拠した各領域の専門性追求により、実習内容の
充実が図られる？

おわりに

実習指導内容（２）シラバス実施状況（つづき）

- 「保育実習指導」授業では、何を指導しようとするのか？
- 学生から「保育実習指導」授業はどのように見えているか?
- 対人援助職の専門性とその資質向上にかかわる課題ではないか?

cf.社会福祉士の実習指導授業では･･･

おわりに

事後指導の内容と方法

- 実習指導の授業において、事前指導の必要は自明であるが、事後指導はどうなされているのか？

- 実習体験を学生自身が意味づけ、自己課題を見出し、次の実習に対して目標を明確にして臨むという、Ⅰ→Ⅱ・Ⅲ、実習生→保育者への架け橋になるのが、事後指導（振り返り／省察）である

- 「実習の総括と自己評価」、「新たな課題と学習目標の明確化」といった事後指導項目は、多くの授業外の時間の中で、学生の個別性と全体性を考慮に入れて、連続性を意識した形で実施されている

おわりに

事後指導の壁

- 実習事後指導を授業外で行う／行わざるを得ない状況がある
- 「授業外の時間にグループまたは個別指導を行う」「授業外のコマを取って全員で行う」

→ 個別性の高い体験の振り返りを学生の課題や体験した内容に応じて、丁寧に行っている

→ 授業外にせざるを得ないカリキュラム状況に置かれているからではないか？

→ 実習担当教員のシャドーワークになっていないか？

おわりに

事後指導の壁（２）

- 実習と実習指導の充実化のために「保育実習指導」の独立化・単位化が図られたが、現実は・・・
- 事前／事後指導を網羅できる授業にするためには、どのようなカリキュラムの工夫を行えばいいのか？

おわりに　事後指導のツールと方法　連続性／発展性を意識して

- 事後指導のツールとして、「実習ポートフォリオ」「履修カルテ」など、2年3年4年間の学習の積み重ねの中での知識・技能の獲得や対象理解の深まり、実習に際しての意識の変化などを、学生自身が記録することを通して確認していくようなツールを用いる傾向がみられた。（修業年限の長い4年制養成校の特徴）

- 学生自身が自己の学びを認識し、自己の成長を確認できる有効性の高い方法とツールはあるか？

おわりに

「保育実習指導」の評価

保育実習指導の評価に際して1番目に比重が高い項目

順位	保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅲ
1	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子	授業参加状況や受講態度、積極的参加の様子
2	課題の提出状況（期日厳守や規定枚数などの提出条件の達成度）	課題の提出状況（期日厳守や規定枚数などの提出条件の達成度）	実習に取り組むための自己の課題設定や目標設定の内容	実習に取り組むための自己の課題設定や目標設定の内容
3	実習先からの評価	実習先からの評価	実習先からの評価	実習先からの評価

おわりに

「保育実習指導」の評価

- 実習と実習指導の評価の関係は?連動するのか、独立なのか？
- 実習先からの評価のどういう内容部分が「保育実習」ではなく「保育実習指導」の評価に反映されるのか？

→ 「保育実習」から「保育実習指導」を独立させたことによって生じた問題？

おわりに

教員がとらえた実習を通しての学生の成長

- 教員がとらえる学生の成長の内容

①保育者基礎力　→成長しなかったことの基準として。

②変化　→具体的な成長の内容だけではなく、変化の有無に焦点化されている。

③専門的知識・技術

→担当教員は、知識・技術をより領域特徴的にとらえている。

→非担当教員はより一般的な知識・技術としてとらえている。

おわりに

教員がとらえた実習を通しての学生の成長

- 実習が成長の契機となり、自己覚知、自己認知、職業としての適切性の検討が促されることには異論はないであろう。
- その成長を、教員がどのようにとらえているのかは、実習によってどのような力を育てようとしているのかという，養成校が目指す保育者像であり養成の理念の反映であろう。
- 学生がどこに自己成長を感じるかは、教員が何を保育者の専門性ととらえ、どのような側面での成長を期待しているのか、それをどのように実習指導に反映させているのかということと表裏一体となっているのではないか。

おわりに

教員がとらえた実習を通しての学生の成長

- 保育者基礎力が最も回答が多い内容であったり、具体性の乏しい変化のとらえで、保育者の専門性向上を目指す実習指導がなされているといえるのか?

- 教員が保育現場と協働して実習指導にあたろうとするとき、その中心に学生自身の実習への主体的取り組み意欲と成長感を置かなければ、主人公不在の協働となってしまうだろう。

おわりに　保育実習Ⅰから保育実習Ⅱ・Ⅲへの連続性・発展性を図るために工夫していること（自由記述）

- 実習の記憶が鮮明な早い時期に事後指導を行う
- 実習指導にかかわる者の間の共通理解のために科目間の連携、実習施設との連携を図る
- 異なる種別での実習体験の積み重ねによる個々の学生の対応力の向上をとらえることの必要性が指摘　　etc.

たくさんのご意見に感謝！

これからのヒアリングでうかがいたいことです！

おわりに

保育実習Ⅰから保育実習Ⅱ・Ⅲへの連続性・発展性を図るために工夫していること（まとめ）

実習を通しての学生の成長がもたらされるためには；

- ［実習事前指導ー実習ー実習事後指導］という一連の流れの中でタイミングよく指導が行われること
- 実習指導の内容と方法が適切であること

↓

実習および実習指導のシークエンスの検討が教員側の重要課題

実習指導のねらい、振り返りの方法とその意義、関連教科との連携についての一層の明確化、具体化により、学生からみて分かりやすいものにすること

おわりに

平成27年度の専門委員会の活動
専門委員会分科会

明日の第２分科会（札幌市教育文化会館305会議室）

「　専門委員会報告を深める　」

- 学科全体の連携による実習指導の可能性について（Bモデル）
- 専門（職）性を担保する実習指導内容とそのための実習指導者研修（Aモデル）

おわりに

平成27年度の専門委員会の活動
ヒアリング調査の実施

協力申し出校　７８校

- 実習と実習指導のシークエンスの工夫
- 実習指導の連続性を図る工夫　　のインタビュー

- 実習指導の実践を共有することで討議の場をつくり、保育者の専門性と養成の質向上につながっていくように。
- 多様性を尊重しながら。

ご清聴ありがとうございました

平成26－27年度専門委員会